

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2020年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
教育原理	1
子どもの理解と援助	3
保育内容（健康）	5
保育内容（人間関係）	7
保育内容（環境）	9
保育内容（言葉）	11
保育内容・造形的表現	13
保育内容・総論	15
基礎実習指導	17
ピアノⅠ	19
ピアノⅠ再履修	22
幼児音楽Ⅰ	25
造形表現（表現）	28
子どもの健康と運動遊び	31
子どもの保健	34
子ども家庭福祉	36
保育者のための文章表現	38
特別支援と保育Ⅰ	41
保育原理	43
教育心理学	45
幼児理解とカウンセリングマインド	47
教育課程論	49
保育者論	51
保育・教職実践演習(幼稚園)	53
教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）＜実習指導＞	55
教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）＜実習＞	57
教育実習Ⅱ（事前事後の指導を含む）＜実習指導＞	59
教育実習Ⅱ（事前事後の指導を含む）＜実習＞	61
ピアノⅡ	63
幼児音楽Ⅱ	66
子ども家庭支援の心理学	69
子どもの健康と安全	71

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2020年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
幼児教育の方法と技術	73
総合表現（ぐりとぐら）	76
特別支援と保育ⅠⅠ	79
社会福祉	81
合唱	83
演技実習	86
社会的養護Ⅰ	88
子どもの食と栄養	90
乳児保育Ⅰ	92
乳児保育Ⅱ	94
子ども家庭支援論	96
保育所実習Ⅰ	98
保育所実習Ⅱ	100
保育実習指導Ⅰ（保育所）	102
保育実習指導Ⅱ（保育所）	104
児童福祉施設実習Ⅰ	106
保育実習指導Ⅰ（施設）	108
社会的養護Ⅱ	110
子育て支援	112
情報機器の操作	114
英語（外国語コミュニケーション）	116
健康・スポーツ	119
保健体育	121
法学（日本国憲法）	123
ビジネス講座（秘書検定対策）	125
ウィンド・バンド1	127
ウィンド・バンド2	130
ミュージカル	133
特別研究（ゼミ） 黒須	135
特別研究（ゼミ） クリス	138
特別研究（ゼミ） 谷上	141
特別研究（ゼミ） 堀	144

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2020年度 シラバス一覧

科目授業名		ページ
特別研究（ゼミ）	石濱	147
特別研究（ゼミ）	和気	150
特別研究（ゼミ）	古田	153
特別研究（ゼミ）	秋山	156
特別研究（ゼミ）	高橋・井上	159
パイプオルガン1		162
パイプオルガン2		165

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

- 1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している
- 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している
- 3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている
- 4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている
- 5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる
- 6、高い倫理観に基づき、自信の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している

- 1、主題・到達目標にて 6つのうちのどのディプロマ・ポリシーと関連性があるのか、文末に記載（例： DP①、②）

科目名	教育原理	授業コード	YK4115**	科目コード	YK4115
担当教員	柳井 郁子・山口 理沙				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

<主題>

教育とは何か、学校とは、そして学ぶとはどういうことかを考える。また、教育学は何を課題としてきたかについても学ぶ。

<到達目標>

- ・教育の意義、目的及び基本的概念について理解する。DP②
- ・教育の思想及び歴史について理解する。DP②
- ・保育者として現代の教育をめぐる諸課題について自ら考え、自分の意見をもち議論できるようになる。DP①

2. 授業概要

基本的に講義形式だが、教育実践例の検討等については映像資料を活用し、議論の機会を設ける予定である。学校や保育の現場における授業実践、及び家庭や地域社会における教育の方法・内容・制度についても取り上げ、さまざまな教育の場における現代的課題について考える。保育者になるためには教育や子どもに対する多様な見方・考え方を理解し、自らも保育観・子ども観について常に考え続けることが必要である。そのため、グループ学習やディスカッションを多く取り入れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

広範な学習内容になる。教育関係の図書資料をできるだけ多く読み、新聞やテレビ等、毎日の報道からも材料を得て、意欲的に学習を進展すること。また、授業で紹介する参考図書については、できるだけ多く読むこと。

次回の授業の予習として、該当箇所を読んでくること。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点<授業内の課題及びレポートについては、その内容の充実度を評価する。授業への参加姿勢については、授業内での発言やグループワークの発表における積極性や深く考察できているかどうかを評価する。>（評価の50%）

第15回目の授業時間内に実施する確認テストにより、内容についての理解度を評価する。（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト:

『やさしい教育原理』<第三版>田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著（有斐閣）2016年

参考文献:

『子育て・教育の基本を考える -子どもの最善の利益を軸に-』堀尾輝久著（童心社）2007年 1760円

『幼稚園教育要領解説』<最新版> 文部科学省（フレール館）

『保育所保育指針解説書』<最新版> 厚生労働省（フレール館）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』<最新版> 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレール館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。

随時学生からの発言を求めらるので、積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業のねらい、進め方及び授業の受け方についての説明）
2	教育とは何か
3	教育と子ども家庭福祉
4	学校とは何か
5	子どもとは何か
6	子ども観の歴史的変容
7	教育の歴史①近代公教育制度の成立
8	教育の歴史②戦後の学校教育
9	子どもの権利
10	教育の思想
11	教育の制度
12	教育実践の可能性①保育の実践例を考察する
13	教育実践の可能性②学校教育の実践例を考察する
14	生涯学習社会における教育と私たちの課題
15	14回までの講義全体のまとめと理解度の確認

科目名	子どもの理解と援助	授業コード	YE4148**	科目コード	YE4148
担当教員	山本 有紀・岡本 かおり				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】

- ・子どもの生活や遊び、活動における心身の発達と学びの過程、およびその援助について学ぶ。
- ・子どもを理解するための保育者の基本的な態度や姿勢、視点を理解し、子どもを理解する具体的な方法について学ぶ。

【到達目標】

- ・個々の子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義と実際について理解する。 DP②、④
- ・発達援助のための保育者の視点や態度の基本を理解し、保育援助での留意点を自分の言葉で説明できる。 DP①、②、③、④
- ・観察や記録、振り返りを中心とした子どもの理解についての具体的な方法を知る。 DP②
- ・保育者としての自覚をもち、将来の保育実践において子どもの理解と援助での重要な点を意識することができる。 DP①、③、④
- ・発達援助のための家庭とのつながりや保育者同士の対話の重要性を理解する。 DP②、④

2. 授業概要

- ・保育における子どもの理解の意義について理解し、共感的理解をはじめとする子どもとの関わりでの保育者の視点や態度の基本を学ぶ。
- ・子どもの生活や遊び、体験や学びの過程についての理解を深め、個と集団の育ち、子ども相互の関わり、葛藤やつまずき、子どもを取り巻く環境の重要性について多面的に学ぶ。
- ・子どもの理解のための観察や記録、振り返りについての具体的な方法を学ぶ。
- ・個々の子どもの心身の発達に応じた援助や、家庭との連携、保育者間の対話による子ども理解の深まり、就学に向けた発達の連続性を意識した援助について学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習と復習の詳細な方法は、担当教員の指示に従うこと。テキストの該当章や、担当教員が配布した資料を読み、予習をすること。また、授業後は、学んだことをどのように保育実践に活かしていけるのかを自分なりに考え、まとめること。テキストや配布資料を読み返すとともに、紹介した参考文献から考えを広げていくような復習をおこなうこと。尚、子どもの映像についてのレポート、実習日誌や実習でのエピソードを元に考える課題などを予定している。予習復習、課題の作成のための文献検索、資料収集と作成に90分を想定する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点として授業への参加姿勢およびコメントペーパーの提出状況50%、授業内容の理解度の確認のためのレポート課題50%
成績評価のさらに詳細な方法は、各教員より授業時に説明する。担当教員より予め指定したテーマのもと、レポート課題を作成して指定の授業回に持参し、教員による講義と解説ののち、提出をする。保育者の子どもへのまなざしや子どもを理解する視点について、自分の言葉で理解し、保育現場で実践していけることを目指す。具体的に自分の言葉で説明するレポート課題を作成、提出し、授業内でさらに解説することで理解を深める。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察をしているかどうかを確認し、平常点と合わせて総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『新しい保育講座3 子どもの理解と援助』 高嶋景子・砂上史子 編著 2019年 ミネルヴァ書房
授業内で、適宜資料を配布する。

参考文献：

- ・『エピソードで学ぶ 保育のための心理学 子ども理解のまなざし』 塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵 著
2019年 新曜社 ¥2,310
- ・『発達心理学で読み解く保育エピソード ー保育者をめざす学生の学びを通して』 若尾良徳・岡部康成 編著
2010年 北樹出版 ¥2,090
- ・『幼児理解に基づいた評価 平成31年3月』 文部科学省 2019年 チャイルド本社 ¥275

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの発達や学びの過程に関して、前期の開講科目、教育心理学で学んだ基礎知識を応用するため、よく復習しておくこと。演習科目として、子どもを理解するための基本的な視点や態度を学び、子どもの理解に基づく保育実践や発達援助に関して自ら具体的に考える姿勢をもつことを望む。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション、子どもの実態に応じた発達や学びの把握① 保育における子ども理解の意義、保育者の姿勢
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握② 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開、子どもへの共感的理解と関わり
3	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊びについての発達の観点、子どもの体験と学びの過程
4	子どもを理解する視点② 発達と学習の視点からの環境の理解、人的環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもを理解する視点③ 子ども相互の関わりと関係づくり、葛藤やつまずき
6	子どもを理解する視点④ 保育における個と集団、集団における経験と育ち
7	子どもを理解する視点⑤ 保育の環境の理解と構成、環境の変化と移行
8	子どもを理解する具体的方法① 保育における観察と記録、保育の場で子どもを“見る”とは
9	子どもを理解する具体的方法② 保育における観察と記録、保育記録の具体例
10	子どもを理解する具体的方法③ 記録に基づく省察・評価、子どもの理解を深めるための職員間の対話と具体的方法
11	子どもを理解する具体的方法④ 家庭との情報共有
12	子どもの理解に基づく発達援助① 発達の課題に応じた援助と関わり
13	子どもの理解に基づく発達援助② 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
14	子どもの理解に基づく発達援助③ 発達の連続性と就学への支援
15	保育実践における子どもの理解と援助の視点や態度、具体的方法についてのまとめ、学習到達度の確認および解説

科目名	保育内容（健康）	授業コード	YE4214**	科目コード	YE4214
担当教員	岡本 かおり・石濱 加奈子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される領域「健康」の視点や考え方を理解し、保育の方法や保育者の役割を考えて実践できる力を身に付ける。

【到達目標】

- ①領域「健康」のねらい・内容を理解して説明できる。DP②
- ②領域「健康」のねらい・内容を踏まえた保育の方法について考え、構想できる。DP②③
- ③保育場面の事例を通して保育者の役割を考え、説明できる。DP①②
- ④保育教材を理解し、自分のアイディアを取り入れて領域「健康」のねらい・内容に即した指導計画を作成できる。DP②③

2. 授業概要

1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「健康」の解説を中心に、保育における領域「健康」の保育学的な視点を理解する。
2. 子どもの健康を取り巻く現状を理解し、子どもの健康な育ちを支える保育者の役割について理解する。
3. 運動遊び、基本的な生活習慣、食育、安全等について具体的な教材や指導計画を題材にし、領域「健康」の視点での保育の展開を知り、領域「健康」の見方・考え方への理解を深める。
4. 領域「健康」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業時に教員が示す。予習及び復習により、毎回90分程度の時間を要することが想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内の小テスト25%、レポート及び課題提出25%、平常点50%。平常点は授業への参加状況、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』無藤隆 監修・倉持清美 代表編者 2018（萌文書林）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

参考文献

『子どものからだと心白書2019』子どものからだと心・連絡会議 2019（子どものからだと心・連絡会議） 2,000円

必要に応じて、資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的な姿勢で取り組むこと。
配布資料等の整理をすること。
他科目との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 ・保育内容「健康」の概要について理解する。
2	領域「健康」の理解 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」を理解する。 ・他領域との関連について理解する。
3	領域「健康」のねらい・内容
4	子どもの遊びと健康（1）保育における遊びと計画
5	子どもの遊びと健康（2）戸外での遊び
6	子どもの遊びと健康（3）保育における遊び場面から領域「健康」の見方・考え方を学ぶ
7	安全指導と安全管理の実際
8	健康な生活のリズム
9	基本的な生活習慣の形成と保育者の役割
10	教材研究（1）伝承遊びの実践例を通して領域「健康」の見方・考え方を学ぶ
11	教材研究（2）手づくり教材の作成を通じ、領域「健康」のねらい・内容と保育実践の関連を学ぶ
12	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（1） 伝承遊びの実践研究
13	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（2）子どもの多様な動きを引き出す運動遊びについて理解する。
14	子どもの健康管理と健康教育 ・領域「健康」が目指す子どもの健康について理解する。 ・子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。
15	まとめの復習・学習内容の理解度の確認、及び解説

科目名	保育内容（人間関係）	授業コード	YE4224**	科目コード	YE4224
担当教員	伊藤 路香・坪井 葉子・高橋 節子・坂本 喜一郎				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】

「保育内容（人間関係）」では、子どもが「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことについて学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。DP②
- ・子どもが人とのかかわりにおいて、どのように発達していくかを理解し、発達に応じた指導のあり方をイメージし説明できる。DP②
- ・保育内容「人間関係」と他の保育内容の領域の関係性について理解する。DP②
- ・「人間関係」という視点から保育者の役割を理解し、援助方法を構想できる。DP②④⑤

2. 授業概要

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」の解説を中心に、保育における領域「人間関係」の保育学的な視点を学ぶ。・各年齢における「人間関係」の育ちを理解する。
- ・映像や事例、実習で経験を通して、子どもの生活や遊びについての理解をし、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」である「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」との関連性を考える。
- ・映像や事例、実習で経験を通して、保育者の援助の意図や子どもにとっての意味を考えることにより、領域「人間関係」への見方・考え方への理解を深める。・具体的な教材や指導計画を題材にし、領域「人間関係」の視点での保育の展開について構想する。
- ・保育者としての豊かな「人間関係力」を養うことの重要性を踏まえ、適宜人とのかかわりに関するワークを経験しながら、自分自身のあり方について意識化していく。
- ・領域「人間関係」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・各回に示した予習復習に取り組むこと。毎回の予習復習には90分程度の時間を要することが想定される。
- ・日頃から「人間関係」の視点を持ち今日的課題について考えると共に、実習における体験と授業での学びを結び付けて考えること。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の40%）
平常点<課題等の提出、授業への参加態度等>（評価の60%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

<テキスト>

- 『演習 保育内容 人間関係』田代和美 榎本真実 編著 建帛社
『幼稚園教育要領解説』<最新版> 文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説』<最新版> 厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』<最新版> 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

<参考文献>

- 『「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育』大豆生田啓友 編著（株）学研教育みらい ￥3,080

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題には積極的な姿勢で取り組むこと。
授業内で配布される資料等はきちんと整理しておくこと。
他教科や実習との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 保育内容「人間関係」とは何か ・予習：テキストの「はじめに」を読む
2	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「人間関係」の位置づけ ・予習：幼稚園教育要領の領域「人間関係」を読む ・復習：領域「人間関係」の位置づけを整理する
3	人間関係の育ちと保育 ①乳児 ・予習：保育所保育指針の乳児保育のねらい及び内容を読む ・復習：乳児の人間関係について整理する
4	人間関係の育ちと保育 ②1、2歳児 ・予習：保育所保育指針の1歳以上3歳未満児の「人間関係」のねらい及び内容を読む ・復習：1、2歳児の人間関係について整理する
5	人間関係の育ちと保育 ③3、4、5歳児 ・予習：保育所保育指針の3歳以上児の「人間関係」のねらい及び内容を読む ・復習：3、4、5歳児の人間関係について整理する
6	「人間関係」の視点より実習を振り返る ・予習：実習先で印象に残った「人間関係」の視点での出来事を持ち寄る
7	「遊び」が育む人とのかかわり ・予習：「遊び」の場面の事例を読み、領域「人間関係」の視点で捉える ・復習：「遊び」の場面における子ども理解と保育者の援助について整理する
8	「生活」が育む人とのかかわり ・予習：「生活」の場面の事例を読み、領域「人間関係」の視点で捉える ・復習：「生活」の場面における子ども理解と保育者の援助について整理する
9	「一斉活動」が育む人とのかかわり ・予習：「一斉活動」の場面の事例を読み、領域「人間関係」の視点で捉える ・復習：「一斉活動」の場面における子ども理解と保育者の援助について整理する
10	子どもの育ちを支える指導計画の作成：「人間関係」の視点を中心とした遊びの計画 ・予習：指導計画作成で扱う遊びを1つ考えてくる ・復習：指導計画作成におけるポイントについて整理する
11	子どもの育ちを支える保護者と保育者のかかわり ・予習：テキスト「第11章 子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係」を読む ・復習：子どもの育ちを支える保護者と保育者のかかわりの内容を整理する
12	子どもの育ちを支える保育者同士のかかわり ・予習：テキスト「第12章 育ちを支える保育者同士の人間関係」を読む ・復習：子どもの育ちを支える保育者同士の人間関係の内容を整理する
13	子どもの育ちを支える地域の人々とのかかわり ・予習：テキスト「第14章 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係」を読む ・復習：子どもの育ちを支える地域の人々とのかかわりについて整理する
14	乳幼児を取り巻く人間関係と今日的課題 ・予習：「人間関係」における課題についての新聞記事に目を通しておく ・復習：これからの社会を生きる子どもの育ちを支える大人の役割について自分の考えを整理する
15	まとめ ①全授業内容の総復習 ②学習内容の理解度確認のための筆記試験 ③解説

科目名	保育内容（環境）	授業コード	YE4234**	科目コード	YE4234
担当教員	坪井 葉子・高橋 節子・小林 由香				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】

「保育内容」（環境）では子どもが「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 幼児教育・保育の基本として、「育みたい資質・能力」「養護と教育の一体性」「保育内容がもつ意味」「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」について理解する。 DP①、②
- 2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型こども園・保育教育要領」における領域（環境）のねらいと内容について説明できる。 DP④
- 3) 乳幼児期の保育における環境の役割について説明できる。 DP②
- 4) 保育実践の中で領域（環境）に関する育ちを見極め説明できる。 DP④
- 5) 領域（環境）に関する保育実践を構想できる。 DP④

2. 授業概要

1年前期の科目として、まずは幼児教育・保育の基本的な見方・考え方を学ぶ。

次に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域（環境）の視点から子どもの育ちを捉え、発達を助長するための見方・考え方・援助を学ぶ。子どもが関わる環境として具体的な教材や指導計画を題材にし、領域（環境）の視点での保育の展開ならびに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「思考力の芽生え」、「社会生活との関わり」との結びつきを知り、領域（環境）の見方・考え方への理解を深める。

学習の過程において、身近な環境について調べたりお互いの環境の違いや環境による学びの違いについての議論も取り入れる（アクティブラーニング）

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・予習に関しては教科書の該当ページを予め読んでおく。（所要時間60分程度）
- ・復習に関しては授業で学んだことを教科書やプリントでふり返り、専門用語を覚えておく。（所要時間60分程度）
- ・普段から自分の周囲の自然をよく理解し、自然の変化や季節に関して敏感に感じ取れるように意識する。
- ・身の回りにある物や道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味や関心がどのような点にあるのかについて考えるようにする。

4. 成績評価の方法及び基準

授業の内容に関する筆記試験（小テスト、まとめのテスト等）による理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境』無藤隆 監修 福元真由美 編（萌文書林）2018年
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）2018年
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）2018年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2016年

参考文献

『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・L.カーソン著（新潮社）1996年 1,540円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
- ・課題は必ず期日を守って提出すること。
- ・他科目との関連を常に意識して授業に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	幼児教育・保育の基本 「育みたい資質・能力」「養護と教育の一体性」「領域と保育内容」
2	幼児教育・保育の基本 「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」
3	保育内容の5領域における領域「環境」のねらい・内容、他の領域との関係
4	乳児、1～2歳児の育ちと環境
5	領域「環境」に関する保育の内容（1） 自然に親しみ、季節の変化に気づく
6	領域「環境」に関する保育の内容（2） 植物や生き物に触れる
7	領域「環境」に関する保育の内容（3） ものや道具に関わって遊ぶ
8	領域「環境」に関する保育の内容（4） ものの性質や仕組みに気づく 身近なものを大切に、公共心を育む
9	領域「環境」に関する保育の内容（5） 文字や標識に関心をもつ
10	領域「環境」に関する保育の内容（6） 数量や図形に関心をもつ
11	領域「環境」に関する保育の内容（7） 身近な情報、遊びの中の情報
12	領域「環境」に関する保育の内容（8） 地域に親しむ、日本の文化や異なる文化に触れる
13	幼児期の思考力の芽生え（1） 「関わる・出会う・気づく」 「発見する・考える」
14	幼児期の思考力の芽生え（2） 「思考する」「協同的に学ぶ」
15	領域「環境」の見方・考え方の復習 領域「環境」のねらい・内容の指導

科目名	保育内容（言葉）	授業コード	YE4271**	科目コード	YE4271
担当教員	上田 よう子・浜名 真以・清水 淳一郎				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】子どもの「自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」と、保育者としての言葉について学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもの言葉の育ちを支える保育者の援助の方法を知る。DP①、②
- ・主体的かつ対話的な学びを通して、言葉の発達過程に留意しながら保育実践の中の領域「言葉」に関する育ちを見極められるようになる。DP②
- ・絵本などの具体的な教材（絵本、紙芝居、パネルシアター等）や指導計画を題材にし、領域「言葉」の視点での保育の実践力を高める。DP③
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「言葉による伝え合い」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」との結びつきや小学校「国語」との関連を知り、領域「言葉」の見方・考え方への理解を深める。DP③
- ・領域「言葉」との他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。DP②、③

2. 授業概要

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」を理解し、豊かな言葉を育むための保育の方法を学ぶ。
- ・乳幼児の言葉の発達過程や言葉の果たす役割を理解する。
- ・絵本などの児童文化財の意義と概要を理解し、児童文化財を活用した指導計画の立案や実践を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・予習に関しては教科書の該当ページを予め読んでおく。（所要時間60分程度）
 - ・復習に関しては授業で学んだことを教科書やプリントでふり返る。（所要時間60分程度）
 - ・児童文化財（絵本・紙芝居など）に日常的に慣れ親しむこと。・日常的に子どもの言葉に耳を傾け、言葉の特徴や子どもの気持ちについて授業内容と結びつけながら理解を図ること。・授業ごとの課題についての勉強を自主的に行うこと。
- 必修課題：①実習時の子どもの言葉の記録②実習のための部分実習指導案作成③児童文化教材の作成

4. 成績評価の方法及び基準

授業の内容に関する筆記試験による理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢、課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』 浅見均編著（大学図書出版）2016年

『幼稚園教育要領解説＜H29年告示＞』 文部科学省（フレーベル館）

『保育所保育指針解説書＜H29年告示＞』 厚生労働省（フレーベル館）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜H29年告示＞』 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

参考文献：『「対話」から生まれる乳幼児の学びの物語—子ども主体の保育の実践と環境—』 大豆生田啓友編著（株式会社学研教育みらい）2019年 ¥3,080-

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
- ・課題は必ず期日を守って提出すること。
- ・他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明、「保育内容」（言葉）とは何か。
2	乳児期の言葉の発達（前言語期のコミュニケーション） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：乳児期の言葉の発達について整理する。
3	幼児期の言葉の発達（話し言葉と書き言葉の発達） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：幼児期の話し言葉と書き言葉の発達について整理する。
4	領域（言葉）の理解（ねらい・内容・内容の取扱い） 予習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容のページを読む。 復習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容についてまとめる。
5	遊びと言葉 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：これまで学びを実習でさらに学び実践するために整理する。
6	子どもどうしの関わりから育つ言葉 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：子どもどうして言葉で気持ちを表現することの大切さと、見守り援助する保育者の役割について整理する。
7	保育における児童文化材①（絵本と紙芝居） 予習：テキストの該当ページを読み、興味のある絵本と紙芝居について見ておく。 復習：絵本と紙芝居との違い、それぞれの読み方について整理する。
8	保育における児童文化材②（ペープサートとパネルシアター） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：ペープサートとパネルシアターの作り方と演じ方について整理する。
9	子どもとわらべ歌・言葉遊びを実践する模擬保育の発表（グループワーク） 予習：わらべ歌やふれあい遊びなどについて調べる。 復習：発表について自身のふり返りと周囲からのアドバイスについてまとめる。
10	子どもの育ちに合わせた指導計画（作成する保育教材の部分指導案） 予習：指導計画の立案に向けて内容について検討する。 復習：指導計画案を完成させる。
11	言葉に関連する障害 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：言葉のつまづきについての種類や対応の仕方について整理する。
12	言葉の諸問題と小学校「国語」との関連 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：現代における言葉の諸問題と、領域（言葉）と小学校「国語」との関連について整理する。
13	保育教材の発表①（前半メンバーの発表） 予習：導入と演じ方について研究し、本番に向けて練習する。 復習：発表について自身のふり返りと周囲からのアドバイスについてまとめる。
14	保育教材の発表②（後半メンバーの発表） 予習：導入と演じ方について研究し、本番に向けて練習する。 復習：発表について自身のふり返りと周囲からのアドバイスについてまとめる。
15	まとめ（全授業内容の総復習）、授業の内容に関する筆記試験

科目名	保育内容・造形的表現	授業コード	YE4270**	科目コード	YE4270
担当教員	稲葉 裕美				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	前期/後期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

- ・造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことができるようになる。DP②、③
- ・保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる。DP②、③
- ・幅広い年齢の子ども達が作って遊べるバリエーション豊かな造形遊びや制作を経験し、保育者としての技術を身につける。DP②、③
- ・なぜ造形表現が子どもたちにとって必要かということを意識的に学び、より深い表現活動について考察できるようになる。DP①、②、③、④

2. 授業概要

素材や質感、それぞれのものの特徴に視点を当てながら、平面物、立体物の両方を取り入れ制作し実際の保育の現場で役立つ造形あそびを主体的に学ぶ。

四季、行事に関連したテーマの他に、実際に保育の現場で多く活用されている感触遊びも授業の中で体験する。

教科書による学びと制作体験を通して、子どもの発達段階に合った保育への造形展開を学ぶ。

造形制作活動を通じて造形素材の性質をよく知り、保育で必要な造形活動の留意点を学ぶ。具体的な保育内容を考えられるようになる。

保育士者としての感性を伸ばす。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

指示された用具・材料は必ず用意すること。

普段からさまざまなものの変化（天気や風景の変化や季節の移り変わり）に目をやり感性を磨くことが必要である。

学修後の学び、気づき、留意点をノートなどに記録する。（想定必要時間は90分程度になる）

授業内にテーマ課題を課し、その後の授業内に提出する。（想定必要時間は90分程度になる）

4. 成績評価の方法及び基準

提出課題と授業内での平常点（意欲、関心、態度、）50%提出された課題50%を総合的に判断する。

毎回の課題評価と授業内に課題を課しその課題を評価する。

課題が未提出の場合には単位を取得できない。

実習を含む5回以上欠席の場合は単位取得を認めない。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業におけるテキスト

『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ 第2版』北沢昌代・中村光絵・畠山智宏著（開成出版社）

※毎回使用するので必ず購入すること

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

通年を通して全内容を学ぶ。

授業内に課した課題を提出する。実習を含む欠席を5回以上した場合は単位を取得できない。

授業計画	
	様々な造形表現を経験しながら学ぶ。
1	ガイダンス
2	様々な粘土
3	4月の制作 お花紙
4	5月の制作 モビール
5	6月の制作 ビニール袋
6	7月の制作 様々なテープ素材
7	8月の制作 クレパス、クレヨン
8	9月の制作 光、ランプ
9	10月の制作 マーブルリング
10	12月の制作 クリスマスリース
11	1月の制作 スタンドグラス
12	2月の制作 粘土マグネット
13	3月の制作 絵の具、はじき絵
14	スライム作り
15	まとめ

科目名	保育内容・総論	授業コード	YE4272**	科目コード	YE4272
担当教員	坪井 葉子・高橋 優子・片川 智子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

〈主題〉保育内容についての理解を深める。5領域に分けて学んだ保育内容の繋がり、保育内容の指導について理解する。
 〈到達目標〉

- ・遊びや生活を通じた総合的な指導における保育者の役割を説明できる。DP①、②、④
- ・子どもの発達過程に即した保育内容を構想できる。DP②、④
- ・子どもの主体性を尊重する保育の指導法を構想し、実践することができる。DP①、②、④
- ・5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の保育内容の総合性を踏まえた指導計画を立案、実践できる。DP②、④
- ・保育の記録と評価の意義を理解し、幼児理解や保育についての省察を深めることができる。DP①、②、④

2. 授業概要

- ・子どもを取り巻く社会的背景や保育内容の変遷を学ぶことにより、底流にある一貫性について考え、保育の基本的な考え方を理解する。
- ・各領域の関連性について学び、具体的な保育内容に結びつけながら、子どもの理解や保育内容について総合的に捉える視点を養う。
- ・「日々の保育は子どもの興味と経験の積み重ねである」ことに着目し、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」について、乳幼児の遊び（活動）を発達の側面から理解し、保育の過程（指導案の立案、模擬保育、記録、評価、改善）をグループワークを通して具体的に学ぶ。
- ・情報機器を活用した保育内容の捉え方について学ぶ

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】 授業ごとに教示された次回の授業に該当するテキストページや参考文献を読了し、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。

【復習】 授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・筆記試験による内容の理解度（評価の40%）
- ・平常点（評価の60%）
平常点は、授業への参加姿勢・グループワークにおける貢献度・課題やコメントシートの提出状況や内容によって総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】

- 『新訂 演習 保育内容総論』金澤妙子・前田和代編著（建帛社）
- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

【参考文献】

- 『演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く』神田伸生・高橋貴志編著（萌文書林）¥1,980-

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

配布資料や授業内容を記録したものをノートやファイルにきちんとまとめること。
 課題の提出期日を厳守すること。

授業計画	
	【後期】
1	なぜ保育内容総論を学ぶのか 幼児期における育みたい資質・能力と保育内容
2	幼児期の終わりまでに育てたい10の姿と保育内容
3	保育内容の捉え方とその背景、歴史的変遷
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方
5	子ども理解と保育内容
6	「遊び」から捉える保育内容と指導・援助
7	「生活」から捉える保育内容と指導・援助
8	「環境」から捉える保育内容と指導・援助
9	「発達」から捉える保育内容と指導・援助
10	行事で捉えられる保育内容と指導・援助
11	指導計画の構想と実践
12	特別な配慮が必要な子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
13	外国と関りがある子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
14	保育内容の記録とその活かし方
15	まとめ ①全授業内容の総復習 ②理解度確認のための筆記試験 ③解説

科目名	基礎実習指導	授業コード	YE4351**	科目コード	YE4351
担当教員	井上 眞理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	演習及び実習	配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】

幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得を目指すために必要な基礎的事項について学ぶ。

【到達目標】

- ①実習全体の体系及び各実習の意義や目的を理解する DP①、②
- ②保育現場に臨む心構えや態度、マナーなど、実習生としての基礎的素養を身につける DP①、②、③、④、⑤
- ③幼稚園、保育所における体験を通じ、保育現場における子どもの生活や保育実践に触れ関心を高める DP①、②、③、④、⑤

2. 授業概要

学内における講義・演習の授業では、幼稚園及び保育所の基礎的な理解や各実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、子ども理解の実際をテキストや視覚教材を用いて学習する。

見学実習（附属幼稚園）では、子どもの主体性を育む保育環境の実際を見学し、環境構成の重要性を学び、環境を捉える視点を習得する。体験実習（幼稚園及び保育所）においては、保育の実際に参加し、子どもの生活や遊びを体感するとともに、子どもの実態及び保育者の援助や配慮のあり方に触れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業、見学実習、体験実習への参加姿勢（評価の50%）

提出物の内容、手続きの遵守（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美 萌文書林
『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』久富陽子 萌文書林
『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉（改訂版）』長島和代編（わかば社）
・授業内で配布する資料 ・「洗足こども短期大学 2020年度実習の手引き」

参考文献

- 『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省 フレーベル館 2018年 320円
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円
『保育の学びスタートブック』久富陽子 萌文書林 1,100円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 本学の学生であるという自覚をもち、真摯で謙虚かつ主体的な態度で実習に関わる基礎的事項の学習に励むこと
- ◆ 見学実習及び体験実習の参加条件については、「2020年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 基礎実習の単位認定の条件については、「2020年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育者の役割と資質の理解（附属幼稚園園長先生の講話）
2	保育の環境を捉える：保育環境と記録
3	基礎実習①：附属幼稚園見学実習の概要の理解
4	幼稚園教育の基礎：幼稚園の生活を理解する
5	基礎実習②：幼稚園における体験実習の概要
6	幼稚園における実習の準備と心構え
7	幼稚園における体験実習を振り返る
8	保育所保育の基礎：保育所の生活を理解する
9	基礎実習③：保育所における体験実習の概要
10	乳幼児の発達の魅力と実際
11	保育所における実習の準備と心構え
12	保育所における体験実習を振り返る
13	実習における目標の立て方
14	実習記録の作成の基礎
15	オリエンテーションの意義と方法

科目名	ピアノ I	授業コード	YE4432**	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・辻田 由利子・岡本 有子・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒・大澤 美紀 池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望・山本 佳世子・磯矢 玲子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学修する。
音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力を養う。DP②、③
に合格する。DP②

10月の教育実習 I までに、実習課題曲を仕上げる。DP②、④

2. 授業概要

保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶため、ピアノ経験量に基づき、初心者クラスから上級者クラスまでグレード別で行う最大5名のグループレッスンである。各グレードで指定されたテキストより実力に合う課題を演習する

<実務経験のある教員による授業>

担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者であり、音楽教室を始め、各方面でピアノ指導の実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。

授業毎の課題の予習、復習には毎日30分以上の練習が必要と想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%

平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。

定期試験は、演奏の完成度を評価する。

音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」

「ブルグミュラー25の練習曲」

「ソナチネアルバム1」

「ソナタアルバム1」

「ソナタアルバム2」

以上、全て全音楽譜出版社

「モーツァルト・ソナタアルバム」

「ベートーヴェン・ソナタアルバム」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1. 第1回の授業でクラス分けのピアノ演奏力調査を行う。

事前に配付された楽譜の中から実力に近いと思われる1曲を練習しておくこと（ピアノ未経験者は除く）

2. 第2回より、決定したグレード別クラスで授業を行う。

3. 遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明を提出し、授業に参加した場合のみ認める。（欠席回数に含まない）

4. 欠席は年間3回までとし、4回以上欠席すると定期試験を受けることができない（欠格条件）

（実習、オリエンテーションは除く）

5. 試験時の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ（男性はネクタイ着用）、

黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキング、とする。

上着の着用は5月1日から9月30日の期間は自由とする。

6. 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位修得不可となることがある。

授業計画	
	<p>【前期】 グレード別による以下の課題の演習授業 グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	クラス分けピアノ演奏力調査
2	ガイダンス、演奏力の再調査、 ピアノ経験、過去の学修内容の確認、課題曲決め
3	課題曲① 楽典、譜読み
4	課題曲① 技法の演習 基礎
5	課題曲① 技法の演習 応用
6	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
7	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
8	課題曲② 技法の演習 応用
9	課題曲② 奏法の演習 確認
10	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
11	課題曲③ 技法の演習 基礎
12	課題曲③ 技法の演習 応用
13	課題曲③ 奏法の演習 確認 実習課題曲①
14	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲① 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	<p>【後期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※は定期試験課題曲 定期試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	前期の復習、課題曲決め 実習課題曲①
2	課題曲① 技法の演習 基礎 実習課題曲①
3	課題曲① 技法の演習 応用 実習課題曲①
4	課題曲① 奏法の演習 確認 実習課題曲①
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲①
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習 ピアノ I I 課題説明
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	ピアノⅠ 再履修	授業コード	YE4432**	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・三國 彰子・辻田 由利子・岡本 有子・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒・大澤 美紀 池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	—
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学修する。
音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力を養う。DP②、③
に合格する。DP②、④

【ディプロマポリシーとの関連】

- 1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している
- 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している
- 3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている
- 4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている
- 5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる
- 6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している

2. 授業概要

保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶため、ピアノ再履修者による最大5名のグループレッスンを行う。
指定されたテキストより実力に合う課題の演習する。

<実務経験のある教員による授業>

担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者であり、音楽教室を始め、各方面でピアノ指導の実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。
授業毎の課題の予習、復習には毎日30分以上の練習が必要と想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%
平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。
定期試験は、演奏の完成度を評価する。
音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を条件とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」
「ブルグミュラー25の練習曲」
「ソナチネアルバム1」
「ソナタアルバム1」
「ソナタアルバム2」
以上、全て全音楽譜出版社
「モーツァルト・ソナタアルバム」
「ベートーヴェン・ソナタアルバム」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1. 4月実施の<ピアノ特別検定>に合格しなければ「教育実習ⅠⅠ」「保育所実習ⅠⅠ」の参加は認められない。
2. 遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。
交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明を提出し、授業に参加した場合のみ認める。
(欠席回数に含まない)
3. 欠席は年間3回までとし、4回以上欠席すると定期試験を受けることができない(欠格条件)
(実習、オリエンテーションは除く)
4. 試験時の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ、黒のパンプス、肌色ストッキング、とする。
上着の着用は5月1日から9月30日の期間は自由とする。
5. 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位修得不可となることがある。

授業計画	
	<p>【前期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※定期試験課題曲 定期試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	ガイダンス、課題曲決め
2	課題曲① 譜読み、技法の演習 基礎
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	<p>【後期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※定期試験課題曲 定期試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	前期の復習、課題曲決め
2	課題曲① 技法の演習 基礎
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	幼児音楽 I	授業コード	YE4453**	科目コード	YE4453
担当教員	秋山 徹・飯田 千夏・神谷 明美・野坂 順子・諸井 サチヨ				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

領域「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。領域「表現」のねらい及び内容を、音楽的な表現の側面から理解し、以下を身につける事を到達目標とする。

【到達目標】

- ・音符や記号、拍子、音階など音楽の基礎的知識を確認し身につける。DP②
- ・幼児歌曲、唱歌、手遊び歌、わらべうたなどのレパートリーを広げる。DP②
- ・保育の現場を想定した正しい発音、発声法を身につける。DP②
- ・様々な楽曲を各自のレベルに合わせ弾き歌いができる。DP②
- ・音楽表現力・技術力を向上する。DP②、③
- ・幼児歌曲や器楽演奏の指導計画を立て、実践の場で活かすことができる。DP①、②、③

2. 授業概要

領域「表現」のねらい及び内容と音楽的な保育実践との関連、ならびに保育の基本的な見方・考え方にふさわしい指導と評価の方法を学ぶ。そして音楽的な保育実践を通して領域「表現」のねらい及び内容が達成されていくための指導者に必要な音楽的な知識や技能の基礎を学んでいく。多様な音楽活動にも対応出来る基礎的な音楽的表現力を身につけ、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを念頭においた、子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む指導力と保育を構想する力を身につけることを目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。
想定必要時間は2時間程度となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習＞（評価の75%）
弾き歌いによる模擬保育（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『幼児歌曲100曲集』（カワイ出版）
- 『みんなで手遊びOne・Two・トン』（ドレミ楽譜出版社）
- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

参考文献

- 『こどものうた200』『続こどものうた200』（チャイルド本社）
- 他、授業中に適宜資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。
2年次4月の検定試験までに＜弾き歌い検定＞の＜レベル1＞に合格出来ていない場合、「教育実習II」「保育所実習II」に行かれない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）、譜表と音部記号の理解、領域「表現」のねらい・内容の理解と指導の考え方について
2	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル1の歌、手遊び歌・わらべうた）、音符と休符の理解
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル2の歌、手遊び歌・わらべうた）、音名と変化記号の理解
4	弾き歌い検定課題曲個人指導（1） 指導の方法と留意点を考える
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル3の歌、手遊び歌・わらべうた）、リズムと拍子の理解
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル4の歌、手遊び歌・わらべうた）、和音とコードネーム、調性の理解
7	コードネーム伴奏法演習
8	歌唱個人指導（1） 指導の実際を想定し留意点を考える
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル5の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（長音階）の理解
10	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル6の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（短音階）の理解
11	リズム楽器演習、指導計画の作成
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（秋の季節・行事の歌、検定レベル7の歌、手遊び歌・わらべうた）、音楽用語の理解
13	弾き歌い検定課題曲個人指導（2） 模擬保育
14	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	前期演習曲復習
2	弾き歌い検定課題曲個人指導（3） 模擬保育
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（秋の季節・行事の歌、検定レベル8の歌、手遊び歌・わらべうた）
4	実習直前音楽指導（1） 指導計画の作成と模擬保育
5	実習直前音楽指導（2） 模擬保育と振り返り
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（冬の季節・行事の歌、検定レベル9の歌、手遊び歌・わらべうた）
7	歌唱個人指導（2） 指導の実際を想定し留意点を考える
8	幼児器楽演習 指導計画の作成
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（冬の季節・行事の歌、検定レベル10の歌、手遊び歌・わらべうた）
10	弾き歌い検定課題曲個人指導（4） 模擬保育
11	幼児歌曲後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
12	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育
13	幼児音楽Ⅰ演習曲復習（1） 模擬保育
14	幼児音楽Ⅰ演習曲復習（2） 模擬保育
15	「幼児音楽Ⅰ」総括 領域「表現」のねらい及び内容と指導法について

科目名	造形表現（表現）	授業コード	YE4521**	科目コード	YE4521
担当教員	黒須 和清				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】

手を使って物を作る「造形活動」は人間が生きていくための大切な力である。特に幼児期はその楽しさに初めて触れる時期であり、保育に携わる者はたくさんの楽しい造形体験のよりよい伝え手でなくてはならない。そこで、この授業では、ただ作るだけではなく、学生本人が心底楽しみ、自然にそれを子どもたちに「伝えたい」と思う気持ちが湧いてくることを第一義的な目標とする。さらにそこに、目の前の子どもをどう捉え、どう伝えるかという保育学的な見方・考え方をつなげて、保育者としての応用展開力を身につける。

【到達目標】

- ・造形の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、「表現を楽しむ」ことを体感する。DP②、③
- ・領域「表現」のねらい・内容における保育学的な見方・考え方を基礎に、子どもの表現内容を受容・共感する姿勢を身につける。DP①、②、④
- ・自身の造形のレパートリーを広げ、感性を磨き、必要に応じていつでも実践できる応用展開力を身につける。DP③

2. 授業概要

「動き」「材料」「伝承玩具」など各回のテーマに対応したおもちゃの見本を毎回複数紹介し、乳幼児向けのわかりやすい作り方で実製作をする。作品として完成させることが目的ではなく、将来の実践のサンプル作りとしてなるべくたくさんの製作体験を行う。製作しながら保育現場での様子をイメージし、子どもたちの気持ちを受け止め、何をどう伝えるかを想定しながら学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

復習として、手に覚えさせレシピを見ずに作れるようになるまで、なんども作る。その際は、子どもたちへの指導の仕方、材料の準備などもイメージしながら楽しく行ってほしい。また、授業内で作った作品が完成に至らないときは、必ず家で完成させること。想定必要時間は1時間である。さらに、普段から造形美術に関心を持ち、アイデアを蓄積することを予習とする。想定必要時間は1時間である。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・授業中の製作活動に取り組む態度（＝意欲的に参加しているか）の評価（50%）
- ・演じ手・指導者としての表現力（＝こどもの創作意欲をかきたてるようないいパフォーマンスになっているか）の評価（50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

- 『たのしいおもちゃ屋さん』 黒須和清著（鈴木出版）
『イラストハンドブック 「せんせい、ぞうさんかいて！」』 黒須和清著（ブイツーソリューション）

参考文献：

- 『ひとあじちがうおもちゃのレシピ』（黒須和清著・鈴木出版 ¥1500）
『壁面テーマパーク12ヶ月』（黒須和清著・鈴木出版 ¥1500）
『かんたん人形劇』（黒須和清著・鈴木出版 ¥1500）
『お菓子なカードのつくりかた』（黒須和清著・鈴木出版 ¥1500）
『教えて工作マエストロ』 1巻 2巻（黒須和清著 全国社会福祉協議会 いずれも ¥1400）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初日に指定された工作道具は次回までに必ず各自でそろえること。

道具の貸し借りや共同使用は認めない。

造形の授業は本だけで学べるものではなく、その習得は先人に直に教えを受け、その手で実体験する事が何より大事である。30講義全てが大事な習得体験なので100%の出席が原則。出席しても意欲的に授業にのぞめない場合は退室を命じたり、欠席にすることもある。欠席が前後期合わせて8回を越えたら再履修。前期後期それぞれ5回目の欠席で再履修となる。

授業計画	
	【前期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方 オリエンテーション（工作道具について）
2	伝承文化（おりがみ）
3	伝承おもちゃ1（風車）
4	季節の工作（花）
5	演じ物1（七夕の人形劇他）
6	身近な材料1（紙コップ）
7	たのしい動き1（ぼんぼこ）
8	発表会に向けて1（かぶりもの）
9	たのしい動き2（バランス）
10	遊具の製作（コリントゲーム）
11	遊具の製作（コリントゲーム）
12	伝承おもちゃ2（わりばし鉄砲とこま）
13	カード作り1（とびだすカード）
14	たのしい動き3（くるくる）
15	たのしい動き4（のぼりくんだり） 領域「表現」の観点から前期の授業を振り返る

授業計画	
	【後期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方の復習と再考 カード作り2（おもしろカード）
2	身近な材料2（牛乳パック）
3	伝承おもちゃ3（けん玉）
4	身近な材料3（スポンジ）
5	たのしい動き5（くねくね）
6	たのしい動き6（とぶ）
7	実習に向けて（かんたん紙工作）
8	クリスマス工作（リース・ブーツ）
9	クリスマス工作（ツリー他）
10	クリスマス・お誕生会工作（ケーキ）
11	発表会に向けて2（音のおもちゃ・楽器）
12	たのしい動き7（ころころ）
13	身近な材料4（ビニール）
14	発表会に向けて3（スタンドグラス・背景装置他）
15	領域「表現」のねらい・内容と造形的な表現活動（領域「表現」の観点から一年間の授業を振り返る） イラストの描きかた（子どもの活動を支えるための保育者の表現技術を考える）

科目名	子どもの健康と運動遊び	授業コード	YE4620**	科目コード	YE4620
担当教員	石濱 加奈子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題】保育内容・領域「健康」のねらいと内容を理解し、子どもが健康なからだを育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うための指導の知識と技術を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

- ・保育内容・領域「健康」のねらいおよび内容に合った運動遊びの捉え方や取り入れ方を知る。DP②
- ・運動遊びの指導に必要な安全の知識と技術をもち、指導に活かすことができる。DP②、④
- ・子どもの年齢に応じた運動遊びの選択、指導、環境設定、安全確保について理解する。DP②、④
- ・運動遊びの計画・実践・振り返りの重要性について理解する。DP④、⑤
- ・保育者として自身が運動の楽しさを実感できる。DP⑤
- ・保育者に相応しい体力を維持、向上のための方法を知る。DP①、④

2. 授業概要

保育内容・領域「健康」のねらいおよび内容との関連を意識しつつ、運動遊びについて、現代の子どもの課題と保育における取り入れ方を学ぶ。その上で前期は、年齢や発達を考慮した様々な運動遊びを実践し、指導法や安全管理など知る。後期は、グループワークにて模擬的に運動あそびの実践と振り返りをおこない、それらを基に指導計画を作成する。また、年間を通じ保育者に必要な体力要素を身に付けるためのトレーニングを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

以下の3点を予習・復習とし、想定必要時間は1日120分程度となる。

- ・運動や子どもの遊びに興味を示し、様々な方法で情報を収集すること。
 - ・授業で取り扱った運動内容と毎授業にて指定された箇所をテキストにて確認し、自分なりの指導方法を想定すること。
 - ・保育者に必要な体力と健康管理の重要性を理解し、体調を整えて授業に臨むためにも日常生活の中でからだに負荷をかける努力をする。
- また、授業内で課す課題については、期日までに丁寧に取り組むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

実技テスト（評価の40%） 提出物（評価の50%） 平常点（評価の10%）

実技テストは、前後期各2回実施し、各課題の習熟度を評価する。

提出物は、前後期各1回レポートと運動遊び指導実践時に提示する課題とし、それぞれの課題に対する理解と考察について評価する。

平常点は、授業への参加姿勢を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『幼児の運動あそび』吉田伊津美編（チャイルド本社）、

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018、

『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）2018、

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018、

必要に応じて資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席、もしくは通年で7回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）

第1回目の授業時に説明するルールを遵守して受講すること。

第1回目は、運動着・運動靴を着用の上集合すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス(受講上のルールと授業の進め方、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連を知る)
2	号令・整列・移動の方法 屋外での運動遊び(伝承遊び・鬼ごっこ)
3	体カテスト(1) 50M走、持久走、ハンドボール投げ
4	体カテスト(2) 握力、立ち幅跳び、長座体前屈、反復横跳び、背筋力
5	リズム体操の習得(1) はとぼっぽ体操 伝承遊び
6	リズム体操の習得(2) NO.1体操 屋内でできる鬼ごっこ
7	リズム体操の習得(3) サンサンたいそう 身の周りにある素材を使った運動遊び
8	リズム体操の習得(4) プンバ・ポーン、からだダンダン 縄遊び、縄跳びが跳べるまで
9	リズム体操の習得(5) エビカニクス ボール遊び、「投げる」という動作について
10	リズム体操の確認テスト 低年齢児のリズム体操
11	遊具遊び、マット遊び
12	リズム体操—発達段階に応じた動き、指導者としての師範・号令
13	リズム体操—行事に向けた教材選択と指導法(1) 年齢や場面に応じた動きづくり
14	リズム体操—行事に向けた教材選択と指導法(2) 曲やテンポに応じた動きづくり
15	創作リズム体操の発表 前期授業のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス(後期授業の目標と進め方) からだ慣らしのための運動遊び、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連の確認
2	からだ遊び一組体操と組立体操、安全への配慮
3	リズム体操の習得(6) グループでおこなう体操 多様な動きを引き出す運動遊びー種類
4	リズム体操の習得(7) 見せるための体操 多様な動きを引き出す運動遊びー変化
5	運動遊びにおける現代の課題に対する工夫と実践
6	運動遊び指導実践の進め方
7	運動遊びの指導計画と指導実践(1) 1~4班の発表
8	運動遊びの指導計画と指導実践(2) 5~8班の発表
9	運動遊びの指導計画と指導実践(3) 9~12班の発表
10	運動遊びの指導計画と指導実践(4) 13~16班の発表
11	運動遊びの指導計画と指導実践(5) 17~20班の発表
12	運動遊びの指導計画と指導実践(6) 21~22班の発表、予備日
13	運動遊びの指導計画と指導実践のまとめ・振り返り 体力向上のための運動遊び(1) ルールの多い鬼ごっこ
14	実技テスト(1) 運動遊び習得の確認 体力向上のための運動遊び(2) 自分と人のからだを使う遊び
15	実技テスト(2) 縄跳び・腹筋 授業のまとめ

科目名	子どもの保健	授業コード	YK4728**	科目コード	YK4728
担当教員	堀 純子・向笠 京子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

主題：乳幼児の保健に関する基礎的な知識と考え方を学び、保育内容の領域「健康」を理解する。保育者として園での保健的な対応ができるようになる。

到達目標：

- 1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と保育者が行う保健活動を具体的に挙げることができる。DP①②④
- 2) 乳幼児の基本的な生活習慣や運動遊び、安全の現状と課題を挙げ、保育者に求められる対応が説明できる。DP①②④
- 3) 乳幼児の疾病について知り、感染拡大防止に関する保育者として適切な判断や対応ができる。DP ②⑤

2. 授業概要

「保育内容（健康）」で学ぶ内容や実践例と照らし合わせながら、子どもの心身の健康について考え、子どもの健康増進を図る保健活動の意義を理解する。

園での保健活動をおこなうための基礎知識として、「子どもの健康に関する現状と課題」「身体発育と運動機能・生理機能の発達」「乳幼児の主な疾病と感染症予防」などについて学ぶ。

これらの知識を踏まえて、日々の保育の中で保育者がどのような目的でどのような保健活動を行っているか具体例に触れながら理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容については、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで予習・復習を行い、宿題は次回までに必ず取り組む。
（想定必要時間は予習・復習30分、宿題60分程度）
- ・配布プリントをノートとして使用し、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
- ・新たにおこっている健康問題や様々な意見について報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。
（*保健の分野は特に変化が大きいので、自らも新しい情報に敏感になること）

4. 成績評価の方法及び基準

授業内小テスト・レポート・知識習得度チェックによる内容の理解度（評価の50%）
ノート、宿題による平常点、発表、グループワークでの授業への参加姿勢：（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『最新 保育士養成講座第7巻 子どもの健康と安全』
「最新 保育士養成講座」総括編集委員会編（全国社会福祉協議会）1,900円

参考文献：

『緊急ミニおたよりCD-ROMつき0～5歳児担任の病気・ケガガイド』
鈴木洋監修、永井裕美編（ひかりのくに(株)）1,500円

『死を招いた保育』 猪熊弘子著（(株)ひとなる書房）1,600円

他、授業時にも紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントはまとめて各自で管理する。
- ・提出物は期限厳守。
- ・暗記だけににならないように、よく考えながら理解することを心がける。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・子どもの保健の意義 (自分の健康観を確認し、子どもの心身の健康への影響因子を考え、子どもの保健の意義を知る)
2	健康の概念と健康指標 (健康の定義を確認した上でヘルスプロモーションの考え方を理解し、健康指標を確認した上で、子どもの健康についての特徴を大人と比較しながら考える)
3	子どもの健康に関する現状と課題 (母子保健や乳幼児の死亡、子どもの病気などに関する統計資料を用いて子どもの健康に関する現状を知り、現代社会における課題を考える)
4	地域における保健活動と虐待防止 (地域の子どもの対象とした保健活動について、園の役割や他専門職との連携について知り、虐待防止について考える)
5	身体発育と運動機能の発達 (乳幼児の身体発育および運動機能の発達の特徴と留意点を理解し、発育・発達の様子と評価の方法の実際を知る)
6	子どもの生理機能の発達 (乳幼児の体温、呼吸、循環について大人との違いや留意点を確認し、睡眠の変化と排泄の自立の様子を理解して、保育者としての援助の方法を学ぶ)
7	子どもの健康状態の観察 (日々の保育の中での健康観察の方法を知り、ポイントや留意点を理解する)
8	子どもの心身の健康状態の把握 (心身の健康状態について、乳幼児期によくみられる不調を知り、早期発見のための知識を学ぶ)
9	発育・発達の把握と健康診断 (発育・発達の把握のために必要な視点と乳幼児期の健康診断について理解し、保育上の留意点や評価の方法を知る)
10	保護者との連携 (乳幼児の子どもの保健には保護者との情報共有や連携が重要であることを理解し、方法や留意点を考える)
11	主な疾病の特徴① (学校感染症を中心に乳幼児期に多い感染症について、その症状や特徴を知る)
12	主な疾病の特徴② (感染症以外の乳幼児に多い疾病およびアレルギー疾患などの慢性疾患について、その症状や特徴を知る)
13	子どもの疾病の予防と対応① (感染症の予防について予防接種や園での感染拡大防止の方法を学ぶ)
14	子どもの疾病の予防と対応② (感染症以外の疾病の予防と園での保健活動や対応について学ぶ)
15	まとめ (保育者としての子どもの保健の重要事項を振り返って理解し、今後の学びに生かす)

科目名	子ども家庭福祉	授業コード	YK4766**	科目コード	YK4766
担当教員	飯塚 美穂子・板倉 香子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業は、子どもと家庭の現状を知り、子ども家庭福祉の理念や制度に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①子どもと家庭を取り巻く社会状況について理解し、社会福祉の課題について述べるができる。DP①、②、⑥
- ②現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について学び、自分の言葉で説明ができる。DP②
- ③子どもの人権擁護について理解を深め、子どもの権利に配慮した保育について考察することができる。DP①、②、⑥
- ④子ども家庭福祉の制度の概要や児童福祉施設に関する知識を身につける。DP②

2. 授業概要

授業では、社会福祉で学んだことを基礎として、テキストを中心に、子ども家庭福祉の制度や歴史、関連する福祉施設等について学ぶ。また、新聞記事や視聴覚資料等を活用し、具体的な事例を用いて、子ども家庭福祉分野の今日的課題について考察していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】子ども家庭福祉は幅広い分野と繋がりがあり、子どもの権利については法学、健全育成やひとり親家庭、家族については社会学、子どもの発達については心理学・医学等との関連が考えられる。予習はテキストを読むだけでなく、関連領域についても興味を持ち調べること。社会福祉の動向についても新聞等で理解しておくこと。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。また専門用語、制度・法律などは正確に覚えるよう復習することが求められる。予習・復習はそれぞれ1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

平常点（授業内の小テスト・課題提出・内容の充実度）（評価の30%）

定期試験による内容の理解度（評価の45%）

これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『乳幼児教育・保育シリーズ 子ども家庭福祉』 澁谷昌史・加藤洋子編著（光生館）2019年3月20日発行 1900円＋税

参考文献：『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2020』一般社団法人全国保育士養成協議会監修 西郷泰之・宮島清編集（中央法規）2019年12月1日発行 1200円＋税

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・社会福祉の単位を修得していることが望ましい。
- ・ファイルを用意し、配布資料の整理に努め、毎回持参すること。
- ・講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。
- ・履修者の積極的な授業参加を期待する。
- ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは何か
2	日本における子ども家庭福祉の歴史の変遷
3	現代社会と子ども家庭福祉
4	子ども家庭福祉の一分野としての保育
5	子どもの人権擁護と子ども家庭福祉
6	子ども家庭福祉の法体系
7	子ども家庭福祉の行財政と実施機関
8	児童福祉施設等と子ども家庭福祉の専門職・実施者
9	関係機関とのネットワーク
10	少子化と子育て支援・保育サービス
11	母子保健と子どもの健全育成
12	子ども虐待の防止とドメスティックバイオレンスへの対応
13	社会的養護（施設養護・家庭養護）
14	障害のある子ども・少年非行等への対応
15	まとめ（子ども家庭福祉の動向と課題：多様な家庭への支援）

科目名	保育者のための文章表現	授業コード	YE4821**	科目コード	YE4821
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題】保育者は「書く」ことによって、子どもの姿や思い、自分の援助や意図を振り返りながら、保育を理解する。現場においては、保護者への連絡帳、園だより、指導計画の立案、担当クラスの保育記録、研修会参加後のレポートなど、文章を書く機会も多い。すなわち、保育者にとって「文章を書く」という営みは、その仕事の中核をなすものである。この授業では、保育者に求められる実践的な「文章で表現する」力を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・保育現場で使用する保育用語や漢字を正しく理解し、活用できる力を習得する DP②、③、⑤
- ・多様な文章に触れ、表現する基礎となる語彙を増やし、正しい文章構成を理解する DP③、⑤
- ・見たこと、感じたこと、考えたことを適切な文章で表現できる力を習得するDP②、③
- ・お礼状やプロフィール、履歴書等の社会人に求められる諸書類の作成の方法を習得するDP①、⑤
- ・保育記録や指導計画の書式を理解し、作成方法の基礎を理解する DP②、③

2. 授業概要

この授業では保育者を志す学生が必要な国語力を身に付けることができるよう、授業回ごとにテーマを決める。テキストと配布プリントを使って「読む力、要約する力、文章を書く力」の育成に取り組む時間のほか、以下の時間を設定し、総合的な国語力の向上を目指す。

- 漢字テストを毎回行うことによって、保育者として必要な漢字の知識が定着するようにする。
- 読書の時間を毎回設けることによって、幅広い内容の文章に触れクラスメイトと共有できるようにする。
- 保育用語のテストを定期的に行うことによって、保育者として必要な用語を活用できるようにする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で教員が示す。授業テーマにより予習・復習の内容は異なるが、予習に60分、復習に30分程度が予想される。漢字及び保育用語テストに関しては、テストの実施計画を配布するので予習しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内の小テスト・課題・レポート（評価の70%）
授業中の参加姿勢・態度（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語（改訂版）』長島和代編（わかば社）2017年
『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉（改訂版）』長島和代編（わかば社）2017年

参考文献

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林 2016年 1,800円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育者を志す学生として必要な文章表現を身に付けるための授業である。本学における幼稚園・保育所実習や、就職への準備とも深く関わる授業となる。履修者の積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	実習生プロフィールの書き方
2	保育用語の基礎
3	保育環境構成の書き方
4	レポートの書き方
5	基礎実習の記録の書き方
6	生活をとらえ時系列で記録する
7	お礼状（はがき）を作成する
8	子どもの姿をとらえ記録する(1)遊びの場面
9	保育者の援助を理解し記録する(1)遊びの場面
10	保育者の意図を理解し記録する(1)遊びの場面
11	子どもの発達をとらえ、分析する(1)遊びの場面
12	お礼状（暑中見舞い）を作成する
13	部分実習指導案の基礎(1)絵本をテーマに
14	部分実習指導案の基礎(2)指導案を書く
15	部分実習指導案の基礎(3)添削・模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーションの記録方法
2	子どもの姿をとらえ記録する(2)生活の場面
3	実習園情報の書き方
4	お礼状(封書)を作成する(1)幼稚園
5	日々の目標の立て方
6	乳児の遊び場면을記録する
7	乳児の生活場면을記録する
8	子どもの姿をとらえ記録する(3)一日の保育のなかで
9	保育者の援助を理解し記録する(2)生活の場面
10	保育者の意図を理解し記録する(2)生活の場面
11	子どもの発達をとらえ、分析する(2)生活の場面
12	部分実習指導案の基礎(4)生活の場面
13	部分実習指導案の基礎(5)乳児の活動
14	お礼状(封書)を作成する(2)保育所
15	履歴書の書き方

科目名	特別支援と保育 I	授業コード	YE4851**	科目コード	YE4851
担当教員	下尾 直子・吉田 真理子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

障害や生育環境等に起因する個別のニーズをもった子どもの発達特性を理解し、発達に応じた支援の方法や配慮について学ぶ。学生の到達目標は以下の通りである。

- ①「障害」とは何か、また障害の特性について説明できる。 DP①、②
- ②生育環境などに起因する、様々な教育・保育のニーズを理解する DP②、④
- ③これからの障害児保育はどうあるべきか自分の意見を述べる事ができる。 DP①、⑥

2. 授業概要

授業では、まず現代の「障害」の捉え方と障害児保育の歴史的変遷を知り、発達と環境の観点から理解する。次に、軽度障害を含めた様々な障害、生育環境に起因する個別の教育的ニーズをもつ子どもについて、身体的心理的特性・心身の発達、生活上学習上の困難についての知識を映像や具体物を使った体験的授業によって知る。最後に、家庭・地域・専門機関との連携を含めた環境の整備、それにかかわる制度の理念や仕組みを知り、適切ななかかわり方の基礎を身につける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】毎日15分以上は新聞やテレビのニュースに触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。想定必要時間数は（15分×7日間×15週）27時間である。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。想定必要時間数（15分×15回）は、3時間45分である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点として、授業で配布するプリントに授業内容やコメントを記入して提出し、その内容の充実度を評価する（40%）

授業内で行われるグループワークへの参加態度・積極性を評価する（20%）

まとめの試験の成績を評価する（40%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども』 野田敦史・林恵 編（みらい）

参考文献

黒柳徹子「小さいときから考えてきたこと」新潮文庫 520円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの発達について、他の授業等でこれまでに得た知識や情報を整理して臨むこと

授業計画	
	【後期】
1	「障害」概念の変遷と現代社会（ICF、インクルージョン、合理的配慮、特別支援教育の制度、統合保育）
2	知的障害①（知的障害の心身の発達、心理的特性、知的障害児の生活・学習上の困難と支援の方法）ダウン症候群の特徴
3	発達障害①（発達障害の概要、自閉症スペクトラムとは、自閉症の特性と支援）
4	発達障害②ADHD/LD（ADHDの特性と支援、LDの特性と支援）
5	統合保育実践①（特別な支援を必要とする子への支援と配慮～職員間の連携と協働、環境設定など）
6	統合保育実践②（インクルーシブ教育と子ども同士の関わり）
7	統合保育実践③（家庭及び自治体・関係機関との連携）
8	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度発達障害による二次障害と教育的ニーズ ・生育環境の影響と生育環境に起因する教育的ニーズ
9	身体障害①（肢体不自由とは、脳性麻痺の特性と支援、肢体不自由児者を支援する道具など）
10	身体障害②視覚障害（様々な視覚障害、視覚障害の特性と支援）
11	身体障害③聴覚障害と言語障害（聴覚障害の特性と支援、構音障害の特性と支援、手話・マカトンサインなどの言語）
12	重度重複障害（医療的ケアの必要なこどもの生活と支援、病弱児の支援、重度重複障害の家族とその支援）
13	てんかんとその支援
14	児童発達支援センターの機能
15	14回までの講義全体をまとめ、知識の定着、概念の理解、応用力を確認する

科目名	保育原理	授業コード	YK5017**	科目コード	YK5017
担当教員	坪井 葉子・高橋 節子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

<主題>

保育の意義・目的・制度・基礎理論・方法、保育者の在り方を学ぶ

<到達目標>

- ①保育の意義及び目的を理解する DP①、②
- ②保育に関する法規と制度を理解する DP②
- ③保育の思想や歴史を知る DP②
- ④保育の現状と課題を理解する DP①、②
- ⑤保育の運営、地域との連携、安全への対応を理解する DP①、②、⑥
- ⑥保育者の在り方を知る DP①、②、⑥

2. 授業概要

現代の日本の保育の制度、基本的な考え方、保育実践の基本構造、保育の方法、保育者の役割について学ぶ。
保育の専門用語に慣れ、活用できるようになっていくことを目指していく。適宜、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」にも触れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

近所にある幼稚園や保育所などに興味を持って調べたり、日常生活の場で出会う子どもの姿に興味や関心を持って観察する。新聞等の報道にも関心を持って生活して欲しい。また、授業内で指示される内容について予習し、授業後は教科書にて復習をし、用語や考え方に慣れるようにする。予習・復習は90分程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験（小テスト、まとめのテスト）（評価の50%）
授業内の参加姿勢、課題提出の状況、課題の内容の充実度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

- ①『改訂版 Workで学ぶ保育原理』佐伯一弥・金瑛珠 他著（わかば社）2019年
- ②『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）
- ③『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）
- ④『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

参考文献：

『育ての心 上』（倉橋惣三文庫） 倉橋創惣三 著（フレーベル館）2008年 1,210円
『育ての心 下』（倉橋惣三文庫） 倉橋創惣三 著（フレーベル館）2008年 1,320円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観
2	保育に関する諸法令などからみる保育の原理
3	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理
4	養護と教育の一体化について
5	保育実践の基本構造（保育内容、保育の計画）
6	多様な保育内容と保育の方法
7	子育て支援
8	保育の歴史（西洋と日本の保育の創成期）
9	保育の歴史（西洋の保育実践の発展過程）
10	保育の歴史（日本の保育実践の発展過程）
11	倉橋惣三に学ぶ（児童中心主義）
12	保育者の在り方を考える（保育者の役割）
13	「子どもの最善の利益」と保育の質
14	養護、保育内容の復習
15	保育の基本的な考え方の復習 授業全体の復習

科目名	教育心理学	授業コード	YK4137**	科目コード	YK4137
担当教員	山本 有紀・岡本 かおり・浜名 真以				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児期の心身の発達過程と特徴、学びの過程と特性を学ぶ。保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解し、子どもの発達を捉える視点や子どもの実態に即した指導・援助の基本的な考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・乳幼児期における各時期と各領域での子どもの心身の発達過程についての知識を養い、生涯発達の視点から発達過程の特徴と保育実践における留意点を理解する。 DP②
- ・乳幼児の発達、学習と教育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、保育における援助や指導と結びつけて考えようとする姿勢や態度を身につける。 DP①、②
- ・環境との相互作用の重要性を捉えた上で、養育者や保育者に求められる役割についての知識を身につけ、その留意点を具体的に述べる事ができる。 DP①、②
- ・保育現場の動向から、子どもの実態に応じた援助や、子どもの主体性を育むような保育者の適切な働きかけについて理解する。 DP②、④

2. 授業概要

- ・養護と教育が一体となった営みである保育と教育心理学のつながりを理解し、身体・運動、知覚・認知、思考・言語、社会性などの領域での子どもの発達過程について学ぶ。
- ・他者との相互的な関わりでの基本的信頼感の獲得、社会的相互作用、生涯発達と初期経験の重要性といった保育実践に関わる心理学の基礎知識を身につけ、その意義を理解する。
- ・子どもの主体的な学習行動を支える教育、援助、また、個人差と個性、適応・不適応など心身の発達を踏まえた援助や指導といった、子どもの実態に即した保育援助や学習支援の基礎理論とその実際について学ぶ。
- ・幼児教育・保育の動向を学び、保育者に求められる役割について学ぶ。
- ・発達や学習、教育についての基礎知識を、保育における援助や指導と結びつけて考えようとする姿勢や態度を身につける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

詳細は授業時に担当教員より指示する。次回の授業内容に関わるテキストの該当章を、授業毎に指示をするので、読んで予習をすること。また、授業で出てきたキーワードをテキスト巻末の用語解説を使って復習をし、自分なりに毎回の授業を振り返りながら、子どもへの援助や指導についての考えをまとめる復習をすること。予習と復習を合わせて90分を確保すること。また、担当教員より予め指定したテーマのもと、レポート課題を作成して授業に持参し、講義をうけて提出をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点として授業への参加姿勢およびコメントペーパーの提出状況50%、授業内容の理解度の確認のための小テストとレポート課題50%担当教員が指定した授業の中で、授業内容の理解度の確認のための試験を実施する。また、担当教員より予め指定したテーマのもと、レポート課題を作成して授業に持参し、教員による講義と解説ののち、提出をする。レポート課題は、講義内容の視点と絡めて深く考察をしているかどうかを評価する。授業内容の理解度の確認のための小テストと、テーマに応じたレポート課題の記述内容から、授業内容の理解度を確認し、平常点と合わせて総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『教育心理学 保育者をめざす人へ』石井正子・松尾直博 編著 2004年 樹村房

授業内で、適宜資料を配布する。

参考文献：

- ・『エピソードで学ぶ 乳幼児の発達心理学 関係のなかでそだつ子どもたち』
岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる 著 2004年 新曜社 1900円
- ・『発達がわかれば子どもが見える -0歳から就学までの目からウロコの保育実践-』
田中真介 監修 乳幼児保育研究会 編著 2009年 ぎょうせい 1781円
- ・『実践につながる教育心理学』 櫻井茂男 監修 黒田祐二 編著 2018年 北樹出版 2200円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来、保育者や養育者となったとき、大人の関わりが子どもに大きく影響を及ぼすことを意識し、主体的に講義に臨むこと。保育における心理学の基礎的知識を習得することが望まれるため、予習や復習をしっかり行い、用語や授業内容を身につけること。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション、保育と教育心理学
2	発達と教育①発達理論、外的内的要因の相互作用、初期経験と環境の重要性
3	発達と教育②生涯発達、発達段階、発達課題
4	発達と教育③身体・運動発達
5	発達と教育④知覚・認知発達
6	発達と教育⑤思考・言語発達
7	人との相互的かかわりと子どもの発達①基本的信頼感、愛着
8	人との相互的かかわりと子どもの発達②感情と自我
9	人との相互的かかわりと子どもの発達③遊びと仲間関係（社会性）
10	学習①学習理論（条件付け、洞察学習、観察学習）
11	学習②主体的な学習活動を支える教育、援助（動機づけ、無力感、集団、学習評価）
12	学習③心身の発達を踏まえた援助や指導（レディネス、発達の最近接領域の理論）
13	個人差や個性とその援助 知能、気質・性格
14	適応・不適応とその支援 適応、精神的健康と障害
15	幼児教育の動向、保育者に求められる役割、資質、能力 全授業内容のまとめ、学習内容の理解度の確認および解説

科目名	幼児理解とカウンセリングマインド	授業コード	YK4156**	科目コード	YK4156
担当教員	坪井 葉子・宮川 千春・浜名 真以				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択

1. 主題・到達目標

【主題】 幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と個々の理解の方法、援助の方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 幼児理解の意義を理解し説明できる DP②
- (2) 幼児理解の原理・方法としての「カウンセリングマインド」「カウンセリング技法の基礎」について説明できる DP②
- (3) 事例に合わせた援助のために「カウンセリングの技法」を選択し活用できる DP②、④
- (4) 事例に基づき、問題の捉え方と対応を判断できる DP②、④
- (5) 事例に基づき、幼児への対応、保護者の心情の理解、保護者への対応方法、教職員間の連携、他機関との連携の具体的方法が構想できる DP②、④、⑤

2. 授業概要

幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と具体的な方法を身につける。
 保育者として子どもの心に寄り添い、必要な援助を行うために「カウンセリングの基礎知識」「カウンセリングマインド」を理解する。さらに事例を通して、具体的に子どもの発達や個々の状況を踏まえた適切な援助力、障害や不適応等への対応力を身につけていく。
 事例における幼児理解や援助等の検討に際し、意見交換を行い、協同的に保育にあたる態度を身に付けていく。(アクティブラーニング)

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだ内容を教科書やプリントで見直すこと。また次回の内容について教科書を読んでおくことは毎回丁寧に行っておくこと。加えて指示された復習課題・予習課題を行う。全体で毎回90分程度の授業外学習が必要と想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験（小テスト、まとめの復習）による授業内容の理解度、予習復習課題レポートの内容充実度（評価の50%）
 授業内の提出物の充実度と授業参加姿勢（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック 子どもの保育・発達支援編』 諸富祥彦・富田久枝 編著（ぎょうせい）2015

参考文献：

『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック 保護者支援、先生のチームワーク編』 諸富祥彦・富田久枝 編著（ぎょうせい）2015
 ￥2,310-

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修した心理学関連科目を復習しておくこと。

授業計画	
	【前期】
1	保育現場から見える“いまどき”の子どもたちの姿、 幼児理解の意義を知る
2	子どもと関わるカウンセリングテクニック① (ペーシング、ミラーリング、うなづき、あいづち、伝え返し)
3	子どもと関わるカウンセリングテクニック② (わたしメッセージ、リフレーミング、勇気づけ)
4	子どもと関わるカウンセリングテクニック③ (がんばり見つけ、ありがとう回し、モデリング)
5	子どもと関わるカウンセリングテクニック④ (ピアサポート・ピースフルスクールプログラム)
6	発達のアセスメント、愛着と発達
7	事例の検討① 0-1歳の発達の問題
8	事例の検討② 集団に馴染みにくい(非社会性)
9	事例の検討③ けんかが絶えない(反社会性)
10	事例の検討④ 保育者になじめない(分離不安)
11	事例の検討⑤ 朝、起きられない(養育の問題)
12	事例の検討⑥ 着替えができない、偏食(生活習慣)
13	事例の検討⑦ 指しゃぶり、爪かみ(神経性習癖)
14	事例の検討⑧ 自分の実習経験から
15	保育者の役割、全体のまとめと復習

科目名	教育課程論	授業コード	YK4186**	科目コード	YK4186
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・上田 よう子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】保育における計画の意義、編成・作成の方法、計画の評価、カリキュラムマネジメントについて学ぶ

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育課程、全体的な計画の意義や役割を理解する。DP②
- ・教育課程編成の方法、全体的な計画と指導計画の作成の方法を理解し、説明することができる。DP②
- ・「カリキュラムマネジメント」の意義と方法を理解し、説明することができる。DP②③
- ・子どもの育ちに配慮した指導計画を立案できる。DP②③④
- ・指導計画に基づき実践を行い、振り返りを通して保育の評価ができる。DP③③④

2. 授業概要

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷を学び、社会的背景からその意義を理解する。
- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の基本的な考え方の理解を深め、「教育課程」、「全体的な計画」の意義と具体的な内容、編成の方法を学ぶ。
- ・「教育課程」、「全体的な計画」と「指導計画」との関係性を学ぶ。
- ・「カリキュラムマネジメント」の意義を理解し、具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）にグループディスカッションを適宜取り入れ、学ぶ。
- ・「指導計画」については、立案・実践（模擬保育）・評価についてグループワークにて演習的に学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業ごとに教示された次回の授業に該当するテキストページや参考文献を読了し、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。
- ・授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『教育課程・保育の計画と評価 - 書いて学べる指導計画 - 』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著（萌文書林）2018年

参考文献

『指導計画の考え方・立て方＜第2版＞』久富陽子編著（萌文書林）2017年 1,980円

『新版 遊びの指導』幼少年教育研究所（同文書院）2009年 3,200円

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018年 240円

『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）2018年 320円

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。

各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。

課題は必ず期日を守って提出すること。

他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	教育課程・全体的な計画の意義
2	幼稚園教育の基本と教育課程の歴史の変遷
3	教育課程の編成と指導計画とのつながり
4	短期指導計画の作成①【幼稚園】 -幼児の発達の特徴とねらい・内容の考え方-
5	短期指導計画の作成②【幼稚園】 -環境構成、予測される子どもの姿、援助・配慮点の考え方-
6	模擬保育と評価①【幼稚園】
7	保育所保育の基本と全体的な計画の歴史の変遷
8	全体的な計画と指導計画とのつながり
9	乳児の特徴と指導計画
10	多様な保育計画（小学校との接続、異年齢保育）
11	短期指導計画の作成③【保育所】 -養護を意識した生活場面の指導-
12	短期指導計画の作成④【保育所】 -子どもの発達に即した指導案の立案-
13	模擬保育と評価②【保育所】
14	保育の評価 -カリキュラムマネジメントと幼児指導要録・保育児童要録・園児指導要録-
15	まとめ ①全授業内容の総復習 ②学習内容の理解度確認のための筆記試験 ③解説

科目名	保育者論	授業コード	YK4323**	科目コード	YK4323		
担当教員	柳井 郁子・高橋 節子						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。		期間	半期	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

〈主題〉

・保育者の仕事は、子どもの気持ちや発達を理解し、子どもの育ちを援助する仕事である。保育者を志す学生として「保育者になる」とはどのようなことか、保育者とはどのような職業であるか、保育者に求められる専門性とは何かを学ぶ。

〈到達目標〉

- ①保育者としての役割を担うために必要な資質を理解する DP①
- ②保育者としての役割を担うために必要な考え方を理解する DP①
- ③保育者としての役割を担うために必要な学びとは何かを理解する DP①、⑤
- ④保育者の専門性について理解する DP①、②

2. 授業概要

「保育者の役割」「保育者の仕事」「保育者の専門性」「保育者の協働」「保育者の成長」について、事例を多く取り上げながら学ぶ。そのうえで、「保育者になる」とはどのようなことかを、実際の保育場面と関連づけながら考察していく。授業を通じて、自らがどのような保育者をめざすのか具体的なイメージをもち、それぞれが今後の課題を意識化できるように、ミニレポートやコメントシートを作成し、それをを用いたディスカッションの機会を多く設ける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

次回の授業の予習として、該当箇所を読んでくること。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内の課題及びレポートについては、その内容の充実度を評価する。授業への参加姿勢については、授業内での発言やグループワークの発表における積極性や深く考察できているかどうかを評価する。＞（評価の50%）
第15回目の授業時間内に実施する確認テストにより、内容についての理解度を評価する。（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

〔テキスト〕

『保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友編（ミネルヴァ書房） 第2版 2016年

〔参考文献〕

『保育者の地平』 津守真（ミネルヴァ書房） 1997年 3300円

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。
授業内で行うディスカッションには積極的に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の受け方、「保育者になる」ということ）
2	保育者とは（保育者の制度的位置づけ、幼稚園教諭免許と保育士資格）
3	保育者の一日
4	保育者の仕事① - 子どもの思いや育ちを理解する
5	保育者の仕事② - 子どもと一緒に心と体を動かす
6	保育者の仕事③ - 文化や自然との出会いをつなぐ
7	保育者の仕事④ - 家庭への支援
8	保育者の専門性①保育者の専門性とは何か
9	保育者の専門性②計画に基づく実践と振り返り
10	保育者の専門性③事例の考察
11	保育者の連携と協働
12	保育者の役割と倫理
13	保育者にとっての学び
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成
15	14回までの講義全体のまとめと理解度の確認

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)	授業コード	YE4350**	科目コード	YE4350
担当教員	岡本 かおり・小林 由香				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】幼稚園教諭・保育士として、免許・資格の取得にふさわしい知識・技術・資質能力・考え方・態度について振り返り、定着を図る。

【到達目標】

- ・保育者に求められる使命感や責任感、教育的愛情について振り返り、説明及び実践できる。DP①⑥
- ・保育者に求められる社会性や対人関係能力について振り返り、説明及び実践できる。DP①⑤
- ・保育者に求められる子ども理解やクラス運営の力について振り返り、説明及び実践できる。DP①②③④
- ・保育者に求められる保育実践と乳幼児の指導援助のための知識や技能について振り返り、向上・説明及び実践できる。DP②③④

2. 授業概要

- (1)「履修カルテ」を記入し、実習や専門科目の内容を振り返りながら学習の不十分な点を自覚し、知識・技能の定着を図る。
- (2)保育職に就くことを前提に、役割演技(ロールプレイング)や事例研究、グループ討論を用いて自己課題を自覚し、
①使命感・責任感 ②社会性や対人関係能力 ③子ども理解やクラス運営 ④指導力に関する知識や技能の向上を図る。
- (3)授業での演習や自己研鑽を通して保育実践力の向上と自己課題の解決を目指す。

3. 授業時間外の学習(予習復習について)

毎回の授業時に教員が示す。予習と復習を合わせて、90分程度の時間がかかることが想定される。
演習課題の準備は手順と期限を守ること。
欠席回の授業(演習)内容について、把握しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・平常点<課題提出、各演習課題への準備・取り組み姿勢>(評価の50%)
- ・レポート(評価の50%)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『改訂版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 幼稚園 保育所編』
小櫃智子・矢藤誠慈郎 編著 2018 (株)わかば社

参考文献

『幼稚園教育要領解説』<最新版> 文部科学省(フレーベル館)240円(税別)
『保育所保育指針解説書』<最新版> 厚生労働省(フレーベル館)320円(税別)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』<最新版> 内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)350円(税別)

6. 履修の条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)

実際に保育職に就くことを前提に授業を進めるので、異なる進路を目指す者であっても、保育者としての免許・資格を取得する責任を自覚し、各々の保育実践力の向上を目指すこと。積極的な参加をし、「協同的に学ぶ」姿勢をもって授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の進め方、授業準備の方法と分担）
2	保育者実践力とは（履修カルテ記入、振り返り）
3	子ども理解の方法と実際
4	気になる子どもの理解と対応
5	保育のカリキュラムの基礎
6	保育のカリキュラムを考える
7	保育内容を考える
8	保育方法を考える
9	協同的な学びを考える
10	保育の振り返り
11	保護者および地域との関係づくり
12	幼保小の接続
13	園の安全管理
14	保育者の専門性
15	自分の「保育者像」をめざして（まとめ）

科目名	教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）＜実習指導＞	授業コード	YE4352**	科目コード	YE4352
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	演習及び実習	配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能について理解する。

- 【到達目標】
1. 教育実習Ⅰの目的と概要を理解できる DP①、②
 2. 教育実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる DP①、②
 3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる DP①
 4. 実習での観察や経験の記録方法を理解できる DP②、③
 5. 部分的な教育活動の計画を立てることができる DP②、③
 6. 部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する DP②、③、④
 7. 実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる DP②、③、④

2. 授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

教育実習Ⅰでは、幼稚園における保育に参加し、幼稚園教育の実際について理解する。また原則として部分実習を経験し保育実践の基礎的な技術を習得する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）

実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『指導計画の考え方・立て方＜第2版＞』久富陽子編著 萌文書林 2017年

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2020年度実習の手引き」

参考文献

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美 萌文書林 2018年 1,800円

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省 フレーベル館 2018年 320円

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 教育実習Ⅰの参加条件については「2020年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル1」（2曲）の弾き歌いができるようにしておく。
- ◆ 教育実習指導Ⅰの単位取得の条件については「2020年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	教育実習 I の概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習 I の実習目標の設定
3	実習園の理解の方法 園の教育理念と方針、沿革を理解する 実習日誌の書き方の基本（園の概要）
4	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
5	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
6	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
7	保育教材の研究 教材の準備の実際
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	実習直前演習 実習中の報告事項や方法の理解・健康管理について
10	<教育実習 I 10月19日（月）～10月31日（土）> 事後指導① 教育実習 I の振り返りと今後の課題
11	事後面談（訪問教員との振り返り）
12	事後指導② 教育実習 I の記録の振り返りと学びの整理
13	
14	
15	

科目名	教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）＜実習＞	授業コード	YE4352**	科目コード	YE4352
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	演習及び実習	配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園教育における補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態とこれを踏まえた教育活動の特色を理解する。

【到達目標】

1. 幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる DP②、③、④
2. 保育者の援助や配慮を観察し、事実に基づいて記録することができる DP②、③、④
3. 実習園の教育理念や方針を理解し、特色ある教育活動を理解することができる DP①、②、③、④
4. 保育者の補助的な役割を担い、幼稚園教諭の役割を理解することができる DP①、②、③、④、⑤

2. 授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

教育実習Ⅰでは、幼稚園における保育に参加し、幼稚園教育の実践について理解する。また原則として部分実習を経験し保育実践の基礎的な技術を習得する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）

実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『指導計画の考え方・立て方＜第2版＞』久富陽子編著 萌文書林 2017年

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2020年度実習の手引き」

参考文献

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美 萌文書林 2018年 1,800円

『幼稚園教育要領解説＜最新版＞ 文部科学省 フレーベル館 2018年 320円

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 教育実習Ⅰの参加条件については「2020年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル1」（2曲）の弾き歌いができるようにしておく。
- ◆ 教育実習指導Ⅰの単位取得の条件については「2020年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	教育実習 I の概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習 I の実習目標の設定
3	実習園の理解の方法 園の教育理念と方針、沿革を理解する 実習日誌の書き方の基本（園の概要）
4	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
5	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
6	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
7	保育教材の研究 教材の準備の実際
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	実習直前演習 実習中の報告事項や方法の理解・健康管理について
10	<教育実習 I 10月19日（月）～10月31日（土）> 事後指導① 教育実習 I の振り返りと今後の課題
11	事後面談（訪問教員との振り返り）
12	事後指導② 教育実習 I の記録の振り返りと学びの整理
13	
14	
15	

科目名	教育実習ⅠⅠ（事前事後の指導を含む）＜実習指導＞	授業コード	YE4353**	科目コード	YE4353
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	演習及び実習	配当学年	2	期間	
単位数	3	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅱの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能について理解する。

- 【到達目標】1. 教育実習Ⅱの目的と概要を理解できる。DP②
 2. 教育実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP①、②
 3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。DP①
 4. 実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。DP②、③
 5. 幼稚園教育要領や実習園の教育課程を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。DP②
 6. 責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。DP③、④
 7. 実習経験を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP①

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

教育実習Ⅱでは、原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園における一日の学級運営の実際や保育記録の取り方、保育を実践するための専門的技術や知識を習得する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）

実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『指導計画の考え方・立て方＜第2版＞』久富陽子編著（萌文書林）2017年

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美（萌文書林）2018年 1,800円

『新版 遊びの指導』幼少年教育研究所（同文書院）2009年 3,200円

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018年 320円

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 教育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ ピアノⅡ、幼児音楽Ⅱを履修すること
- ◆ 教育実習Ⅱの参加条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 弾き歌い検定（レベル1以上）に合格、ピアノ特別検定（4月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
- ◆ 教育実習指導Ⅱの単位取得の条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること

授業計画	
1	教育実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅰの振り返りと教育実習Ⅱの実習目標の設定 実習園の理解とオリエンテーションの実際
3	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
5	幼稚園における全日責任実習の流れと指導計画
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法・健康管理
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	<教育実習Ⅱ 5月18日（月）～5月30日（土）> 事後指導① 教育実習Ⅱの振り返りと今後の課題
10	事後指導② 教育実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理
11	事後面談（訪問教員との実習経験の振り返り）
12	幼稚園における実習からの学びの整理
13	総合的な実習からの振り返り・就職に向けての課題
14	
15	

科目名	教育実習ⅠⅠ（事前事後の指導を含む）＜実習＞	授業コード	YE4353**	科目コード	YE4353
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	演習及び実習	配当学年	2	期間	
単位数	3	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】 幼児との関わりを通して実習園の教育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。

【到達目標】

1. 幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に幼児に関わることができる。DP③、④
2. 保育者の補助的な役割を担うことを通し、幼稚園教諭の役割を理解できる。DP①、⑤、⑥
3. 実習園での保育の実態を事実即して記録することができる。DP②
4. 実習園の教育課程等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。DP②、③
5. 指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。DP③、④

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

教育実習Ⅱでは、原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園における一日の学級運営の実際や保育記録の取り方、保育を実践するための専門的技術や知識を習得する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）

実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『指導計画の考え方・立て方<第2版>』久富陽子編著（萌文書林）2017年

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美（萌文書林）2018年 1,800円

『新版 遊びの指導』幼少年教育研究所（同文書院）2009年 3,200円

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018年 320円

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 教育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ ピアノⅡ、幼児音楽Ⅱを履修すること
- ◆ 教育実習Ⅱの参加条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 弾き歌い検定（レベル1以上）に合格、ピアノ特別検定（4月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
- ◆ 教育実習指導Ⅱの単位取得の条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること

授業計画	
1	教育実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅰの振り返りと教育実習Ⅱの実習目標の設定 実習園の理解とオリエンテーションの実際
3	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
5	幼稚園における全日責任実習の流れと指導計画
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法・健康管理
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	<教育実習Ⅱ 5月18日（月）～5月30日（土）> 事後指導① 教育実習Ⅱの振り返りと今後の課題
10	事後指導② 教育実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理
11	事後面談（訪問教員との実習経験の振り返り）
12	幼稚園における実習からの学びの整理
13	総合的な実習からの振り返り・就職に向けての課題
14	
15	

科目名	ピアノⅡ		授業コード	YL4436****	科目コード	YL4436	
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・三國 彰子・辻田 由利子・岡本 有子 押川 涼子・小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒 大澤 美紀・池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望						
授業形態	演習	配当学年	2		期間	通年	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	—	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支える演奏力を養う。

ピアノⅠで得た音楽の基礎知識を生かし、演奏技術をさらに向上させる。DP②

ピアノ演奏における表現力を身につける。DP③、④

グレードⅠからⅤの学生はに合格する。DP②、④

2. 授業概要

ピアノの演奏技術、表現力を高め保育現場で実践、応用できる力につなげる。

ピアノⅠの担当教員による20分間の個人レッスン。

ピアノⅠⅠの課題の他、実習園での課題曲、就職試験の曲など、その時点で必要となる個別の課題の演習を行う。

<実務経験のある教員による授業>

担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者であり、各方面でピアノ指導の実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。

授業毎の課題の予習、復習には毎日30分以上の練習が必要と想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%（グレードⅤは50%）、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%（グレードⅠからⅤ）

平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。

定期試験は、演奏の完成度を評価する。

音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ、実力に合うテキストを使用する。

【前期】バイエル「標準バイエルピアノ教則本」8番以降106番まで・ブルグミュラー「25の練習曲」・カバレフスキー「こどものためのピアノ小曲集」・ギロック「こどものためのアルバム」・シューマン「ユーゲントアルバム」・湯山昭「子供の国」※
・湯山昭「お菓子の世界」・シューマン「子供の情景」「アラベスク」任意の2曲・ショパン「ワルツ」、「ノクターン」

※「ⅠⅠワルツ」「Ⅹジャズ」「ⅩⅠⅠⅠゴーカート」は繰り返しあり

【後期】担当教員と相談のうえ①②いずれかのコースを選択、各課題（自由曲）の演習授業

①クラシック曲コース ②幼児歌曲コース

定期試験：①任意の1曲 暗譜で演奏 ②任意の3曲 楽譜可、伴奏は自由（簡易、オリジナル）

・グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1. 「ピアノⅠ」の単位修得ができています。

2. 「教育実習ⅠⅠ」「保育所実習ⅠⅠ」を履修する学生は、「ピアノⅠⅠ」を履修しなければならない。

3. 実習のオリエンテーションや就職活動など、行事日程外での欠席は事前に担当教員に報告する。

またその他、やむを得ない理由により遅刻、欠席する際は必ず連絡を入れその旨を伝える。

4. 前期 2/3以上、後期2/3以上の出席がない場合は定期試験を受けることができない（欠格条件）

5. 出席状況、成績が優秀で、ピアノ検定レベル9を10月までに取得した者は、

YOUKONピアノソロ出演のオーディション参加資格 が得られる。

6. 試験時の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ（男性はネクタイ着用）、

黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキング、とする。

上着の着用は5月1日から9月30日の期間は自由とする。

授業計画	
	【前期】 以下の課題の演習授業 定期試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏
1	個別の学修計画 課題の確認
2	課題曲① 技法の演習
3	課題曲① 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
4	課題曲① 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
5	課題曲① 奏法の演習 表現、音色について
6	課題曲① 奏法の演習 表現の探究
7	課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏
8	課題曲② 技法の演習
9	課題曲② 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
10	課題曲② 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
11	課題曲② 奏法の演習 表現、音色について
12	課題曲② 奏法の演習 表現の探究
13	課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏
14	課題曲② 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	<p>【後期】 担当教員と相談のうえ(A)(B)いずれかのコースを選択 各課題(自由曲)の演習授業 ・グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	個別の学修計画 課題の確認
2	<p>(A) 課題曲① 技法の演習 (B) 課題曲①② 技法の演習</p>
3	<p>(A) 課題曲① 技法の演習 曲の分析(構成、形式) (B) 課題曲①② 歌詞に合わせた曲の理解</p>
4	<p>(A) 課題曲① 奏法の演習 曲の理解(作曲家、様式) (B) 課題曲①② 奏法の演習</p>
5	<p>(A) 課題曲① 奏法の演習 表現、音色について (B) 課題曲①② 表現、伴奏アレンジ</p>
6	<p>(A) 課題曲① 奏法の演習 表現の探究 (B) 課題曲③④ 技法の演習</p>
7	<p>(A) 課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏 (B) 課題曲③④ 歌詞に合わせた曲の理解</p>
8	<p>(A) 課題曲② 技法の演習 (B) 課題曲③④ 奏法の演習</p>
9	<p>(A) 課題曲② 技法の演習 曲の分析(構成、形式) (B) 課題曲③④ 表現、伴奏アレンジ</p>
10	<p>(A) 課題曲② 奏法の演習 曲の理解(作曲家、様式) (B) 課題曲⑤⑥ 技法の演習</p>
11	<p>(A) 課題曲② 奏法の演習 表現、音色について (B) 課題曲⑤⑥ 歌詞に合わせた曲の理解</p>
12	<p>(A) 課題曲② 奏法の演習 表現の探究 (B) 課題曲⑤⑥ 奏法の演習</p>
13	<p>(A) 課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏 (B) 課題曲⑤⑥ 表現、伴奏アレンジ</p>
14	<p>(A) 課題曲② 演奏発表形式での練習 (B) 課題曲 演奏発表形式での練習</p>
15	後期のまとめ(演奏および講評)

科目名	幼児音楽ⅠⅠ	授業コード	YE4454**	科目コード	YE4454
担当教員	秋山 徹 ・ 飯田 千夏 ・ 神谷 明美 ・ 野坂 順子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	一
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

幼児教育の現場で音楽活動を展開するために必要な幼児音楽教育の内容を理解し、幼児の発達に応じた音楽指導力を習得することを目指す。以下を身につける事を到達目標とする。

【到達目標】

- ・ 音符や記号、拍子、音階など音楽の基礎的知識を確認し身につける。DP②
- ・ 幼児歌曲、唱歌、手遊び歌、わらべうたなどのレパートリーを広げる。DP②
- ・ 保育の現場を想定した正しい発音、発声法を身につける。DP②
- ・ 様々な楽曲を各自のレベルに合わせ弾き歌いができる。DP②
- ・ 音楽表現力・技術力を向上する。DP②、③
- ・ 幼児歌曲や器楽演奏の指導計画を立て、実践の場で活かすことができる。DP①、②、③

2. 授業概要

領域「表現」のねらい及び内容と音楽的な保育実践との関連、ならびに保育の基本的な見方・考え方にふさわしい指導と評価の方法を学ぶ。そして音楽的な保育実践を通して領域「表現」のねらい及び内容が達成されていくための指導者に必要な音楽的な知識や技能の確立を目指す。「幼児音楽Ⅰ」で学んだ内容を基に、多様な音楽活動にも対応出来る、より実践的な音楽的表現力を身につけ、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを念頭においた、子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む指導力と保育を構想する力を身につけることを目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。
想定必要時間は2時間程度となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習＞（評価の75%）
弾き歌いによる模擬保育（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『コード伴奏による幼児歌曲100曲集』秋山徹編（カワイ出版）
『みんなで手遊びOne・Two・トン』妹尾美智子 市川恭子 共著（ドレミ楽譜出版社）
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）
参考文献
『こどものうた200』1760円 / 『続こどものうた200』1980円 小林美実著（チャイルド本社）
他、授業中に適宜資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- 1・休まず受講することが基本である。
- 2・「教育実習Ⅰ」「保育所実習Ⅰ」を履修する学生は、「幼児音楽ⅠⅠ」を履修しなければならない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）
2	幼児歌曲弾き歌い演習(1) 模擬保育
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(1)（春の季節・行事の歌、検定レベル11の歌、手遊び歌・わらべ歌）
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(2)（春の季節・行事の歌、検定レベル12の歌、手遊び歌・わらべ歌）
5	実習直前音楽指導(1) 指導計画の作成と模擬保育
6	実習直前音楽指導(2) 模擬保育と振り返り
7	幼児器楽演習(1) 指導計画の作成
8	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(3)（夏の季節・行事の歌、検定レベル13の歌、手遊び歌・わらべ歌）
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(4)（夏の季節・行事の歌、検定レベル14の歌、手遊び歌・わらべ歌）
10	歌唱個人指導(1) 指導の実際を想定し留意点を考える
11	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(5) 幼児の音楽活動と指導の展開
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(6)（秋の季節・行事の歌、検定レベル15の歌、手遊び歌・わらべ歌）
13	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
14	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(1) 模擬保育 グループA
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(2) 模擬保育 グループB

授業計画	
	【後期】
1	幼児歌曲弾き歌い演習(2) 模擬保育
2	前期演習曲復習
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(7) (秋の季節・行事の歌、検定レベル16の歌、手遊び歌・わらべ歌)
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(8) (秋の季節・行事の歌、検定レベル17の歌、手遊び歌・わらべ歌)
5	歌唱個人指導(2) 指導の実際を想定し留意点を考える
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(9) (秋の季節・行事の歌、検定レベル18の歌、手遊び歌・わらべ歌)
7	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(10) 幼児の音楽活動と指導の展開
8	幼児器楽演習(2) 指導計画の作成
9	幼児歌曲弾き歌い演習(3) 模擬保育
10	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(1) 模擬保育 グループA
11	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(2) 模擬保育 グループB
12	幼児音楽Ⅱ演習曲復習(1) 模擬保育 グループA
13	幼児音楽Ⅱ演習曲復習(2) 模擬保育 グループB
14	幼児音楽後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
15	「幼児音楽Ⅱ」総括

科目名	子ども家庭支援の心理学	授業コード	YK4729**	科目コード	YK4729
担当教員	坪井 葉子・宮川 千春・浜名 真以				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

主題：生涯発達、家族関係の発達における発達課題と子どもの精神保健とその課題を理解する

到達目標：

- 1) 生涯発達の観点から各発達段階における発達課題を説明できる
(乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期・中年期、高齢期) DP①, ②
- 2) 家族・家庭・親の機能と育ちについて理解している DP②
- 3) 子育て家庭の現状と課題を理解している DP④
- 4) 子どもの生育環境、心の健康の課題について、保育者としての対応を考えることができる DP④

2. 授業概要

生涯発達、家族・家庭・親子、精神保健の観点から、各発達段階や発達の变化的課題を学ぶ。乳幼児の発達と影響し合う生涯発達の過程や家族・家庭・親の発達の变化的、精神保健的な課題を知ることで、保育の対象である乳幼児に対する理解を深め、家庭に対する援助の重要性についても理解を深めていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習する。（必要想定時間は60分程度）
- ・生涯発達や家庭・家族の問題、精神保健に関する問題について報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。
- ・授業内容について、次の回のテキスト該当箇所を読んで予習をしておく。（必要想定時間は60分程度）

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験（小テスト、まとめの確認テスト）（評価の50%）
授業への参加姿勢、提出課題の内容の充実度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：新 基本保育シリーズ9『子ども家庭支援の心理学』 児童育成協会 監修、白川佳子、福丸由佳 編（中央法規出版）2019年

参考文献：

『家族の心理― 変わる家族の新しいかたち』小田切紀子 他著（金剛出版）2017年 2,860円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

他の心理学科目や家庭支援、子育て支援を学ぶ科目との関連を考えながら受講すること。

授業計画	
	【後期】
1	乳児期の発達
2	幼児期の発達
3	学童期の発達
4	青年期の発達
5	成人期・中年期の発達
6	高齢期の発達
7	家族・家庭の意義と機能
8	家族関係・親子関係の理解
9	子育ての経験と親としての育ち
10	子育てを取り巻く社会的状況
11	ライフコースと仕事・子育て
12	多様な家庭とその理解
13	特別な配慮を要する家庭
14	子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの心の健康にかかわる問題 まとめと復習

科目名	子どもの健康と安全	授業コード	YE4731**	科目コード	YE4731
担当教員	堀 純子・向笠 京子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

<主題>

「子どもの保健」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康を守り高めるために必要な援助の方法や事故防止、安全管理について学ぶ。

<到達目標>

- 1) 安全面や衛生面に配慮した保育者としてふさわしい服装と髪型を考えて準備できる。 DP①
- 2) 応急処置と救急時の対応が可能で、乳幼児の心肺蘇生法が完全に身につけている。 DP①、②、⑤
- 3) 子どもの健康観察とバイタルサインの測定方法がわかり、実践できる。 DP②、④
- 4) 保育における保健的対応（衣服の着脱、排泄の援助、食事支援、虫歯予防、身体計測等）が実践できる。 DP②
- 5) 保健に関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、園での感染症対策と安全対策について具体的に説明できる。 DP②、⑥

2. 授業概要

乳幼児の健康と安全に関する知識を得て、保育者は具体的にどのような支援を行えばよいのか、国のガイドラインを読み、事例を調べ、グループワークで考えて発表する。子どもが自らの健康や安全について考えて行動できるようになるために、そして保護者への働きかけについても考える。

技術については、テキストとデモンストレーションで基本的な理論と手順やポイントを学んだ後、人形や器具・用具を用いながら、実際の場面を想定して練習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容については、毎回、テキストの該当箇所をよく読んで予習・復習を行い、宿題は次回までに必ず取り組む。（想定必要時間は予習・復習30分、宿題60分程度）
- ・配布プリントをノートとして使用し、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
- ・授業で学んだ内容とは異なる方法や考え方もあるので、自らも情報収集して様々な方法や考え方を考える。
- ・ガイドラインを探して、すぐに参照できるようにしておく。（各自でプリントアウトすることを推奨する）

4. 成績評価の方法及び基準

授業内小テスト・レポート・知識と技術習得度チェックによる内容の理解度（評価の50%）

ノート、宿題による平常点、発表、グループワークでの授業への参加姿勢：（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

- 『最新 保育士養成講座第7巻 子どもの健康と安全』 「最新 保育士養成講座」総括編集委員会/編（全国社会福祉協議会）1,900円
- * 「2018年度改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）
- * 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）
- * 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）（*WEBサイト）

参考文献：『子連れ防災手帖』つながる.com編（株）メディアファクトリー 1,000円

『危険がいっぱい！街のジャングルブック 子どもの事故予防教育と救命処置』千代孝夫編（株）メディカ出版 1,900円

『子育てハッピーアドバイス知ってよかった小児科の巻』吉崎達郎、明橋大二著（一万年堂出版）933円

『0～5歳児 楽しく身につく生活習慣アイデアBOOK』CEFIこども知育研究所編（株）ナツメ社 1,200円 他、授業時に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・「子どもの保健」を履修済みのこと。
 - ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
 - ・配布プリントはまとめて各自で管理する。
 - ・提出物は期限厳守。
 - ・グループワークでは主体的、積極的に動くこと。
- <準備>
- ・授業開始前に手洗いをする。
 - ・名札を着用し、保育ができる服装と髪型を整える。
 - ・その他、各回に必要な物を準備する（詳細は授業時に説明する）。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康（子どもの健康増進、心身の発達を促す個別対応と集団全体の健康について考える）
2	子どもの健康と保育の環境、手洗いと衛生管理 （保育における保健的観点を踏まえた保育の環境や衛生管理について理解する）
3	事故防止及び安全対策 （*ガイドラインや最新のデータに基づき、事故防止について理解する）
4	危機管理と災害への備え （*ガイドラインや最新のデータに基づき、危機管理と災害への備えについて考える）
5	子どもの体調不良等に対する適切な対応 バイタルサインと健康観察 （子どもの体調不良時の健康観察とバイタルサインの測定方法を学ぶ）
6	傷害が発生した場合の対応、応急処置と包帯法 （傷害時の応急処置と包帯法を具体的に学ぶ）
7	乳幼児の心肺蘇生法 （救急時の対応や乳幼児の心肺蘇生法を習得する）
8	AED、気道異物除去法、*アレルギー性疾患への対応 （AEDの使用法、気道異物除去法、アナフィラキシーショックの対応とエピペンの使用法を習得する）
9	感染症の集団発生の予防、発生時と罹患後の対応 （*ガイドラインを踏まえ、保育における感染症対策について理解する）
10	健康及び安全の実施体制、保健活動と健康教育 （子どもの健康及び安全の実施体制について学び、保健活動や健康教育に関する活動を考える）
11	慢性疾患や障害など個別的な配慮を要する子どもへの対応 （慢性疾患や障害を持つ子どもの保育や援助方法、対応を理解する）
12	3歳未満児への対応：衣服の着脱、排泄の援助、睡眠 （3歳未満児への生活援助について具体的に学ぶ）
13	保健的対応①食事支援、歯みがきとむし歯予防 （食事支援や歯についての予防と適切な対応を具体的に学ぶ）
14	保健的対応②身体計測 （体重、身長、頭囲、胸囲など身体発育の測定の仕方を知る）
15	技術の確認 （演習で学んだ技術の習得を確認し、正しい技術を身につける）

科目名	幼児教育の方法と技術	授業コード	YE4772**	科目コード	YE4772
担当教員	和気 瑞江・佐野 政基・クリス チャベス・大倉 マヤ・山下 順子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【前期】子どもの健やかな成長に大きく寄与する児童文化財のうち、与え手にとって演劇的要素の必要な人形劇、パネルシアター、絵本・紙芝居などを体験しながら、基礎的技術の習得を目指す。

- ・様々な児童文化財の知識を身に付け、それぞれの特色を理解する。DP③④
- ・児童文化財に関する技術を習得し、実践できる。DP③④
- ・児童文化財を通し、保育者としての感性や表現力を豊かにする。DP①

【後期】保育に携わる者自身が豊かな表現力をもって魅力ある文化の与え手となることを目指す。

- ・保育者にふさわしい基本的な表現技術を身につける。DP①、②
- ・個々の表現力の可能性を探る。DP③
- ・他者の表現に対する理解を深める。DP⑤

2. 授業概要

【前期】演習中心の授業。

実際に幼児の前で演じることを想定しながら、人形劇やパネルシアター、紙芝居などを演じ、体験することで、知識や技術を身に付けていく。

【後期】表現の基礎として、ダンスや演技を自らの身体で体験し、身に付ける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【前期】授業で演習したものは自分のものとして実践の場で活かす生かすことができるよう、何度も繰り返す。必要想定時間は1時間である。また、日常的に、幼児のための歌・絵本・童話などを積極的に触れ、表現活動の幅を広げる努力する。必要想定時間は1時間である。

4. 成績評価の方法及び基準

ペーパーテストは実施しない。

平常の授業態度、熱意、発表内容等で評価する。

授業への参加姿勢（評価の70%）

発表の内容など（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】『保育者のための言語表現の技術—子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践—』（萌文書林）

必要なものは教員が作成し、配付する。

参考文献：

- ・「紙芝居一演じ方のコツと基礎理論のテキスト」子どもの文化研究所・編 一声社 2,200円
- ・「実習に役立つ パネルシアターハンドブック」古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子・著 萌文社 1,650円
- ・「紙とえんぴつではおはなし（紙さえあればいつでも・どこでも楽しめる3）藤田ひろ子 著 一声社 1,320円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演劇的な表現の苦手な学生も、将来は幼児の表現力を高める指導の担い手となるのだから、自らがより優れた表現者であろうとする熱意を持って授業を受けること。

【前期】第1回授業は、2クラス合同のガイダンス(K200教室)に集合すること：通常授業の教室と違うので、注意すること）を実施する。

第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。

【後期】第1回授業は、2クラス合同のガイダンス(K200教室)に集合すること）を実施する。

第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。

ダンス受講時は、必ず動きやすい服装（トレーニングウェアやTシャツ、スウェットなど）に着替えて集合すること。

ジーンズでの受講は不可。靴は室内用スニーカーやダンスシューズ着用のこと。

※半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）

※前期・後期ともに途中で担当教員の交替をする。

※詳細な日程はガイダンス（第1回授業）で説明をする。

授業計画	
	<p>【前期】 できるかぎり多くの様々な『児童文化財』を体験する。 途中、教室の変更があるので、注意すること。</p>
1	<p>【和気・佐野】2クラス合同で前期のガイダンス ～授業の内容について説明をする</p>
2	<p>【和気】ペープサート①～ペープサートの特性と人形作成 【佐野】絵本①～絵本の特性と作品の選び方について</p>
3	<p>【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技・人形劇の人形製作～人形のデザイン 【佐野】絵本②～読み聞かせのポイントと実演発表</p>
4	<p>【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作～デザインに基づき作成 【佐野】紙芝居の特性と演じ方について</p>
5	<p>【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作～仕上げ 【佐野】パネルシアター①～パネルシアターの特性と作品紹介～</p>
6	<p>【和気】人形劇③人形の操作と演技 【佐野】パネルシアター②～パネルシアターの制作及び練習～</p>
7	<p>【和気】人形劇④グループで脚本検討と練習 【佐野】パネルシアター③～パネルシアター実演発表1回目～</p>
8	<p>【和気】人形劇⑤グループごとの発表 【佐野】パネルシアター④～パネルシアター実演発表2回目～ ※ 次週から教室を変更する</p>
9	<p>※ 教室が変更になるので間違えないこと 【佐野】絵本①～絵本の特性と作品の選び方について 【和気】ペープサート①～ペープサートの特性と人形作成</p>
10	<p>【佐野】絵本②～読み聞かせのポイントと実演発表 【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技・人形劇の人形製作～人形のデザイン</p>
11	<p>【佐野】紙芝居の特性と演じ方について 【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作～デザインに基づき作成</p>
12	<p>【佐野】パネルシアター①～パネルシアターの特性と作品紹介～ 【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作～仕上げ</p>
13	<p>【佐野】パネルシアター②～パネルシアターの制作及び練習～ 【和気】人形劇③人形の操作と演技</p>
14	<p>【佐野】パネルシアター③～パネルシアター実演発表1回目～ 【和気】人形劇④グループで脚本検討と練習</p>
15	<p>【佐野】パネルシアター④～パネルシアター実演発表2回目～ 【和気】人形劇⑤グループごとの発表</p>

授業計画	
	【後期】 演技とダンス両方の基礎を身につける。演技（大倉、山下担当）とダンス（クリス担当）を初回ガイダンスを除く7回ずつで交代。
1	【クリス・大倉・山下】2クラス合同で後期のガイダンス ～授業の進め方と内容～
2	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
3	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
4	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
5	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
6	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
7	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
8	【大倉または山下】演技に関するまとめと復習 【クリス】ダンスのまとめと復習 ※ 次週から教室を変更する
9	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
10	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
11	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
12	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
13	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
14	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
15	【大倉または山下】演技関連および後期授業のまとめ 【クリス】ダンス関連および後期授業のまとめ

科目名	総合表現（ぐりとぐら）	授業コード	YE477300	科目コード	YE4773
担当教員	山下 順子・秋山 徹・古田 賢司				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

- ・子どもを対象とする劇作り（総合表現）を通して、豊かで魅力ある自己表現・集団表現を実現させる。DP③、⑤
- ・未就学児への発表上演を通して子ども理解を深める。DP②、④
- ・五感を駆使し、協同作業によってものごとを練り上げていく劇作りと上演の体験は、自主性を磨く。DP①、④
- ・表現力を高める。DP⑤
- ・コミュニケーション力を養う。DP⑤
- ・将来子どもや様々な他者と交流する際に必ず役立つ。DP①、⑤、⑥

2. 授業概要

日本の代表的絵本のひとつ『ぐりとぐら』を着ぐるみ人形による音楽劇として舞台化し、総合的な表現活動を体験しながら、履修の総仕上げとして幼児の観客を対象に発表上演する。

オーディション、舞台セッティング、人形着用・操作、リハーサル、上演、総括と進行する。

<実務経験のある教員による授業>

劇団黒テントの俳優として、多数の作品に出演した経験がある教員が、その経験に基づき演技・表現技術の指導を行い、「着ぐるみ人形劇」を作り上げる科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：台本を読みながら演技のアイデアを想像する。セリフを覚える。なぜそのセリフを発するのか、どういう状況で発するのかを考え個人練習する。きっかけを覚える。楽譜を見て個人練習。

グループごとに自主稽古。過去の上演DVDを見て研究しておく。

復習：授業で行った内容を台本・楽譜を見ながら個人練習し、思い出しておく。授業でうまくいかなかったところは必ず克服しておく。

そして新たなアイデアを想像し、付け足しておく。（これが次回授業の個人目標となる。）

4. 成績評価の方法及び基準

平常点<授業内発表及び上演>（評価の50%） 授業への参加姿勢（評価の50%）

平常点は各個人の劇の中での役割の習熟度を評価する。履修者全体の表現の習熟度を評価し、それに対する個人の評価を各授業内発表後、講評する。

授業への参加姿勢は、各個人のモチベーションを高め、劇全体の芸術レベルをあげるために必要に応じて講評。セクションごとにグループワークを進め、履修者が自主的な行動が円滑にできるようにするために、その際必要に応じて学生通して適切に遅れ具合、進み具合を判断ができるように、議論させることもある。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）による台本

『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）とそのシリーズ

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最終上演に必ず参加する。

一日集中練習日あり（7月23日オープンキャンパス、10月下旬補講日から11月初旬土日、詳細後日）。

授業前に全員で協力してセットを組み、身体・声・楽器のウォームアップしておく。

演技者以外に、演奏者、合唱、演出助手・音響・舞台スタッフとしての履修もあり。

キャスト、オーケストラ、合唱、スタッフのグループ分けは希望調査後、オーディションにて決定。

授業計画	
	<p>【前期】 一通り「ぐりとぐら」を最後まで作り、各人が劇の流れ全体を把握する。(基本的に前田ホールにて授業。オーケストラはシルバーマウンテンにて別稽古あり。) ※稽古の進行程度により授業内容が多少変更になることがある。</p>
1	ガイダンス、台本を読む、上演DVD鑑賞
2	オーディション/スタッフ・キャスト希望調査
3	キャスティング発表、読み合わせ、着ぐるみフィッティング、人形操作
4	舞台セッティング①(基礎編) 着ぐるみ着用練習、セリフ練習/演奏練習開始
5	舞台セッティング②(習熟編) 頭なし着ぐるみ着用立ち稽古①シーン1~5 (Aグループ)
6	舞台セッティング③(自立編) 頭なし着ぐるみ着用立ち稽古②シーン1~5 (Bグループ) / 合唱練習① (Aグループ)
7	ダンス振り付け①M15 / 頭なし着ぐるみ着用立ち稽古③シーン6~10 (Aグループ) / 合唱練習② (Bグループ)
8	ダンス振付②M3 頭なし着ぐるみ着用立ち稽古④シーン6~10 (Bグループ) 合唱付き
9	頭付き着ぐるみ着用立ち稽古①Aグループ(合唱・マイク付き)。
10	頭付き着ぐるみ着用立ち稽古②Bグループ(合唱・マイク付き)
11	オーケストラと合わせ稽古①Aグループ(マイク、頭付き)
12	授業見学会(観客の前で稽古する)歌のお姉さんのシーン作り
13	オーケストラと合わせ稽古②Bグループ(マイク、頭付き)
14	あらし(各人が全体の流れを把握する)Aグループ
15	あらしBグループ(全体の流れを復習)

授業計画

	<p>【後期】 発表上演に向けて、個々の表現技術、かつ劇全体の芸術レベルを高め、1つの作品として履修者全員でまとめあげていく。 本番を行うホールでの授業リハーサルもあり。 ※稽古の進行程度により授業内容が多少変更になることがある。</p>
1	思い出し稽古(合唱・オーケストラ付き)Aグループ
2	思い出し稽古(合唱・オーケストラ付き)Bグループ
3	シーン4(動物たち全員が集まってくるところ)からを、細かく繰り返し稽古する。Aグループ
4	シーン4(動物たち全員が集まってくるところ)からを、細かく繰り返し稽古する Bグループ
5	集中練習Aグループ 最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する 歌のお姉さんのシーン稽古
6	集中練習Bグループ 最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する ぐりとぐらの道具稽古
7	集中練習、通し稽古 Aグループ
8	集中練習、通し稽古 Bグループ
9	通し稽古(音響照明外部スタッフ見学、黒子衣装つき)Aグループ
10	通し稽古(音響照明、プロジェクター、黒子衣装あり)Bグループ
11	本番のホールで仕込み。ロビーデコレーション 抜き稽古(必要なシーンを抜き出して稽古する)
12	ゲネプロ(本番と同じ状態での最終通し稽古)Aグループ
13	ゲネプロ、Bグループ
14	上演3回(Senzoku Gakuen Festival)、終演後撤収作業
15	総括(上演を終えて目標を達成できたかどうか、こうしたほうがもっとよくなるという提案も含めて全員で検証、共有する) 人形メンテナンス、倉庫整理

科目名	特別支援と保育ⅠⅠ	授業コード	YE4786**	科目コード	YE4786
担当教員	下尾 直子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

「特別支援と保育Ⅰ」で学んださまざまな障害の特性や対応方法に関する基礎知識をもとに、保育者に求められている具体的な指導や支援の方法を学ぶ。

以下を学生の到達目標とする。

- ① 障害のある子どもや生育環境上支援の必要な子どもの特性と発達を適切に評価できる DP②
- ② 教材・環境の工夫をするなど、発達の見通しをもった適切な援助ができる DP②、④
- ③ 保護者や家族に対する支援の必要性を説明できる DP①、④
- ④ 児童発達支援における地域連携の意義を説明できる DP①、④、⑤

2. 授業概要

まず支援の実際に不可欠な基礎知識として「特別支援と保育Ⅰ」で学んだ障害特性に関する知識や他科目で学んだ子どもの発達段階や発達課題に関する知識を確認する。次に、子どもの理解と一人ひとりに合った適切な支援の見通しを持つために、個別の計画・記録・評価、教材・環境への配慮、集団生活への配慮について学ぶ。さらに職員間の連携、保護者や家族への支援の意義と方法を学ぶ。また地域の関連機関について知り、適切な連携の方法を学ぶ。保育職に求められている実践力、対応力を身につけるために、ビデオ事例を通して、グループでディスカッションを行い、支援計画を立て、教材研究を行うなど、実践的な経験を積み重ねる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】毎日、1日15分以上は新聞やテレビのニュースに触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。想定必要時間数（15分×7日間×15週）は27時間である。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。想定必要時間数（15分×15回）は3時間45分である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

毎回プリントを配布し、授業内容やコメントなどを記入し提出する。内容の充実度を評価する。（評価の40%）

授業内で行われるグループワーク等への参加態度・積極性を評価する。（評価の30%）

まとめの試験の成績（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

*テキスト：「特別支援と保育Ⅰ」で使用したテキストを使用する

『演習・保育と障害のある子ども』野田 敦史・林 恵 監修（株）みらい 2017年

*参考文献 「自閉症の僕の七転び八起き」 KADOKAWA 1300円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「特別支援と保育Ⅰ」を履修し、その内容を十分に理解していること

授業計画	
	【前期】
1	1年時の復習（「障害」のとらえ方、障害の特性）
2	統合保育とは（その魅力と課題）
3	発達評価の実際（「気になる子」の発見と様々な検査、評価することの意味、さまざまな評価の観点）
4	統合保育① 障害のある子とともに過ごす生活と遊び
5	統合保育② 共に育つ子どもたち
6	統合保育③ 統合保育の現場からみた困難
7	個別の支援計画① こどもの現状把握
8	個別の支援計画② 個別の支援計画から指導計画へ
9	児童発達支援センターの実際①（統合保育との差異、他専門職との連携、クラスのプログラム作成など）
10	児童発達支援センターの実際②（個別の指導計画に沿ったプログラム）
11	児童発達支援センターの実際③（「問題行動」への対応と指導）
12	障害のある子の保護者や家族への支援
13	様々な連携の重要性（地域とのつながり、他専門職とのつながり、就学へ向けての連携）
14	障害のある子の育ち 先の人生を見通す支援
15	14回までの講義全体をまとめ、障害のある子の保育についての理解を確認する まとめの試験

科目名	社会福祉	授業コード	YK4795**	科目コード	YK4795
担当教員	下尾 直子・飯塚 美穂子・板倉 香子・西岡 弥生				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業においては、社会福祉の基礎知識を身につけ、子ども家庭支援にかかわる保育者の役割について学ぶことを目標とする。

【到達目標】

- ①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学び、自分の言葉で説明ができる。DP①、⑥
- ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。DP②
- ③社会福祉における相談援助や利用者保護に関する仕組みについて学び、援助の基本的な態度や姿勢について理解する。DP①、②、⑥
- ④国内外の社会福祉の動向と課題について理解し、考察することができる。DP②、⑥

2. 授業概要

専門職としての保育士が備えるべき社会福祉の基礎知識について講義を行うとともに、具体的事例をイメージし、身近な社会福祉の課題について自分で考える力を向上できるように、学習を進める。現代社会における社会福祉の幅広い対象や専門職、保育との関連性の理解を促すため、新聞記事などの報道資料、映像や写真を使った具体的事例の紹介、またそれらを題材としたグループワークやディスカッション等を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストを事前に読むだけではなく、日頃から社会で起きていることに関心を寄せ、考察を深めておくこと。新聞記事などの資料を読む、報道されたニュースについてまとめるなどの学習に取り組むこと。

【復習】毎回の授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を読み直し、授業で扱った専門用語等について繰り返し復習し、正確に記憶すること。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

定期試験による内容の理解度（評価の40%）

平常点＜授業への参加姿勢・積極性（評価の30%）、課題提出・授業内の小テストの状況と内容の充実度（評価の30%）＞

平常点については、グループワークやディスカッションにおける貢献度を評価する。

これらを合わせて、授業内容全般についての理解度を総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『保育と社会福祉【第3版】』橋本好一・宮田徹 編著（みらい）2019年4月

参考文献：『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房編集部 編（ミネルヴァ書房）2019年4月 ￥1,760（税込）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。
- ・講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、教科書とともに毎回持参すること。授業内容の筆記を必ず行うこと。
- ・自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行うことを期待する。
- ・授業内で回収した課題については、随時授業内で返却、振り返りを行う。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション・社会福祉とは何か（保育と社会福祉）
2	現代社会の特徴と生活課題
3	社会福祉の歴史の変遷
4	社会福祉の制度と実施体系①社会保障制度
5	社会福祉の制度と実施体系②社会保険・公的扶助
6	社会福祉の制度と実施体系③法体系・実施機関と行財政
7	社会福祉の制度と実施体系④社会福祉施設と専門職
8	子ども家庭支援と社会福祉
9	共生社会と障害者福祉
10	高齢者の福祉と介護保険
11	社会福祉における相談援助①相談援助の理論
12	社会福祉における相談援助②対象と過程
13	社会福祉における相談援助③相談援助の方法
14	社会福祉における利用者保護の仕組み
15	まとめ：社会福祉の動向と課題（子育て支援のこれからと地域福祉）

科目名	合唱	授業コード	YE4916**	科目コード	YE4916
担当教員	藤原 規生 <伴奏>柴田 美奈・佐藤 全子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題】

ともに声を合わせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験することで、将来の幼児教育の実践の場において不可欠な歌の力・音楽の力を、実践・吸収する。人が集い歌うことの本質的な意味を感じ、考えることを主題とし、以下を目標とする。

【到達目標】

- ・音楽の基礎を確認し、合唱に活かすことができる。DP②、③
- ・クラスで協力して合唱曲の練習に取り組み、人と人の繋がりの重要さや自分の役割について意識できる。DP①、⑤
- ・公演の場で「第九」の合唱を行い、声を合わせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験する。DP③

2. 授業概要

前期は、発声法などの歌唱の基本を確認しながら、クラス単位で課題曲に取り組む。

後期は、総合的な演習として、一人一人の力を高めるとともに、合唱の本質的な魅力を味わいながら、年末の「第九」公演のための練習を重ねる。

<実務経験のある教員による授業>

高等学校（音楽科）の講師としての実務経験があり、また、合唱指揮者として「第九」を始め、多数の公演の合唱指揮を務めた教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

短時間でも良いので、発声練習、基礎練習の時間を設けること。

少しの時間を活用し、復習・予習・繰り返し練習することの大切さを実感すること。

子どもの環境に溢れる音楽のあり方についても常に思考をめぐらして探求し、実践の場に役立てられるようにすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加態度（60%）、演奏会への各リハーサルを含む参加姿勢（40%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『ベートーヴェン 交響曲第九番 合唱終曲<原語カナ付>普及版・歓喜の歌』（音楽之友社）

『女声合唱とピアノのための「出発の歌」-1971年生まれのポップ・ソング-』信長貴富編曲（カワイ出版）

『JCDA合唱セレクション①「願い」』小原孝作詞 樹原涼子作曲（日本合唱指揮者協会）

幼児教育の現場で使用出来そうな実践的教材を副教材として、その都度配布または、購入を指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合唱を通して一つのものを作り上げることの楽しさ、難しさ、尊さを体感する為にも、授業中のマナー、学ぶものとしての姿勢を問い続ける。

配布プリントや学習内容を記録したものを一冊のノートもしくはファイルにまとめること。

五線譜のノートも必要に応じて活用。

授業計画	
	【前期】
1	合唱についてと通年授業の展開説明をガイダンスし、簡単な合唱曲を歌いつつパート分けを行い、呼吸・姿勢・基本的発声法を学ぶ。1年間で使用する楽曲についても少しずつ歌いながら、楽しみを共有する。
2	歌うことの楽しさを自らも体験するためにも、ハンド・サイン、カノン、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。洗足学園校歌を高らかに歌い、共に歌うことの喜びを感じ合う。
3	ウォーミングアップ、呼吸法、姿勢、楽譜の持ち方、目線。歌う上での大切な要素を常に気を付けることの大切さを学ぶ。また大勢の中で一人一人の役割、パートとしての役割を実践的な合唱曲で深める。
4	校歌、第九、翼をください、を取り上げ、積極的に歌うことの喜びを感じさせる。 また、クラス合唱についてなども考察を深める。
5	翼をください、出発の歌、レパートリーを広げていく楽しみを味わう。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。(4楽章 合唱部分冒頭) クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
6	出発の歌、花嫁など様々な曲を歌える喜びを感じ合う。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。(練習番号M) クラス合唱の取り組みについても、各クラスで練習する時間を設ける。指揮者や伴奏者、選曲。
7	校歌、願い、出発の歌、など、毎週歌うことで、歌い込んでいくことの素晴らしさを感じ合う。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、声を出すことの喜びとともに実感し合う練習を深める。 クラス合唱練習時間を設け、自分たちで音楽する上での工夫を主体的に感じる。
8	毎週の練習の積み重ねが、一人一人の努力の積み重ねが如何に素晴らしいか、歌うことを通して感じ合う。 名曲に取り組むことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 各クラスで選曲した合唱曲を通して、より豊かなサウンドを生き生きと求める。
9	前期のレパートリー(校歌、翼をください、花嫁、出発の歌、願い)それぞれの曲の魅力を感じ、合唱することの喜び、自ら声を出し表現することの喜びを体得する。 第九は12月の演奏会に向けての意識を高め、難しい⇒やれば出来る、を少しづつでも実感することを目標とする。
10	クラス合唱を通して、ハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。各クラスの練習でより良い練習法なども協力して模索していく。
11	第九の前半部分の積極的な歌い込みをし、ハーモニーの広がりを体感する。クラス合唱の練習を重ね、より歌うことの喜びを味わう。
12	ハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
13	美しい声、心地よいハーモニーを作る上で、歌う姿勢、歌うための心構え、をより理解し、ステップアップする。第九練習、クラス合唱練習を深める。
14	翌週の発表に備え、並びの確認や演奏力UPを目指す。
15	前期のまとめ 各クラス合唱発表、各クラスの演奏を讃え合い、感想をまとめる。

授業計画	
	【後期】
1	12月の「第九」に向けて、前期の総復習。後期に向けての指針を各自認識する。練習スケジュール、体調管理の大切さ、全員で創り上げることの意義を深く意識する。
2	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』 p35～：フーガ重点的に。
3	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Rを中心に。
4	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Sを中心に。特にテンポが変わる部分を重点的に。
5	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Sを中心に。特にテンポが変わる部分を重点的に。
6	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』 p56 Prestissimoから エンディング、クライマックスの魅力を味わう。
7	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、構成を考え高らかに歌い合うことの意義を深める。 発声、立ち方、呼吸法、視線、参加意識。自己研鑽を重ね演奏することの尊さを感じ合う。
8	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、構成を考え高らかに歌い合うことの意義を深める。 発声、立ち方、呼吸法、視線、参加意識。自己研鑽を重ね演奏することの尊さを感じ合う。
9	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
10	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
11	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
12	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
13	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
14	「第九」本番 12月10日(木)
15	年間のまとめ

科目名	演技実習	授業コード	YE4924**	科目コード	YE4924
担当教員	篠原 真・クリス チャベス・南 智子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題・到達目標】

演技実習は、授業成果発表の場であるミュージカル公演に向け、演者としてダンス・歌の特化を目的とした授業である。前半8回はダンス、後半7回は歌の実習を行う。

1. ミュージカル公演を成功に導くためには、キャスト全員が一つになり作品を作りあげていかなければならない。まずは、仲間とのコミュニケーション能力の向上を第一義とする。DP①、⑤、⑥
2. キャストは歌い、踊り、演じる表現者として、観客に喜び悲しみを丁寧に伝えなくてはならない。この授業によって学生一人ひとりの能力は確実にレベルアップする。DP②、③、⑥
3. 限られた時間の中で、それぞれがアイデアを出し合い、創意工夫しながら最善の方法を考える力を養うことが出来る。DP③、④、⑥
4. ミュージカルを通じて創造性、協調性、独自性を持った人材の育成を目標とする。DP①、③、⑤、⑥

2. 授業概要

授業計画に沿って、実習を行う。

なお、公演日は8月23日(日)、会場は洗足学園中学高等学校大講堂を予定している。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（音とり、暗譜、ダンス振り付け）を与える。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）

平常点＜授業内の小テスト＞（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

木曜V限の「ミュージカル（前）」を履修すること。

要望として動きやすい服装を着用すること。

他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	【前期】
1	(ダンス) ガイダンス ストレッチ 「Hail Holy Queen」前半部分の振り付け 難易度の高い部分の練習
2	(ダンス) ストレッチ 「Hail Holy Queen」後半部分の振り付け 難易度の高い部分の復習、及び前後半の全体練習
3	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」前半部分の振り付け 難易度の高い部分の練習
4	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」後半部分の振り付け 難易度の高い部分の復習、及び前後半の全体練習
5	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」の復習 「Ball of Confusion」前半部分の振り付け
6	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」の復習 「Ball of confusion」後半部分の振り付け、及び前後半の全体練習
7	(ダンス) ストレッチ 「Ball of Confusion」の復習 「The Greatest Melody Ever Told」の振り付け 難易度の高い部分の練習
8	(ダンス) 「Hail Holy Queen」「Joyful Joyful」「Ball of Confusion」 「The Greatest Melody Ever Told」の復習・まとめ
9	(歌) ストレッチ・発声練習 ソプラノ・メゾソプラノ・アルト各声部のパート決定 「祈りの歌」音とり、及び音楽稽古
10	(歌) ストレッチ・発声練習 「祈りの歌」復習 「The Greatest Melody Ever Told」音とり、及び音楽稽古
11	(歌) ストレッチ・発声練習 「The Greatest Melody Ever Told」復習 「Hail Holy Queen」「Ball of Confusion」音とり、及び音楽稽古
12	(歌) ストレッチ・発声練習 「Hail Holy Queen」「Ball of Confusion」復習 「Oh Happy Day」音とり、及び音楽稽古
13	(歌) ストレッチ・発声練習 「Oh Happy Day」復習 「His Eyes on the Sparrow」「Ode to Joy」音とり、音楽稽古
14	(歌) ストレッチ・発声練習 「His Eyes on the Sparrow」「Ode to Joy」復習 「Joyful Joyful」音とり、及び音楽稽古
15	(歌) ストレッチ・発声練習 「祈りの歌」「The Greatest Melody Ever Told」「Hail Holy Queen」 「Ball of Confusion」「Oh Happy Day」「His Eyes on the Sparrow」 「Ode to Joy」「Joyful Joyful」の復習・まとめ

科目名	社会的養護 I	授業コード	YK5025**	科目コード	YK5025
担当教員	板倉 香子・飯塚 美穂子				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業は、社会的養護について体系的に学び、社会的養護における保育士の役割について理解することを目標とする。

学生の到達目標は以下である。

- ①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学び、社会的養護を必要とする子どもの状況について自分の言葉で説明することができる。DP①、②、⑥
- ②社会的養護の制度や実施体系について理解する。DP②
- ③家庭養護と施設養護に関する知識を身に付け、社会的養護にかかわる専門職の役割について理解する。DP①、②、⑥
- ④子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、施設保育士としての役割について考察することができる。DP①、②、⑥

2. 授業概要

授業では、社会的養護に関する専門的な知識を深める講義を行うとともに、新聞記事や映像資料等を参照しながら、具体的事例を通して社会的養護の現状を解説する。家庭養護と施設養護に関する具体的な事例を紹介しながら、社会的養護における保育士の役割について深く考察する機会をもつことで、社会的養護への理解を促す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストの指定された箇所を読むだけでなく、日頃から関連領域の新聞記事などに関心を持ち、考察を深めること。

【復習】毎回の授業後にテキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。授業で扱った専門用語等については繰り返し復習し、正確に記憶することが求められる。

予習・復習はそれぞれ1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

レポートによる内容の理解度（評価の30%）

授業への参加姿勢（グループワークや事例検討等への参加度・貢献度）（評価の30%）

課題提出・授業内的小テストの状況と内容の充実度（評価の40%）

これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『乳幼児教育・保育シリーズ 社会的養護Ⅰ・Ⅱ』谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著（光生館）2019年

参考文献：『施設で育った子どもたちの居場所 「日向ぼっこ」と社会的養護』社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ著（明石書店）2009年 1,600円+税

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・社会福祉の単位を修得していることが望ましい。
- ・ファイルを用意し、配布資料の整理に努め、毎回持参すること。
- ・講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。
- ・履修者の積極的な授業参加を期待する。
- ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念
2	社会的養護の歴史の変遷
3	子どもの権利擁護と社会的養護
4	社会的養護の基本原則
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務
6	社会的養護の制度と実施体系①社会的養護にかかわる制度と法体系
7	社会的養護の制度と実施体系②社会的養護のしくみと実施体系
8	社会的養護の対象
9	家庭養護（里親・ファミリーホーム）
10	施設養護①（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）
11	施設養護②（児童自立支援施設・児童心理治療施設・障害児入所施設）
12	社会的養護に関わる専門職
13	社会的養護に関する社会的状況と課題
14	被措置児童の虐待防止とその課題
15	まとめ（社会的養護の課題と展望：社会的養育の推進に向けて）

科目名	子どもの食と栄養	授業コード	YE5032**	科目コード	YE5032
担当教員	齋藤 優子・伊藤 みどり				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

乳幼児期の食生活は子どもの健康を左右するばかりでなく、生涯にわたる食生活習慣が決まる重要な時期である。子どもたちにとって、よりよい食生活を実現していくために、健康的な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。DP①②
 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。DP②
 食育の基本と内容および食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。DP⑥
 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。DP②⑥
 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。DP②

2. 授業概要

栄養学の基礎知識、乳児期・幼児期のライフステージ別栄養、その特徴、その各期別栄養問題（偏食、食物アレルギー、生活習慣病等）についての解説と演習。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

提出物は期限を守り、復習時には教科書およびハンドアウトを熟読すること。想定必要時間は2時間となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%、小テスト40%、課題提出20%
 平常点は授業への参加状況、コメントシートの提出状況で総合的に判断する。
 授業時間中に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト
 『子どもの食生活』＜第4版＞ 上田玲子編著（ななみ書房）
 参考文献
 『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本』太田百合子編著（羊土社）2,400円
 授業中に適宜資料を配布する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。
 保育士自身が食品や栄養について興味をもち、自分自身の健康・栄養管理もしっかりと行うことが大切である。正しい知識を身につけるとともに、この授業が自身の食生活を見直すきっかけにもなることを望む。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス、小児の栄養と食生活の意義
2	子どもの発育・発達と栄養
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	「日本人の食事摂取基準」の意義とその活用
5	食事構成に関する基礎知識 献立作成・調理の基本
6	食育 食を通して子育てと子育てを支援する
7	食事バランスガイド、小テスト
8	乳児期の食生活
9	幼児期の食生活
10	学齢期・思春期の食生活
11	生涯発達と食生活
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	ミルクとベビーフードの調査・試食
14	家庭や児童福祉施設における食生活
15	まとめ ー全授業内容の総復習ー

科目名	乳児保育 I	授業コード	YK5055 **	科目コード	YK5055
担当教員	上田 よう子・堀 純子・坪井 葉子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】

3歳未満児への保育のニーズが拡大し続けていることを認識し、3歳未満児保育の現状や課題を理解すると同時に役割の重大さを理解する。0, 1, 2歳の心身の発達に関する専門的知識を学ぶと共に、それを踏まえた保育の内容や運営体制を理解する。また、職員間との連携と協同、保護者との連携について理解し意識を高める。

【到達目標】

- ・3歳未満児保育の現代的意義を理解し、重要性を認識する。DP①
- ・0, 1, 2歳の心身の発達を踏まえた保育の内容を理解する。DP②
- ・0, 1, 2歳の生活や遊びを保障する環境を理解する。DP②
- ・3歳未満児保育における計画・記録について理解を高める。DP②
- ・保護者への支援について意識を高め、連携について理解する。DP①、②

2. 授業概要

乳児期は、人格の基礎が形成される大切な時期である。そのため、この授業では、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的なかかわりや、援助の仕方を学んでいく。乳児保育の現状と課題を理解し、3歳児未満児の発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学ぶ。また、映像や事例、玩具に触れながら発表・グループ討議などを通して乳児保育について考えていく。

3歳未満児の発達を保障する環境について理解を深め、保育者の適切な援助や関わりを学ぶ。職員間の連携、保護者との連携について理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

3歳未満児の発達に興味を持ち、日々の生活の場所で見かける子どもの行動や親の対応等を観察をする。自分が住んでいる地域の3歳未満児の政策を理解し、それに基づいている3歳未満児の保育の実情を調べる。授業内で指示された内容について予習し、毎回保育所保育指針や教科書を用いて授業内容の復習を行う。予習・復習は90分程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
 授業内での課題・レポート（評価の25%）
 15回目のまとめのテストによる内容の理解度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『はじめて学ぶ乳児保育（第二版）』志村聡子（編）、同文書院、2019年

参考文献：

- ・『保育所保育指針解説書』（2018）厚生労働省（フレーベル館）352円
- ・「動画で保育がわかる！はじめての0・1・2歳児」（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（著）、ひかりのくに株式会社、2019年1,320円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育士という職業の責任の重さを自覚して授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：乳児保育の基本 乳児保育はなぜ必要か 妊娠～出産までを知る 予習：シラバスを読んでくる。 復習：生活の中で乳児の姿を観察してくること。
2	乳児保育の意義 ―親になるということ― 予習：テキストの該当ページを読んでくる。 復習：学んだことを整理してくる。
3	乳児保育の現状と課題 ―保育所における乳児保育、保育所以外の施設における乳児保育― 予習：保育園について調べてくる。 復習：自分の地域の保育所以外の施設について調べ用紙に書いてくる。
4	保育所保育指針における乳児保育―乳児とは― 予習：保育所保育指針の乳児保育の部分を読んでくる。 復習：授業内容を振り返り、まとめる。
5	0歳児の生活と環境 予習：テキストp198, 199を読み興味を持った乳児保育関連グッズについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、まとめる
6	0歳児の遊びと環境 ―抱っことおんぶ― 予習：抱っこ紐について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、まとめる。
7	1歳児の生活と環境 予習：次回の授業内容部分について事前学習をする 復習：授業内容を振り返り、まとめる
8	1歳児の遊びと環境 予習：次回の授業内容部分について事前学習をする 復習：授業内容を振り返り、まとめる
9	2歳児の生活・遊びと環境 予習：次回の授業内容部分について事前学習をする 復習：授業内容を振り返り、まとめる
10	保育士等による援助やかかわり、配慮 予習：次回の授業内容部分について事前学習をする 復習：授業内容を振り返り、まとめる
11	乳児保育における記録① デイリープログラムと個別指導計画 予習：テキストLesson13「0・1・2歳児クラスのデイリープログラム」を読み、気づいたことを書きだしてくる。 復習：学んだことを整理する。
12	乳児保育における記録② 乳児の個別指導計画の理解と作成 予習：テキストp44, 45を読んでおく。 復習：学んだことを整理する。
13	乳児保育における連携・協働①職員間・地域との連携を考える 予習：次回の授業内容部分について事前学習をする 復習：授業内容を振り返り、まとめる
14	乳児保育における連携・協働②保護者との連携・協働・支援を考える 予習：実習先の保育所における保護者支援について調べて来る 復習：保護者支援についてまとめる。
15	まとめ：授業内容全体の振り返りと確認、まとめのテスト

科目名	乳児保育ⅠⅠ	授業コード	YE5055**	科目コード	YE5055		
担当教員	坪井 葉子・堀・純子・上田 よう子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。		期間	半期	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】

乳児保育は、人格の基礎が形成される時期であるため、一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的なかかわりや、援助の仕方を理解する。

乳児期の発達や特性に合わせた玩具や保育教材を通し、子どもの遊びや配慮の実際について具体的に理解する。乳児保育における計画を作成し理解を深める。

【到達目標】

- ・3歳未満児の発達・特性を踏まえた具体的な援助や配慮の仕方について構想できる。DP①、②
- ・3歳未満児の発達・特性を踏まえた子どもの関わりの考え方を自分の言葉で説明できる。DP①
- ・3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の環境について具体的に理解する。DP②
- ・乳児保育における計画を理解し、部分的に作成できる。DP②

2. 授業概要

3歳児未満児の発育や・発達の過程の基本を学び、その特性や時期にそった援助の方法や関わりについて理解を深めていく。

また生活や遊びと環境について、実際の援助を実践的に学び、保育内容を具体的に理解していく。

指導計画の作成や配慮の実際などについて発表やグループワークなどを通して学び、乳児保育について考えていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

3歳児未満児の発達の過程を理解し、一人ひとりの発達に合った遊びが配慮ができるように調べてきたり、実践できるように作成、練習してることが必要となる。

授業内で指示された内容について予習し、毎回保育所保育指針や教科書を用いて授業内容の復習を行う。

予習・復習は90分程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

授業内での課題・レポート（評価の25%）

15回目のまとめのテストによる内容の理解度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『改定 乳児保育の基本』阿部和子（編）、萌文書林、2019年

参考文献：

・『保育所保育指針解説書』（2018）厚生労働省（フレーベル館）352円

・『動画で保育がわかる！はじめての0・1・2歳児』（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（著）、ひかりのくに株式会社、2019年1,320円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育士という職業の責任の重さを自覚して授業に臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	子どもと保育士等との関係の重要性 —受容的で応答的な関わり—
2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え
3	3歳未満児の発達過程のイメージと理解
4	一日の生活の流れと保育の環境
5	遊びと援助の実際① —手遊び・わらべ歌・ふれあい遊び—
6	遊びと援助の実際② —絵本の読み聞かせ—
7	生活と援助の実際① —授乳・離乳食—
8	生活と援助の実際② —着脱・排泄—
9	遊びと援助の実際③ —発達や興味に即した玩具づくり—
10	子ども同士の関わりとその援助の実際 —自我の芽生えの視点から—
11	乳児保育における配慮の実際① —子どもの健康・安全に関して—
12	乳児保育における配慮の実際② —環境の変化・3歳児クラスへの進級にむけての配慮—
13	乳児保育における計画の実際 —長期・短期的な計画—
14	乳児保育における計画の実際 —集団・個別の指導計画—立案
15	乳児保育の理念と課題、乳児保育Ⅰ・Ⅱ全体のまとめ

科目名	子ども家庭支援論	授業コード	YK5057**	科目コード	YK5057
担当教員	飯塚 美穂子・板倉 香子・内川 麻実子				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業においては、保育の専門性を活かした子育て家庭への支援についての知識を身につけ、子ども家庭支援の方法を理解することを目標とする。

【到達目標】

- ・現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況を学び、子ども家庭支援の必要性について自分の言葉で説明ができる。DP②、⑥
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について学び、その知識を応用して使うことができる。DP②、④、⑤
- ・子育て家庭に対する支援体制について理解し、その現状と課題について具体的に述べるができる。DP②、⑤
- ・地域の子育て家庭への多様な支援や関係機関との連携について学び、適切な援助方法を提示することができる。DP②、④、⑤、⑥

2. 授業概要

現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解するとともに、子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について学ぶ。特に、保育者に期待されている、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解を深め、事例検討や、グループワーク、ディスカッション等を通して具体的に考え、個々の家庭に応じた援助方法を身につける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストは指定された箇所を事前に読んで授業に出席すること。また、日常的に、新聞やテレビ・インターネット等のニュースなどに目を通し、子育て家庭を取り巻く環境に関する情報に関心を持つこと。

【復習】毎回の授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を見直し、授業内容についての理解を深めておくこと。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

レポートによる内容の理解度（評価の30%）

平常点＜授業への参加姿勢・積極性（評価の30%）、課題提出・授業内の小テストの状況と内容の充実度（評価の40%）＞

平常点については、グループワークやディスカッション、グループ発表等における貢献度を評価する。

これらを合わせて、授業内容全般についての理解度を総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』 松原康雄・村田典子・南野奈津子編著、中央法規出版、2019年2月、2,000円＋税

参考文献：『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2020』一般社団法人全国保育士養成協議会 監修／西郷泰之、宮島清 編集、中央法規出版、2019年12月、1,200円＋税

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。
- ・自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行うことを期待する。
- ・授業内で回収した課題については、随時授業内で返却、振り返しを行う。

授業計画	
	前期
1	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の目的と機能
3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4	子どもの育ちの喜びの共有
5	子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6	保育士に求められる基本的態度
7	家庭の状況に応じた支援
8	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10	子育て支援施策・次世代育成新施策の推進
11	子ども家庭支援の内容と対象
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	地域の子育て家庭への支援
14	要保護児童等及びその家庭に対する支援
15	まとめ：子ども家庭支援に関する現状と課題

科目名	保育所実習Ⅰ	授業コード	YJ5061**	科目コード	YJ5061
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	実習	配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、保育所保育における補助的な役割を担うことを通して、実習園の乳幼児の実態とこれを踏まえた保育の特色を理解する。

【到達目標】

1. 乳幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる DP②、③、④
2. 乳幼児の実態や保育士の援助や配慮を観察し、事実即して記録することができる DP②、③
3. 実習園の保育理念や方針を理解し、特色ある保育活動を理解することができる DP②、③
4. 保育士等の補助的な役割を担い、保育士の役割を理解することができる DP①、②、③、④、⑤

2. 授業概要

保育所実習Ⅰでは、保育所において保育に参画し、乳幼児の生活や遊びの様子を観察し、生活の流れや発達の実態を理解する。実習園の保育課程や指導計画、に触れ、計画に基づく保育内容と実践の関係性を把握し、部分指導実習など一部の生活を計画し、実践する経験をする。保育の観察と記録を通して、計画と実践の理解を深め、保育過程を体験的に学ぶ。保育士の姿を通し、専門職としての保育士の業務内容及び職業倫理について学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は1日につき2時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）

実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『指導計画の考え方・立て方』久富陽子 萌文書林 2017年
- 『新・たのしい子どものうたあそび』木村鈴代 同文書院 2014年
- ・授業内で配布する資料
- ・「洗足こども短期大学 2020年度実習の手引き」

参考文献

- 『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美 萌文書林 2018年 1,800円
- 『保育所保育指針解説書』＜最新版＞厚生労働省 フレーベル館 2018年 320円
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2020年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル1」（2曲）の弾き歌いができるようにしておく
- ◆ 保育所実習Ⅰの単位取得の条件は、「2020年度実習の手引き」に基づく

授業計画

1	保育所実習 I 2月8日（月）～2月24日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育所実習ⅠⅠ	授業コード	YJ5062**	科目コード	YJ5062
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	実習	配当学年	2	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児との関わりを通して実習園の保育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。

【到達目標】

1. 乳幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に乳幼児に関わることができる。DP③、④
2. 保育士等の補助的な役割を担うことを通し、子どもの最善の利益に配慮した保育士の役割と責務を理解できる。DP①、⑤、⑥
3. 実習園での保育の実態を事実即して記録することができる。DP②
4. 実習園の全体的な計画等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。DP②、③
5. 指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。DP③、④
6. 保護者支援や地域との連携の実践に触れ、保育所の機能を理解できる。DP①、⑥

2. 授業概要

保育所実習Ⅱでは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所において保育に参画し、保育の計画から実践、評価改善までを実際に取り組み、保育の過程について理解を深めることができるよう、部分指導実習、責任実習を含む総合的な実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は1日につき2時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）

実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- ・『新版 遊びの指導』幼少年教育研究所編著（同文書院） 2009年
- ・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 2018年 320円
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館） 2008年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ 保育実習指導Ⅱ（保育所）を履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「2019年度実習の手引」に基づく
- ◆ 弾き歌い検定（レベル1以上）に合格、ピアノ特別検定（4月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
- ◆ 保育所実習Ⅱの単位取得の条件は、「2019年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること

授業計画

1	保育所実習Ⅱ 9月3日(木)～9月17日(木)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	授業コード	YE5068**	科目コード	YE5068
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・高橋 優子・伊藤 路香・上田 よう子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 保育所実習Ⅰの目的と概要を理解できる DP①、②
2. 保育所実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる DP①、②
3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる DP①
4. 実習での観察や経験の記録方法を理解できる DP②、③
5. 部分的な保育活動の計画を立てることができる DP②、③
6. 部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する DP②、③、④
7. 実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる DP②、③、④

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、観察や記録の取り方を学び、保育所実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加状況、実習前後の課題や書類の取り組み状況（評価の50%）

実習準備、実習後に係る手続きの遵守（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林 2018年
・「洗足こども短期大学 2020年度実習の手引き」

参考文献

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 フレーベル館 2018年 320円
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2020年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得の条件は、「2020年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅰの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所保育の基本 保育所における実習の実際・乳児保育と保育士
3	保育所実習Ⅰの実習目標の設定 実習における自己課題の立て方
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
5	教材研究の基礎 乳幼児の発達に応じた教材準備
6	オリエンテーションの実際 オリエンテーションの意義と方法の理解
7	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
8	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
9	乳幼児の健康と疾病予防 子どもの健康と細菌検査の理解
10	実習直前演習① 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
11	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
12	実習直前演習② 保育所における部分実習
13	事後指導① 保育所実習Ⅰの振り返りと自己評価
14	事後面談（訪問教員との振り返り）
15	事後指導②：保育記録の振り返り

科目名	保育実習指導ⅠⅠ（保育所）	授業コード	YE5069**	科目コード	YE5069
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅱの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 保育所実習Ⅱの目的と概要を理解できる。DP②
2. 保育所実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP①、②
3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。DP①、⑥
4. 実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。DP②、③
5. 保育所保育指針や実習園の全体的な計画等を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。DP②
6. 責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。DP③、④
7. 実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP①

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、保育所実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）

課題や実習に必要な書類の内容及び事後指導における自己評価（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- ・『新版 遊びの指導』幼少年教育研究所（同文書院）2009年
- ・授業内で配布する資料
- ・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

- 『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神永直美（萌文書林）2018年 1,800円
- 『指導計画の考え方・立て方<第2版>』久富陽子編著（萌文書林）2017年 1,800円
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 320円
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）350円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ ピアノⅡ、幼児音楽Ⅱを履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 保育所実習指導Ⅱの単位取得の条件は、「2019年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所実習Ⅰの課題の振り返りと保育所実習Ⅱの実習目標の設定 実習園の保育理念・方針の理解
3	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
4	保育所における責任実習の流れと指導計画
5	オリエンテーション 実習園において実習内容や実習までの準備について理解する
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習① 保育所における教材研究と計画の実際
8	実習直前演習② 保育所における健康管理と細菌検査
9	実習直前演習③ 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
10	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
11	<保育所実習Ⅱ 9月3日（木）～9月17日（木）> 事後指導① 保育所実習Ⅱの振り返りと自己評価
12	事後指導② 実習経験から学びを整理する
13	事後面談及び評価伝達（訪問教員との振り返り）
14	事後指導③ 専門職に求められる課題を実習体験から振り返る
15	事後指導④ 保育所実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理

科目名	児童福祉施設実習Ⅰ	授業コード	YJ5071**	科目コード	YJ5071
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	実習	配当学年	2	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障がい者施設にて実習を実施し、実習先施設の機能、施設保育士の役割について理解を深め、児童・利用者への援助について実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 観察や児童・利用者とのかかわりを通して、児童・利用者の実態やニーズを理解できる。DP④ DP⑤
2. 児童福祉施設等の生活に参画し、職員の役割や施設の機能を理解できる。DP② DP③
3. 実習施設での支援の実態を事実即して記録することができる。DP② DP③
4. 施設職員の補助的な役割を担うことを通して、施設保育士の業務内容や職業倫理を理解できる。DP① DP⑥

2. 授業概要

児童福祉施設等における原則10日間以上の実習。

【主な実習先施設】児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・障害者支援施設・障害福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援・就労移行支援）・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は各回1時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習施設からの評価（評価の50%）

実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『事例を通して学びを深める 施設実習ガイド』 田中利則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）

授業内にプリントを配布する。

参考文献については随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ 児童福祉施設実習指導Ⅰを履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 児童福祉施設実習Ⅰの参加条件は、「2019年度実習の手引」に基づく
- ◆ 児童福祉施設実習Ⅰの単位取得の条件は、「2019年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること

授業計画

1	2年次「児童福祉施設実習Ⅰ」を実施する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）	授業コード	YE5073**	科目コード	YE5073
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・高橋 優子・伊藤 路香・菊地 奈津美・斎藤 加奈				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障害者施設にて実習を実施するために必要な知識の習得をめざすとともに、施設における生活や活動に参画する意欲を高める。事後指導では、実習で得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 児童福祉施設実習の目的と意義を理解できる。DP②
2. 児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP① DP②
3. 実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。DP① DP⑥
4. 実習施設における支援の実際を適切に記録する方法を理解できる。DP② DP③
5. 実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP① DP④ DP⑥

2. 授業概要

原則10日間以上の実習（施設）の実施に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行う。実習の事後指導を実施し、実習の総括と自己課題の確認、施設における保育士の役割・機能について事例を通して振り返る。施設長等外部講師による講演を聴講し、現場の具体的事例を知る機会を設け、施設における保育士の役割について考察を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】児童福祉施設または障害者施設の機能・役割、施設で働く保育士の児童・利用者への支援のありかたについて、「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」「障害児保育」で学んだことと関連付けながら整理する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】返却されたリアクションペーパーは見直し、必要な加筆・修正を行う。また、教科書の記述を参照しながら授業の内容を振り返る。想定必要時間は各回1時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習指導の授業への参加姿勢（評価の50%）

実習指導に関する提出物（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『事例を通して学びを深める 施設実習ガイド』 田中利則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）2018年
「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレール館）2018年 320円

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

<履修の条件>

保育実習指導Ⅰ（保育所）および保育所実習Ⅰの単位を取得していること。

<クラス分けの方法>

3回～7回の授業は、実習先施設種別・実習時期によるクラス別に指導を行う

<履修者への要望>

- ①実習先の施設に関する情報・資料を集め、実習に行く前に事前学習を十分にすること。
- ②実習後も学びの振り返りを十分にすること。

授業計画	
	【通年】
1	施設実習の概要、ねらいと内容
2	施設の機能と役割の理解に基づく実習目標の設定
3	オリエンテーションと細菌検査の理解
4	児童・利用者の生活と援助の理解
5	実習日誌の理解と作成
6	実習の実際と心構え
7	事後指導（1）実習の自己評価と手続き
8	事後指導（2）施設の機能と支援の実際の振り返り
9	事後指導（3）保育士の倫理と社会的役割の振り返り
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	社会的養護ⅠⅠ	授業コード	YE5081**	科目コード	YE5081
担当教員	下尾 直子・飯塚 美穂子・板倉 香子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

社会的養護における保育士の支援の実際について、事例をもとに専門職としての具体的な支援について学ぶことを目標とする。学生の到達目標は、以下の通りである。

- ①児童虐待などの問題がおきる背景や原因について慎重に考えることができる。DP①、⑥
- ②様々な福祉ニーズをもつ子どもや家庭に対して、どのように対応することができるのかを具体的に説明することができる。DP①、②、④
- ③施設養護および家庭養護の実際について理解し、自分の言葉で説明することができる。DP①、②

2. 授業概要

社会的養護に関わる様々な事例を分析することを通して、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術などについて考察・ディスカッションする。また、報道資料などから、現代の社会的養護の背景や課題を探り、それぞれの施設実習の経験と重ねて考察を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ①児童福祉施設実習で経験したことを、自身の知的財産として整理・記録し、授業内で発表できるように準備すること。想定必要時間は、5時間である。
- ②毎日、1日15分以上は新聞・テレビのニュースに触れ、社会的養護の必要なこどもたちとその周辺の社会問題、施設や制度についての報道にアンテナを張ること。想定必要時間数（15分×7日間×15週）は27時間である。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）

授業内のグループワークに積極的に、自らの意見をもって参加していることを評価する。

授業内提出物の内容充実度（評価の20%）

他者の発表を聞いた内容とその考察を記入するプリントを回収し、評価する。

授業内発表の内容充実度（評価の50%）

一人2回の発表において、提示資料の充実度、プレゼンテーションの力、取り組み姿勢を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『実習生の日誌事例から考察する社会的養護Ⅱ』 雨宮由紀枝・下尾直子編著（大学図書出版）2020年

参考文献：『乳幼児教育・保育シリーズ 社会的養護Ⅰ・Ⅱ』 谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著（光生館）2019年 1,900円+税

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・前期科目「社会的養護Ⅰ」の内容を十分に理解していること。
- ・テキスト・参考文献は毎回の授業時に持参すること。

授業計画	
	【後期】
1	社会的養護における子ども理解
2	アセスメントと個別支援計画の作成
3	事例研究の意義と実際（記録と自己評価の重要性）
4	日常生活支援に関する事例分析
5	治療的支援に関する事例分析
6	自立支援に関する事例分析
7	家庭養護・家庭支援に関する事例分析
8	事例研究① 児童養護施設
9	事例研究② 乳児院
10	事例研究③ 母子生活支援施設
11	事例研究④ 児童発達支援センター
12	事例研究⑤ 障害児者入所施設
13	事例研究⑥ 障害福祉サービス事業所
14	事例研究⑦ 重症心身障害児者施設
15	社会的養護の課題と展望

科目名	子育て支援	授業コード	YE5082**	科目コード	YE5082
担当教員	飯塚 美穂子・板倉 香子・浦野 耕司				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】本授業においては、保護者に対する子育て支援は、保育士の重要な業務であることを理解し、保育士の専門性を活かした保護者支援について具体的に学び実践できるようになることを目標とする。

【到達目標】

- ①保育士の行う子育て支援の特性について学び、子育て支援の必要性について、自分の言葉で説明ができる。DP②、⑥
- ②保育士の行う子育て支援の展開過程について学び、その知識を応用して使うことができる。DP②、④、⑤
- ③保育士の行う子育て支援の実際と内容について学び、具体的な方法と技術を身につけ、自らの実践に適用することができる。DP②、④、⑤、⑥

2. 授業概要

保護者に対する子育て支援の特性について学び、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解していく。保育所を利用する子どもの保護者、地域の子育て家庭、保育所以外の児童福祉施設における相談支援など、保育のなかでのさまざまな機会を活用して保育士が行う子育て支援について理解を深め、事例検討や、グループワーク、ディスカッション等を通して具体的に考え、個々の家庭に応じた援助方法を習得する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストは指定された箇所を事前に読んで授業に出席すること。また、日常的に、新聞やテレビ・インターネット等のニュースなどに目を通し、子育て家庭を取り巻く環境に関する情報に関心を持つこと。

【復習】毎回の授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を見直し、授業内容についての理解を深めておくこと。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

レポートによる内容の理解度（評価の30%）

平常点＜授業への参加姿勢・積極性（評価の30%）、課題提出・授業内の小テストの状況と内容の充実度（評価の40%）＞

平常点については、グループワークやディスカッション、グループ発表等における貢献度を評価する。

これらを合わせて、授業内容全般についての理解度を総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『新・基本保育シリーズ⑱ 子育て支援』西村重稀・青井夕貴編著、中央法規出版、2019年2月、2,000円＋税

参考文献：『気づく かかわる つなげる－保育者のための子どもと保護者の育ちを支えるガイドブック』子どもと保護者の支援ガイドブック作成検討委員会 編、全国社会福祉協議会、2017年3月、800円＋税

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。
- ・自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行うことを期待する。
- ・授業内で回収した課題については、随時授業内で返却、振り返しを行う。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション・子どもの保育とともに行う保護者の支援
2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
5	子ども及び保護者の状況・状態の把握
6	子育て支援の計画と環境の構成
7	子育て支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8	職員間の連携・協働
9	社会資源の活用と関係機関や専門職との連携・協働
10	保育所等における支援
11	地域の子育て家庭に対する支援
12	障害のある子ども及びその家庭に対する支援
13	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
14	子ども虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援
15	まとめ：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

科目名	情報機器の操作	授業コード	YE0386**	科目コード	YE0386
担当教員	相馬 健太・林 洋子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

在学中に利用できる学内IT環境を理解し、Windowsの基本操作や代表的なアプリケーション・ソフトウェアが利用できるようにする。情報倫理・モラルの基本を理解し、Web検索とビジネスメールの基本マナーを習得して、幼稚園・保育園で必要な文書を作成できるようにする。

- ① Windowsの基本操作を習得する。DP④
- ② Web検索とビジネスメール利用時の注意点を習得する。DP④、⑥
- ③ Microsoft Word/Excelを使用し社会人として必要な文書作成ができる。DP③、④
- ④ タッチタイピングの基本を習得する。DP④
- ⑤ 情報倫理・モラルの基本を理解する。DP①、④、⑥
- ⑥ Microsoft PowerPointでアニメーションを含むファイルを作成ができる。DP③、④

2. 授業概要

情報機器の操作として、Windowsのコンピューターを1人1台を利用して毎回実施する。

- ・Windows OSの基本操作の習得。
- ・Microsoft Word、Excel、PowerPointの文書作成・編集。
- ・保育者に必要な情報倫理、モラルの理解を実例を踏まえて身に着ける。
- ・P検準2級程度のタッチタイピングの習得。
- ・学内ネットワークを理解し、メールの送受信やプリントアウトの習得。
- ・ICTを利活用できるようにする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布した課題を、再度各自で行うこと。想定時間は90分ほど。
TypeQuickは、授業時間外でも行うこと。想定時間30分ほど。
なお14回目までに、Lesson 6 Part Cの強化練習まで終了すること。

4. 成績評価の方法及び基準

TypeQuickの進捗と正解率（評価の10%）
授業への参加姿勢（評価の30%）
授業で作成するファイルの完成度（評価の30%）
課題の完成度（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

オフィスソフトの操作に苦手意識を持っている学生や自習により更に理解度を深めたい学生など、自身で必要だと思う場合は下記の参考文献を購入すると良い。

『保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版』
阿部正平・阿部和子・二宮祐子著（萌文書林）税込¥2,200

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

SENZOKUポータル のパスワードを持ってくること。
必ず自分で操作すること。
欠席した授業のプリントは申し出て手に入れること。
欠席により遅れてしまった部分は、次回の授業までに各自で補填しておくこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 幼稚園・保育所でのメディア活用 SENZOKUメールについて
2	WindowsとMicrosoftOfficeについての導入 情報倫理
3	Microsoft PowerPointの導入
4	Microsoft PowerPointの基本操作① ポスターを作成
5	Microsoft Wordの基本操作① 保護者への文書の作成
6	Microsoft Wordの基本操作② 表や画像を組み込んだ文書の作成
7	Microsoft Wordの試験と解説
8	Microsoft Excelの基本操作① 表と文字のレイアウト
9	Microsoft Excelの基本操作② スケジュール表の作成
10	Microsoft Excelの基本操作③ クラス名簿の作成／関数の利用とデータベース管理
11	Microsoft Excelの基本操作④ グラフの作成
12	Microsoft Excelの試験と解説
13	Microsoft PowerPointの基本操作② アニメーションを使用したプレゼンテーション資料の作成
14	学期末課題実施
15	学期末課題実施／総括

科目名	英語(外国語コミュニケーション)	授業コード	YE2121**	科目コード	YE2121
担当教員	山口 律子・伊藤 満里				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

今日、日本では幼児期からの英語教育が盛んになってきている。本授業では、保育の場で特に必要と思われる内容を中心に「使える英語」を実践的に学び、英語が使える保育者育成を目指す。

到達目標：

1. 幼稚園や保育園に在園している外国人の子どもに対し、保育活動上必要な指示を英語で与えることができる。DP4
2. 在園している外国人の子どもとの保護者と、英語を使って連絡をとることができる。DP5
3. 在園している子どもに対し、簡単な英単語や英語の歌を教えることができる。DP3
4. 国際化した日本の幼稚園や保育園における保育者の役割について、自分の考えを述べるができる。DP1

2. 授業概要

保育者に必要な英語表現を身に付けるため、テキストに基づいたことばの4技能（読む、書く、聞く、話す）を、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションを通じてトレーニングする。また保育者にふさわしい教養とスキルを身に付けるため、適宜保育に関連した課題に取り組む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】単語、熟語は、予め辞書で意味とその具体的な用法について調べ、テキストの内容に関しても不明な点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。

【復習】適宜授業内で実施される小テスト等に備え、テキストの復習をしっかりと行うこと。
（予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。）

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験・課題等<小テスト、確認テスト、レポート、課題発表等>（評価の70%）
ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションを通じた授業への参加姿勢（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『保育の英会話』 赤松直子・久富陽子著（萌文書林）

参考文献：なし

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・辞書または電子辞書を毎回必ず持参すること。
- ・遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。
- ・履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	○ 一年間の授業の進め方についての説明 Unit 1 : First step to Childcare English ① ＜保育の英会話への第一歩＞ "What's your name?" (お名前を教えてください。)
2	Unit 1 : First step to Childcare English ② ＜保育の英会話への第一歩＞ "Nursery School" (保育園) ・保育園で働く人々の職業名や保育園の様々な場所を示す語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
3	Unit 2 : Welcome to Minato Nursery School ① ＜みなと保育園ようこそ！＞ "It's nice to meet you." (お会いできて嬉しいです。) ・初対面の人と出会ったときのあいさつを学ぶ。
4	Unit 2 : Welcome to Minato Nursery School ② ＜みなと保育園ようこそ！＞ "Mari-Sensei's 5-year-olds' classroom" (真理先生の担当する5歳児の保育室) ・家庭調査票や保育室の中にある様々な物に関する語句を学ぶ。
5	Unit 3 : Time and Numbers ① ＜時間と数＞ "Please come to school at 8:00." (保育園に8時に来て下さい。) ・時間や数を表す表現を学ぶ。
6	Unit 3 : Time and Numbers ② ＜時間と数＞ "For tomorrow, could you bring a pair of indoor shoes?" (明日上履きを一足持ってきて頂けますか。) ・保育園に入園するときに保護者に用意してもらう所持品に関する語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
7	Unit 4 : Directions ① ＜地図と道案内＞ "Places around Minato Nursery School" (みなと保育園の周辺の場所) ・様々な場所の名称や方向を示す語句を学ぶ。
8	Unit 4 : Directions ② ＜地図と道案内＞ "Is there a shoe store nearby?" (近くに靴屋さんはありますか?) ・前置詞を使って場所や道順を説明する表現を学ぶ。
9	Unit 5 : Davy Meets His classmate Takashi ① ＜クラスメイトとの出会い＞ "Let's play with blocks." (一緒に積み木で遊ぼう。) ・他者を紹介するときの表現を学ぶ。
10	Unit 5 : Davy Meets His classmate Takashi ② ＜クラスメイトとの出会い＞ "Playground" (園庭) ・子どもの遊びや園庭の遊具を表す語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
11	Unit 6 : Dropping Davy off and Picking him up ① ＜デイヴィーの登園と降園＞ "It's sunny today." (よいお天気ですね。) ・登園時の先生と保護者の会話から天候を表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
12	Unit 6 : Dropping Davy off and Picking him up ② ＜デイヴィーの登園と降園＞ "How was Davy today?" (デイヴィーの今日の様子はどうでしたか。) ・子どもの感情や状態を表す表現を学ぶ。
13	Unit 7 : Jobs at Nursery School ① ＜保育者の仕事＞ "Mari-Sensei's daily schedule" (真理先生の日) ・真理先生の保育者としての仕事を、ある一日を例にとり学ぶ。
14	Unit 7 : Jobs at Nursery School ② ＜保育者の仕事＞ "What does Yoshio-Sensei do in the toddler's class?" (よしお先生の乳児クラスの仕事) ・1歳児担当のよしお先生の仕事を例に、年齢による保育者の仕事の違いを比べる。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
15	前期のまとめ(確認テストおよび解説)

授業計画	
	【後期】
1	Unit 8 : Lunchtime ① <昼食> "Wash your hands, please." (手を洗いましょう。) ・保育園での昼食風景を見る。
2	Unit 8 : Lunchtime ② <昼食> "Lunch menu" (昼食の献立) ・食品や野菜の名前、分量や好き嫌いを表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
3	Unit 9 : Toilet Dialog ① <排泄に関する会話> "Does anyone need to go potty?" (トイレに行きたい人はいませんか。) ・子どもが言う排泄に関する表現を学ぶ。
4	Unit 9 : Toilet Dialog ② <排泄に関する会話> "The Parent-Teacher communication notebook" (連絡帳) ・連絡帳のやりとりを学ぶ。
5	Unit 10 : Fighting ① <けんか> "Takashi hit my head." (たかしがぼくの頭をたたいたよ。) ・けんかや物の取り合いをしている子どもたちへの保育者の言葉かけの表現を学ぶ。
6	Unit 10 : Fighting ② <けんか> "My face and body" (顔と身体) ・身体の部位に関する単語や文房具に関する単語を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
7	Unit 11 : Injuries and Illnesses ① <けがと病気> "What's the matter?" (どうしたの?) ・デイヴィーが保育園でけがや病気になったことを母親に伝える場面を例に表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
8	Unit 11 : Injuries and Illnesses ② <けがと病気> "Common childhood injuries, illnesses and symptoms" (一般的な子どものけがや病気) ・けがや病気に関する表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
9	Unit 12 : Telephone Calls ① <電話での対応> "Hello. This is Minato Nursery School." (もしもし、こちら「みなと保育園」です。) ・電話での対応の表現を学ぶ。
10	Unit 12 : Telephone Calls ② <電話での対応> "Telephone messages" (電話の伝言) ・電話で受けた連絡をメッセージに書いて伝える表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
11	Unit 14 : Baby Care ① <赤ちゃんのケア> "This must be Davy's baby sister." (この赤ちゃんはデイヴィーの妹ね。) ・赤ちゃんへの言葉かけや育児用品の語句を学ぶ。
12	Unit 14 : Baby Care ② <赤ちゃんのケア> "What do babies do? How do children grow?" (赤ちゃんはどのように成長するの?) ・赤ちゃんの成長・発達を表す表現を学ぶ。
13	Unit 15 : Graduation Day ① <卒園> "Davy, congratulations!" (デイヴィー卒園おめでとう。) ・卒園に際しての祝福や感謝の表現を学ぶ。
14	Unit 15 : Graduation Day ② <卒園> "National holidays and celebrations" (祝日や記念日) ・祝日や記念日、家族関係を表す表現を学ぶ。
15	後期のまとめ(確認テストおよび解説)

科目名	健康・スポーツ	授業コード	YJ3124**	科目コード	YJ3124
担当教員	ジャズダンス：林七重 パレエ：若生加世子・草間華奈 ストリートダンス：Yuuki・ERIKA				
授業形態	実技	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

- ・保育者自らが健康とスポーツに興味を持ち、知識と理解を深め、自分自身の体力向上に努める。DP①、②、③
- ・保育の現場において、からだを動かす楽しさをこどもたちに伝えることが出来るよう、指導法についても習得する。DP①、②、③、④、⑤、⑥
- ・ダンスにおける肉体の正しい使い方を学び、子どもの見本として動けるようになる。DP①、②、③、④、⑤、⑥
- ・バランス感覚とリズム感覚を養い、保育者としての表現力の幅を広げる。DP①、②、③、④

2. 授業概要

<ダンス>

身体を動かして表現することの充実感を味わい、ダンスを通じて豊かな人間関係を構築する。
リズム運動の基礎となる基本のステップ、リズムを学び、幼児の指導に必要な身体表現方法を学ぶ。

- ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ストレッチ。ステップ、コンビネーション、
- 身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方
- 身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。
- 音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ
- コミュニケーションと心の考え方。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活において、習慣的に階段を用いたり長い距離を歩く、ストレッチを行なう等、身体をこまめに動かすことが望ましい。規則正しい生活習慣を身につけ、日頃から健康管理に留意すること。

4. 成績評価の方法及び基準

<ダンス>授業への参加姿勢等の平常点（評価の100%）、基礎リズム理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する。

第1回目の授業時に説明するルールを厳守して受講すること。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期のいずれでも）授業時数の3分の2以上出席しなければ、単位が認定されない。
但し、半期（前期・後期のいずれでも）4回以上欠席した場合は補講を受けなければならない。

<ダンス>動きやすい服装で、室内履きのシューズを着用すること。
(ジャズダンスシューズやパレエシューズを用意するのが望ましい。)
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲物を持参。授業開始時刻には着替えを済ませて入室する様に。

授業計画	
	【前期】A・C・E・G組 【後期】B・D・F組
1	<ストリートダンス>ウォームアップ、ストレッチ、筋トレ
2	<ストリートダンス>柔軟性とアイソレーションの意識
3	<ストリートダンス>基礎ステップ（ハウス）
4	<ストリートダンス>ステップとコンビネーション
5	<ストリートダンス>ストリートダンス発表、まとめ
6	<バレエ>ストレッチ、筋力トレーニング
7	<バレエ>ストレッチ、バーレッスン
8	<バレエ>ストレッチ、バーレッスン基礎、フロアーレッスン
9	<バレエ>バーレッスン基礎、センターレッスン
10	<バレエ>仕上げレッスンおよび発表、まとめ
11	<ジャズダンス>骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
12	<ジャズダンス>コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
13	<ジャズダンス>身体各部の重さ、床と接触面への意識を高める
14	<ジャズダンス>ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
15	<ジャズダンス>ジャズダンス発表、まとめ

科目名	保健体育	授業コード	YK3125**	科目コード	YK3125		
担当教員	青木 楓						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。		期間	半期	
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

主題：現代の豊かな日本社会において若い時には健康の重要性に気づきにくい。社会人になるにあたり、今後の人生の目的を果たす手段として健康について改めて振り返り、自らの健康を維持増進する必要性を認識する。

到達目標：

- ・自分の心身の現状について健康の観点から客観的に評価できる。DP①
- ・現状の問題と改善点を把握し、自分の日常で実践する方法を見つけて実践できる。DP①
- ・今後の人生において年齢と共に心身が変化することを知り、現状からできる備えや注意点がわかる。DP①
- ・妊娠や出産についての心身の状態を知り、現状からできる備えや注意点がわかる。DP⑥

2. 授業概要

予防医学の観点から病気になる生活習慣を築くために必要な知識を得る。現在の自分自身の心身の状態や生活習慣を確認するために調査や計測などを行い、その結果から問題点を見つけ改善策を考えて日常生活で実践する。また妊娠や出産に関する内容について具体的に学び、今後の自らの人生に役立てるとともに保育者として活用できるようにする。

<実務経験のある教員による授業>

看護師としての実務経験があり、看護師免許をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題・課題は期日までに必ず取り組む（必要想定時間は復習30分、宿題・課題60分程度）。
- ・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
- ・日常生活のなかでの調査や課題に取り組む（提出あり）。
- ・授業で学んだ知識を日常生活で実践して望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康を得る。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内試験およびレポート課題による内容の理解度（評価の50%） 平常点（評価の25%） 授業への参加姿勢（評価の25%）

- ・授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行う。
- ・与えられたレポート課題を、講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
- ・平常点として授業で配布するプリントに授業内容やコメントを記入して提出する。その内容の充実度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：

- 『母子手帳から始める若い女性の健康学』 井上栄 著（大修館書店）900円+税
- 『病気になるしない本-予防医学へのいざない-』 江藤敏治 著（大学教育出版）1,200円+税
- 『健康寿命を延ばす運動の科学-筋肉をきたえて健やかに生きる』 宮下充正 著（明和出版）1,600円+税
- 『健康・医療の情報を読み解く 健康情報学への招待』 中山健夫 著（丸善出版）2,000円+税
- 『症状別みんなのストレッチ』 宮地元彦 著（小学館）1,100円+税
- 『サルコペニア肥満解消ダイエット』 久野譜也 著（朝日新聞出版）1,100円+税 他、授業時にも紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントと課題は各自で管理し、期限厳守で提出する。
- ・調査や計測は正確に行う（なるべく婦人体温計を準備）。
- ・動きやすい服装（靴）とする。
- ・グループワークに積極的に参加する。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス・ヒトについて (これまでの保健体育で学んだ内容を振り返り、ヒトと健康について確認する) * 基礎体温 (課題) の説明
2	予防医学と健康 (健康に影響を及ぼす要因を知り、自分のヘルスプロモーションを考える)
3	生活習慣病と肥満 (主な生活習慣病と肥満のリスクを知る)
4	健康と運動 (運動不足病やロコモティブシンドロームとは何か、運動の必要性を知り、自分の現状と課題を考える)
5	運動の実践とその方法・効果 (効果や注意点を踏まえた上で、個々の生活や志向に合った効果的な運動を考える)
6	栄養と食生活 (健康や運動に必要な栄養について理解し、自分の食生活の現状と課題を確認し、改善点を考える)
7	休養と心の健康 (休養の重要性を学んだ上で自分の睡眠の改善点や積極的休養について考え、心の健康とストレスマネジメントを学ぶ)
8	グループワーク (グループごとに煙草・飲酒・薬物他からテーマを決めて後半の授業内での発表準備を行う)
9	男女の違い・特徴と女性特有の病気・症状 (生物学的・社会的な男女の違いや特徴を確認し、子宮頸癌と乳癌を中心に女性特有の病気について予防と検診の重要性を理解する)
10	性感染症の予防 (STDの種類と予防法、注意点を知る)
11	妊娠 (妊娠週数・妊娠月について知り、妊娠中の注意事項と妊婦健診について理解する)
12	出産 (様々な出産の実際について知る)
13	避妊と人工妊娠中絶 (排卵と月経について理解し、避妊の方法と人工妊娠中絶について考える)
14	少子化と不妊 (妊娠・出産の生物学的な適齢期を理解し、不妊の現状と今後について知る)
15	授業内レポートとまとめ (今後の課題と実践について考える)

科目名	法学（日本国憲法）	授業コード	YK0216**	科目コード	YK0216
担当教員	上岡 敦・西山 智之・外塚 果林・戸島 桃子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

1. 将来、社会生活を送る上で知っておくべき法学および日本国憲法に関する基本的なレベルの教養を身につける。DP①⑤
2. 日本国憲法の構造を体系的に把握して、人権の意義や統治機構の役割を理解する。DP①⑥

【ディプロマポリシーとの関連】

- 1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している
- 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している
- 3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている
- 4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている
- 5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる
- 6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している

2. 授業概要

法は普段の生活ではなかなか目に見えないが、私たちの家族や職場などの日常生活に様々なかわりを持っている。そうした法について身近な具体例や社会問題を通して学ぶ、社会における法の果たす役割を理解してほしい。また、日本国憲法の基本原理や自由・権利と義務を学び、児童や教育をめぐる問題をはじめとした様々な法的問題を考えることで、法学に対する知識を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

教科書や授業で配付されたプリントを用いて、各回の内容をノートに整理する。毎回2時間程度の復習時間が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・ 教員からの問いかけに対する応答等の授業への参加姿勢および平常点（小テストやレポート課題等）を評価する（評価の10%）。
- ・ 15回の講義後に定期試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する（評価の90%）。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：駒村圭吾編著『ブレステップ憲法〈第2版〉』（弘文堂、ISBN：978-4-335-00097-3）

参考書に関しては講義内で適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

すべての講義に出席することを前提とするため、無断欠席をしない。

講義中の私語や携帯・スマートフォン等の操作を禁止する。

他学生への迷惑となる行為を行った者は、教室から退出してもらい（欠席扱いとする）。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス/法学①（法とは何か） ・講義の進め方、採点方法などの説明 ・法の内容（社会秩序・道徳・法源（成文法・不文法））
2	法学②（法と裁判） ・裁判規範としての法の意義と法の解釈・適用 ・民事裁判と刑事裁判
3	法学③（学生が巻き込まれやすい法的諸問題） ・SNS等に関連した犯罪 ・消費者保護と法 ・アルバイトと法
4	国民主権・天皇の地位と権能・平和主義 ・主権の意義 ・天皇の地位と国事行為 ・恒久平和主義と9条の解釈
5	人権総論 ・人権の歴史・種類・享有主体 ・人権保障の限界と「公共の福祉」概念 ・私人間効力
6	基本的人権①（幸福追求権・法の下での平等） ・個人主義概念 ・新しい人権 ・平等の意義（形式的・相対的）
7	基本的人権②（精神的自由Ⅰ） ・思想・良心の自由の意義 ・信教の自由の意義と制度的保障としての政教分離原則 ・学問の自由
8	基本的人権③（精神的自由Ⅱ） ・表現の自由（意義・規制事由） ・報道の自由と「知る権利」、「アクセス権」
9	基本的人権④（経済的自由） ・職業選択の自由の意義と規制 ・財産権の意義と規制 ・二重の基準論
10	基本的人権⑤（身体的自由） ・奴隷的拘束・苦役からの自由 ・適正手続の保障 ・罪刑法定主義 ・被疑者・被告人の権利
11	基本的人権⑥（社会権・参政権・受益権） ・社会権の意義と種類 ・参政権の意義と選挙制度 ・受益権の意義と種類
12	統治機構①（国会） ・権力分立制の意義 ・国会の地位（代表機関・最高機関・唯一の立法機関）と構成 ・国会議員の特権 ・国会の権限と衆議院の優越
13	統治機構②（内閣） ・議院内閣制と大統領制 ・内閣の構成・権限 ・内閣総理大臣の地位と憲法上の権限
14	統治機構③（裁判所） ・司法権の意義・限界・独立 ・違憲審査権の意義と制度 ・裁判員制度について
15	財政・地方自治・憲法改正 ・財政民主主義の意義 ・地方自治の本旨 ・地方公共団体の意義と首長・議会・住民の権利 ・憲法改正の流れと限界・無限界説について

科目名	ビジネス講座(秘書検定対策)	授業コード	YK026700	科目コード	YK0267
担当教員	稲又 可奈				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

- ・秘書検定の内容を活用し、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。DP①、④、⑤、⑥
- ・慶弔、社交儀礼などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”を身に付ける。DP③、④、⑤
- ・「報告・連絡・相談」を実際に自分から発信できるようになるなど、「分かる」から「出来る」を最重点とする。DP①、③、④、⑤、⑥

「秘書検定2級」（試験は6月・11月・2月の3回）の受験対策も行う。希望者は準1級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできる。この資格はスタンダードなマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会と関わっていく手助けとなる。

2. 授業概要

この授業のベースとなる秘書検定は、社会で生活をしていくにあたって「どういう態度・言葉遣いをすればコミュニケーションが上手いのか」を問題を通じて身に付けていくものである。

その内容は秘書を目指すことだけにとられず学生生活でもすぐに活かせる内容で、実習期間にも役立つやりとりが多数出てくる。

また、授業では実践ロールプレイングにも取り組み、実際の場面をよりイメージできるよう展開していく。

実践では出来栄だけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視する。

検定対策では、受験者にプリント配布をし、その他に過去問題集を各自購入して対策をしていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

検定受験者は過去問題や授業内で配布する検定対策プリントを繰り返し取り組むことが必要である。

過去問題を解く場合は、2級の場合試験時間は2時間であるが、1時間程度で1回分を解き終わり落ち着いて見直しができるよう意識しよう。毎回配布するコメントペーパーにて日常での気付きや授業内容について教員とやりとりしながら、マナーに意識を向けた日常生活を目指す。テキストは実際に使える接遇用語などが載っているので、授業内で扱ったものを日常の中で活用し、感想や気付いたことを自分なりにまとめる。気付いた時点で10分でも、考えをまとめる習慣をつけるようにしよう。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
 - ・コメントペーパー・グループワークへの取り組み：評価30%
 - ・試験：評価20%（検定受験者はその結果も考慮する）
- 試験は授業の理解度を確認するため、14回目と15回目に筆記試験を実施する。
上記を総合的に判断し、成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- ・教科書
「秘書検定2級テキスト」（早稲田ワーキングスクール）※授業開始日には必ず持参すること
- ・参考書
「秘書検定2級実問題集 2022年度版」／「秘書検定準1級実問題集 2022年度版」公益財団法人実務技能検定協会 編集（早稲田教育出版）※秘書検定受験希望者
- ・その他、授業中に必要に応じてプリントを配布する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎する。

授業中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求める。また、無断欠席は厳正に対処する。

遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明する。

授業計画	
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・職場におけるあなたのタイプを診断
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー ・第一印象アップトレーニング 「先手あいさつ」
3	求められる人柄と身だしなみ 実践すぐに使えるビジネスマナー ・一歩リードできる自己紹介
4	実践すぐに使えるビジネスマナー ・自己紹介の復習 ・メールの基本を知る ・電話応対①基本
5	実践すぐに使えるビジネスマナー ・ビジネスや目上の人とのメール実践知識 ・電話応対②応用
6	間違いやすい敬語・接遇用語 実践すぐに使えるビジネスマナー ・座り姿勢と立ち姿勢 ・美しいおじぎの仕方
7	来客接遇 受付・席次・湯茶の入れ方・見送りの基本 実践すぐに使えるビジネスマナー ・アイコンタクトの必要性 ・立ち居振る舞い
8	お祝いやお悔みのマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・好印象のあいさつとは ・状況に応じた対応
9	贈り物のマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・接遇用語の「とっさのひとこと」
10	総合ロールプレイング① ～あいさつ・立ち居振る舞い～
11	総合ロールプレイング② ～接客・ビジネスの場面を想定する～
12	総合ロールプレイング③ ～状況に応じた対応を身に付ける～
13	総合ロールプレイング④まとめ ～日常生活で活かすために～
14	筆記試験① 総まとめ
15	筆記試験② 今後の展望と総まとめ

科目名	ウインド・バンド1	授業コード	YE041000	科目コード	YE0410
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

主題：この授業において吹奏楽の合奏、発表を通して音楽をする心を豊かにし、アンサンブルをする力、また表現力を高め、演奏団体として音楽の楽しさを伝えられる事を主題とする。

到達目標：

- ・幅広い楽曲を通じて音楽表現の多様性を学ぶ。DP③
 - ・海外招聘の指揮者の指導を受ける事で、よりコアで高度な音楽、合奏技術を習得する。DP③
 - ・演奏会を作り上げる経験を通して、保育現場で必要とされるイベント実施のプロセスに活かす。DP④
 - ・ウインドバンドのメンバーとしての自覚を持ち、バンドの運営にも積極的に参加する。DP⑤
 - ・団体行動を通じて個々の役割を認識し、合奏に不可欠なコミュニケーション力を高める。DP⑤
- (注) 具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）、金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）、打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
内容はコーラル練習、リズム練習等の基礎合奏、演奏会に向けての楽曲練習が主となる。また、後期には海外招聘の指揮者を迎えての練習、演奏会を行う。本年度8月にはオープンキャンパスの体験授業、12月のベルト・アップルモント氏を招いてFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

参考音源や資料を活用し、取り組んでいる楽曲の予習、または担当楽器の技術向上のための研究を週に2時間行う（ことが望ましい）」

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の90%） 演奏及び運営の貢献度（評価の10%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウインド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏 和音について
3	基礎合奏 ダイナミクスについて
4	基礎合奏 アーティキュレーション
5	2020 課題曲 譜読み
6	2020 課題曲 構成の理解
7	2020 課題曲 まとめ
8	ポップス曲 譜読み
9	ポップス曲 ニュアンス
10	ポップス曲 イントネーション
11	FUYUONの曲配布、譜読み
12	FUYUONの曲（前半）構成
13	FUYUONの曲（前半）和音
14	オープンキャンパスの練習
15	オープンキャンパス実施

授業計画	
	【後期】
1	FUYUON の曲 セクション中心
2	FUYUON の曲 和音進行
3	FUYUON のリズムに重点
4	FUYUON の曲 表現の工夫
5	FUYUON の曲 立体感を形成
6	FUYUON の曲 完成度を高める
7	アッペルモント氏の合奏
8	アッペルモント氏の合奏 細部のチェック
9	アッペルモント氏の合奏 まとめ
10	FUYUON 演奏会
11	YOUKON の練習 譜読み
12	YOUKON の練習 楽曲の理解
13	YOUKON の練習 演出等の確認
14	YOUKON GP
15	YOUKON RH及び本番

科目名	ウインド・バンド2	授業コード	YE041100	科目コード	YE0411
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

主題：この授業において吹奏楽の合奏、発表を通して音楽をする心を豊かにし、アンサンブルをする力、また表現力を高め、演奏団体として音楽の楽しさを伝えられる事を主題とする。

到達目標：

- ・幅広い楽曲を通じて音楽表現の多様性を学ぶ。DP③
 - ・海外招聘の指揮者の指導を受ける事で、よりコアで高度な音楽、合奏技術を習得する。DP③
 - ・演奏会を作り上げる経験を通して、保育現場で必要とされるイベント実施のプロセスに活かす。DP④
 - ・ウインドバンドのメンバーとしての自覚を持ち、バンドの運営にも積極的に参加する。DP⑤
 - ・団体行動を通じて個々の役割を認識し、合奏に不可欠なコミュニケーション力を高める。DP⑤
- (注) 具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）、金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）、打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
内容はコーラル練習、リズム練習等の基礎合奏、演奏会に向けての楽曲練習が主となる。また、後期には海外招聘の指揮者を迎えての練習、演奏会を行う。本年度8月にはオープンキャンパスの体験授業、12月のベルト・アップルモント氏を招いてFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

参考音源や資料を活用し、取り組んでいる楽曲の予習、または担当楽器の技術向上のための研究を週に2時間行う（ことが望ましい）」

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）演奏及び運営への貢献度（評価の10%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウインド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏 和音について
3	基礎合奏 ダイナミクスについて
4	基礎合奏 アーティキュレーション
5	2020 課題曲 譜読み
6	2020 課題曲 構成の理解
7	2020 課題曲 まとめ
8	ポップス曲 譜読み
9	ポップス曲 ニュアンス
10	ポップス曲 イントネーション
11	FUYUONの曲配布 譜読み
12	FUYUONの曲（前半）構成
13	FUYUONの曲（前半）和音
14	オープンキャンパスの練習
15	オープンキャンパスの実施

授業計画	
	【後期】
1	FUYUON の曲 セクション中心
2	FUYUON の曲 和音進行
3	FUYUON の曲 リズムに重点
4	FUYUON の曲 表現の工夫
5	FUYUON 立体感を形成
6	FUYUON 完成度を高める
7	アッペルモント氏の合奏
8	アッペルモント氏の合奏 細部のチェック
9	アッペルモント氏の合奏 まとめ
10	FUYUON 演奏会
11	YOUKON 練習 譜読み
12	YOUKON 練習 楽曲の理解
13	YOUKON 練習 演出等確認
14	YOUKON GP
15	YOUKON RH及び本番

科目名	ミュージカル	授業コード	YE041200	科目コード	YE0412
担当教員	篠原 真・黒須 和清・横山 仁一・大倉 マヤ・クリス チャベス・星野 苗緒・南 智子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題・到達目標】

ミュージカルは演技・ダンス・歌を融合させた総合芸術である。

- 1・授業成果発表の場を成功に導くためには、キャスト、アートスタッフ全員が一つになり作品を作りあげていなければならない。まずは、仲間とのコミュニケーション能力の向上を第一義とする。DP①、⑤、⑥
- 2・キャストは歌い、踊り、演じる表現者として、またアートスタッフは舞台美術や衣装・メイクを生み出すクリエイターとして自覚することにより、学生一人ひとりの能力は確実にレベルアップする。DP②、③、⑥
- 3・限られた時間・予算の中で、それぞれがアイデアを出し合い、創意工夫しながら最善の方法を考える力を養うことが出来る。DP③、④、⑥
- 4・ミュージカルを通じて創造性、協調性、独自性を持った人材の育成を目標とする。DP①、③、⑤、⑥

2. 授業概要

授業計画に沿って、ミュージカル実習を行う。

なお、公演日は8月23日(日)、会場は洗足学園中学高等学校大講堂を予定している。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

キャストは、メロディや歌詞、台詞、ダンス振り付けなどを確認・練習し、次回の授業までに習得しておくこと。

アートスタッフは、大道具、小道具、衣装などのアイデアを考えておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）

平常点（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

水曜Ⅰ～Ⅳ限「演技実習（前）」の授業を履修すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイドダンス DVD 鑑賞
2	キャスト、アートスタッフ希望者確定。音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。
3	キャスト希望者/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ希望者/アートプランについてのガイドダンス。
4	キャストオーディションの実施。
5	キャスト・アートスタッフ発表。 キャスト/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ/アートプランミーティング。
6	キャスト/第1場～3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#1
7	キャスト/第1場～3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#2
8	キャスト/第4場～6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#3
9	キャスト/第4場～6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#4
10	キャスト/第7場～10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#5
11	キャスト/第7場～10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#6
12	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#1 アートスタッフ/衣装完成、及び衣装合わせ。
13	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#2 アートスタッフ/大・小道具作成作業。衣装直し。
14	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#3 アートスタッフ/大・小道具完成。衣装直し。
15	キャスト、アートスタッフ全員でリハーサル、及び最終チェック。

科目名	特別研究（ゼミ） 黒須	授業コード	YE0413M1	科目コード	YE0413
担当教員	黒須 和清				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

・一年時に習った造形表現1の「おもちゃ作り」「簡単工作による演じ物作り」のノウハウを踏まえ、それを継続演習していく事で現場で自在に造形表現を展開していける応用力を身に付けることができる。DP①、②、③、④
 ・実際に現場で使える完成度にするため数回にわたる製作も可とし、少人数ならではの個別対応で一人一人の造形力表現力を高めていく。DP①、②、③、④

2. 授業概要

1年次に学んだ手作りおもちゃのレベルアップ、応用展開したおもちゃ、また身の回りの物を使って作る演じ物も季節に合わせていくつも提案。レポートリーを増やしていく。完成を急かさず時間をかけていい物を作り上げる事で造形を楽しむ気持ちを育て、現場での造形活動への自信に繋げていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

演じ物などはゼミ中だけでなく、その後何度も自主トレすることが自分の得意ネタとして身につけ将来に活用できる。

4. 成績評価の方法及び基準

製作物の出来不出来ではなく、製作体験を積むことと造形を楽しむ気持ちを育てることが何より重要。ゼミでも授業と同じ意欲で臨み毎回出席を目指すこと。意欲ある出席率を第一の評価基準とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

工作道具は一年時に指定した物を毎回持参することが望ましい。

授業計画

	<p>【前期】 工作は時の流行に合わせた生の文化なので一応のプログラムはあるが順番は未定。参加学生の興味や要望も加味し、新しく考案したおもちゃや演じもの、壁面構成素材なども随時取り入れていく。</p>
1	ぎざぎざつの宇宙人（ひもと針金で作る演目）
2	はじめまして（紙皿で作る自己紹介用の演目）①
3	はじめまして（紙皿で作る自己紹介用の演目）②
4	万華鏡（ポリ製品だけで作る伝承おもちゃ）
5	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）①
6	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）②
7	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）③
8	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）①
9	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）②
10	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）③
11	まおちゃん（磁石を使ったおもちゃ）
12	たのしいおたんじょうび（紙コップで作る誕生日用の演目）①
13	たのしいおたんじょうび（紙コップで作る誕生日用の演目）②
14	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）①
15	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）②

授業計画

	【後期】 前期と同様
1	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）③
2	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）①
3	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）②
4	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）③
5	クリスマス袋ショー（布袋を使って演じるマジック演目）①
6	クリスマス袋ショー（布袋を使って演じるマジック演目）②
7	クリスマス袋ショー（布袋を使って演じるマジック演目）③
8	毛糸玉あやつり（毛糸玉で作るあやつり人形）
9	パクパク人形（スポンジで作る口を開く人形）①
10	パクパク人形（スポンジで作る口を開く人形）②
11	ふわ坊（針金と綿で作る演目）①
12	ふわ坊（針金と綿で作る演目）②
13	どっかん花火（ジャバラ式に開く伝承おもちゃ）①
14	どっかん花火（ジャバラ式に開く伝承おもちゃ）②
15	簡単手作りおもちゃ色々

科目名	特別研究（ゼミ） クリス	授業コード	YE0413M2	科目コード	YE0413
担当教員	クリス チャベス				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

主題：“Let's Dance!!”（クリスと一緒に踊りましょう！！）

到達目標：基本的なジャズダンスのテクニックを学び、完成されたパフォーマンスを発表会等で披露すること。DP①、②、③、④、⑤、⑥

【ディプロマポリシーとの関連】

- 1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している
- 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している
- 3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている
- 4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている
- 5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる
- 6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している

2. 授業概要

基本的なジャズダンスのウォーミング・アップ、ステップ、ターンなどのテクニックを習得する。

特にミュージカルを意識しながら、テーマパークダンスとジャズダンスも様々なスタイルの振り付けを習得する。

学生のオリジナルの振り付けによるダンスを創作・披露する。

ゼミ発表会の開催はもちろん、そのほかに、短大オープンキャンパスやYOUKONに出演し、日頃の成果を披露する。

<2019年度の成果披露の実績>

○YOUKON！：2020年1月18日（於・前田ホール）

○成果発表会：2020年1月29日（於・キッズスクウェア1階ロビー）

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

自主練習（ストレッチ、体の動きの復習、イメージトレーニング）を行なうことは当然です。

ダンスの映像や音楽を日頃から視聴し、ダンスに親しみましょう。

振り付けも考案しましょう。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢等の平常点（評価の70%）

ダンスの振り付け・表現力のパフォーマンス（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最後の授業まで出席できる学生を希望します。（年度の途中で出席しなくなる学生は履修しないでください）

履修者多数の場合は履修制限をすることがあります。

踊りやすい服装、ダンスシューズ（またはスニーカー）を着用すること。休み時間中に着替えを済ませ、授業開始時には、踊れる体勢を整えてください。

授業計画	
1	ガイダンス 1年間のゼミの内容説明 ウォーミングアップ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法からストレッチ ・自分の姿勢を認識・修正 ・姿勢づくりのトレーニング ・クロスフロア（ジャズダンスの基本的なステップ）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチからクロスフロア ・筋力トレーニング ・クロスフロアなどで基本的なステップを使い、音と体をなじませる
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチからクロスフロア ・簡単なダンスのステップ（キックや上半身のダイナミックな動き） ・オープンキャンパスの準備
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチからクロスフロア ・音楽に合わせた振付を覚える。またそれを通して多様な体づかいの認識 ・オープンキャンパスの準備
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・振付に加えフォーメーションを作り舞台上での感覚を養う
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・オープンキャンパスの準備
8	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスでのパフォーマンスの映像の視聴とそれについてのディスカッション ・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続 ・オープンキャンパスでのパフォーマンスの試演
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
11	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会等でのパフォーマンスをさらに高めるためのクロスフロア
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備①（ディスカッション）
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備②（ステップ確認、選曲）
15	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のステップの復習、パフォーマンスのおさらい

授業計画	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のステップの復習、確認 ・ステップのグレードアップ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（GAKUSAI、YOUKON、ゼミ発表会）のための選曲 ・ステップ練習
3	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（SENOZKU GAKUEN FEATUVAL）のための練習①
4	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（SENOZKU GAKUEN FEATUVAL）のための練習②
5	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習①
6	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習②
7	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習③
8	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習④
9	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用パフォーマンスの総仕上げ①
10	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用パフォーマンスの総仕上げ②
11	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用パフォーマンスの総仕上げ③ ・映像のチェック、ステップ等のパフォーマンスの修正①
12	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用パフォーマンスの修正②
13	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会パフォーマンスの最終チェック
14	<ul style="list-style-type: none"> ・後期パフォーマンスの映像視聴 ・反省会および評価ディスカッション
15	<ul style="list-style-type: none"> ・最終パフォーマンス（総仕上げおよび踊り納め） ・ゼミの総まとめ

科目名	特別研究（ゼミ） 谷上	授業コード	YE0413T1	科目コード	YE0413
担当教員	谷上 公子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

リトミックについて学びます。

到達目標：

- ・保育現場で使えるリトミック活動を知る。DP①、②、③、④
- ・ダルローズ・リトミックで楽しく動くことができる。DP①、②、③、④
- ・合奏・連弾など仲間とアンサンブル演奏を楽しむことができる。DP①、②、③、④、⑤
- ・リトミックの特徴である音楽と視覚化する身体表現活動を体験する。DP②、③

2. 授業概要

- ①保育現場で使えるリトミック活動の紹介と実習をします。
- ②ダルローズ・リトミックで楽しく動きながら音楽を幅広く学びます。
- ③合奏、連弾など仲間とアンサンブル演奏を楽しみます。リトミックならではの音楽を視覚化する身体表現活動(プラスチック・アニメ)を体験します。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ①日常のなかにあるリズムやメロディにアンテナをはってください。
- ②日ごろからこどもたちの声の高さ、強さ、しゃべる速さ、動きを観察してください。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（出席・参加姿勢）50% 課題実習・試験 50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業にて毎回配布。（楽譜・指導案・資料）

参考文献：

- ①リトミックだいすき！（ドレミ出版）1,320円
- ②年齢別行事言葉かけハンドブック（世界文化社）1,430円
- ③保育士入門テキスト20年度版（成美堂出版）1,430円
- ④ピアノスタディ（ヤマハ）1,320円程度（シリーズ番号によって異なる）
- ⑤リトミックベストコレクション（自由現代社）2008年【中古本を探してみてください】
- ⑥幼児の音楽教育（教育芸術社）2001年【中古本を探してみてください】

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽が好きな人。リトミックを知りたい人。
 音楽的な保育を取り入れたい人。
 最後まできちんと出席できる人。

授業計画	
	年齢別リトミック
1	ガイダンス リトミック体験
2	保育リトミック① 「3才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 3才児用レパトリー紹介・指導ポイント ♪あそびうた♪絵本でリトミックなど。
3	保育リトミック② 「4才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 4才児用レパトリーと指導ポイント (レパトリー紹介と実習)
4	保育リトミック③ 「5才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 5才児用レパトリーと指導ポイント (レパトリー紹介と実習)
5	保育リトミック④ 「おんがく遊び part 1」 ～からだをつかったリズム遊び～
6	保育リトミック⑤ 「楽器あそび(0～5才児)」 ～楽器の与え方・遊び方～
7	リトミックⅠ ～ダルクローズ・リトミックでリズム感を磨こう～
8	リトミックⅡ ～ダルクローズ・ソルフェージュで音感を磨こう～
9	アンサンブル ・合奏～いろんな楽器を鳴らしてみよう～ ・身体表現～見える音楽を創ってみよう～
10	乳幼児リトミック① 0.1.2才児 発達と音楽の関連part 1 資料配布(0才児の音楽の聴こえ方) レパトリー紹介と実習
11	乳幼児リトミック② 0.1.2才児 part 2 1才児(聴こえ方と音楽反応) 歩ける前のレパトリー
12	乳幼児リトミック③ 0.1.2才児 part 3 資料配布 2才児(様々な音楽反応と表現) レパトリー紹介と指導ポイント
13	リトミックⅢ ～ボディ・パーカッション～
14	前期まとめ①・レパトリー楽譜と指導プランの整理
15	前期まとめ② 試験(記述と実技)

授業計画	
	季節のリトミック活動
1	9月テーマ「お月見」 part 1 年齢別行事のお話し 季節の歌 絵本「おつきさまこんばんは」 うさぎのペープサート
2	♪アンサンブル 連弾（導入）
3	10月テーマ「ハロウィン」 part 1 年齢別お話し仕方 季節のうた 絵本「ハロウィンってなあに？」 やさしいペープサート
4	アンサンブル♪連弾①
5	リトミックⅣ ～身に付けておきたい音楽基礎part 1～
6	11月テーマ「おしごと」 年齢別お話し・うた・絵本・楽器あそび
7	♪アンサンブル 連弾③
8	即興アンサンブル
9	12月テーマ「クリスマス」 行事のおはなし・絵本・うた・合奏
10	リトミックⅤ ～身に付けておきたい音楽基礎part 2～
11	合奏アレンジ
12	1月テーマ「お正月」 年齢別お話し・うた・絵本
13	リトミックⅥ ダルクローズ・リトミック総合
14	後期まとめ①・レパートリー楽譜と指導プランの整理
15	後期まとめ② 試験（記述と実技）

科目名	特別研究（ゼミ） 堀	授業コード	YE0413T2	科目コード	YE0413
担当教員	堀 純子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

主題：保育者として母として女性として、この先やりたいことに挑戦できて自信を持って生きていくために必要となる自分のための健康を考え、自らが目指す理想の状態の心身をつくる。

到達目標：

- 1) 自分の心身の現状を正しく評価することができる。 DP①②
- 2) 自分が目指す姿は心身がどのような状態なのか、その理由とともに述べられる。 DP②④
- 3) 自分が目指す姿になるための方法を説明できる。 DP②
- 4) 自分が目指す姿になるための方法を実践して結果を出す。 DP①②④
- 5) 受講生で励まし合い、目標達成の協力をする。 DP④⑤

2. 授業概要

これまでの保健や体育の知識を生かしながら、まずは自分の心身の現状を丁寧に調べ、正しく評価して具体的な課題を見つける。他の人や過去の失敗例を振り返り、様々な方法を試しながら自分に合った方法を探る。達成可能な週間・月間・年間目標を定めてプランを練り、実践する。定期的に効果をチェックして見直ししながら、最終的には結果を出す。

受講者の希望に応じて、トレーニングの実際の見学・体験、妊産婦や助産師へのインタビュー、検診等、校外学習も取り入れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

日々の実践が重要。日常生活の中での運動・食事・睡眠等の記録や測定も必要になる。
（想定必要時間は30～60分程度）

4. 成績評価の方法及び基準

平常点、グループワーク、授業への参加姿勢：（評価の50%）

日常での実践の様子とその結果、発表内容：（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：必要に応じて資料を配付する

参考文献：

『公式ストレッチポール&ひめトレBOOK新装版（美人開花シリーズ）』YCCA（日本コアコンディショニング協会）監修（ワニブックス）1,430円

『見るみるわかる骨盤ナビ』竹内京子監修（(有)ラウンドフラット）3,200円

『はじめてのやせ筋トレ』とがわ愛著（(株)KADOKAWA）1,200円

『脳疲労が消える最高の休息法（CDブック）』（ダイヤモンド社）1,500円

『最高の休息法「脳科学×瞑想」で集中力が高まる』（ダイヤモンド社）1,500円

他、授業時に紹介する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・動きやすい服装で参加
 - ・タオル、ミニボール（110円～）、アプリ等、可能な範囲で各自に準備をお願いする場合がある
 - ・日常での計測・実践に積極的に参加しよう
 - ・受講生全員、協力体制で臨もう
 - ・質問、要望やアイデア大歓迎
- * 知り得た他の受講生の個人情報は守秘義務を果たすこと

授業計画	
	* 受講生の人数・要望等により スケジュールは変更の可能性あり
1	ガイダンス (教員が授業の目的と進め方を説明し、受講生は受講動機と期待すること、要望等を述べる)
2	測定と現状把握 (現状を正しく評価する)
3	目標設定 (達成可能な週間・月間・年間目標を定める)
4	ストレッチ・姿勢と呼吸 (ストレッチの方法と注意点を確認し、姿勢と呼吸をチェックしてみよう) * ストレッチポールを使ってみよう (以下毎回使用)
5	骨盤底筋群 (骨盤底筋群を知り、トレーニングしてみよう)
6	筋トレの目的 (基礎代謝を理解して筋トレの必要性を知る)
7	筋トレの方法 (効果的な目的別の方法、注意点を学ぶ)
8	* トレーニングの実際の見学・体験 (専門家によるトレーニングを知る)
9	食事と栄養 (食事の内容をチェックして栄養バランスを考える)
10	食生活の改善 (どのように改善できるか考える)
11	睡眠と休息 (睡眠の質をチェックして積極的休息を考える)
12	脳の休息 (ストレスのメカニズムと脳疲労を知る)
13	脳の休息の実践 (瞑想にもチャレンジしてみよう)
14	測定と発表準備 (口頭発表の準備を行う)
15	中間発表と振り返り (前期の実践内容と効果を口頭で発表し、後期の課題を探る)

授業計画	
	* 校外学習の回（日時）は受講生と先方の都合により 相談して決める
1	測定と今後の課題設定 （他の受講生との意見交換を通じて、自らの課題を再設定する）
2	基礎体温と女性ホルモン （基礎体温と女性ホルモンについて理解する）
3	不妊と女性の体 （不妊の原因と対策を知る）
4	妊娠のために （妊娠に向けた準備を知る）
5	妊娠中の変化 （妊娠中の心身の変化と注意点を知る）
6	出産 （様々な出産方法を知り、自分の理想を考えてみる）
7	産後の体 （母体の急激な変化と母乳について知る）
8	* 妊産婦や助産師へのインタビュー （妊娠・出産にあたり、どのような心身の変化が生じるのか、どのような準備が望ましいか知る）
9	マタニティーブルーと産後うつ （マタニティーブルーと産後うつを理解する）
10	更年期障害 （更年期の心身の変化と対策を知る）
11	メタボとロコモ （加齢による体の変化と対策を知る）
12	余暇とスポーツ （楽しみのためのスポーツを見つけよう）
13	運動遊び （好きな運動遊びを紹介しよう）
14	測定と発表準備 （次回の発表内容をパワーポイントにまとめる）
15	結果発表 （受講開始時と現在を比較し、どのように変化したか、方法と実践の様子、効果を検証して発表する）

科目名	特別研究（ゼミ） 石濱	授業コード	YE0413T3	科目コード	YE0413
担当教員	石濱 加奈子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

【主題】 保育者・社会人として必要な体力を身に付け、運動・スポーツの楽しさを実感する。

【到達目標】

- ① 運動遊びやスポーツの実践を通して、体力と運動技能を向上させる。DP④、⑤
 ② からだの調子に気づき、整えていく方法を身に付ける。DP④

2. 授業概要

運動やスポーツの実践を通して以下のことを学ぶ。

- 体力と運動技能を向上するための、運動・スポーツの方法を理解し実践する。
- チーム作りやルールの確認など、運動・スポーツを円滑に進めていく方法を習得する。
- 保育者・社会人にとって体力が必要であることを理解し、生活全般に運動や体調の調整をする方法を取り入れる工夫を知る。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

以下の2点を予習・復習とし、想定必要時間は毎日20分程度（歩行などを含めた運動と調整のための時間）とする。

- 日ごろから、よく歩いたり、階段を使ったりといったからだに負荷をかける努力をすること。
- 体調管理をしっかりとこなすために、自分の体調の変化を敏感に感じることができるようになること。

4. 成績評価の方法及び基準

実技試験50%

平常点（参加姿勢など）50%

実技試験は、それぞれの運動・スポーツ種目における技能の習熟度および向上度を評価する。
 平常点は、主に運動・スポーツおよび授業全体における積極的な参加姿勢を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントや資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

体調を整え、毎回の授業に全力で取り組むこと。
 運動できる服装・靴を着用していること。

授業計画	
1	授業の進め方・ルールについて からだ慣らしの運動遊び一人と触れ合う遊びを中心に
2	アルティメット(1) 基本的な動作の習得
3	アルティメット(2) ゲーム進行の理解と実践
4	バドミントン(1) 基本的な動作の習得
5	バドミントン(2) シングルスゲーム
6	バレーボール(1) 基本的な動作の習得
7	バレーボール(2) ゲーム進行の理解と実践
8	インディアカ(1) 基本的な動作の習得
9	インディアカ(2) ゲーム進行の理解と実践
10	バスケットボール(1) 基本的な動作の習得
11	バスケットボール(2) ゲーム進行の理解と実践
12	ドッジボール(1) ゲーム
13	ドッジボール(2) ルールの多いゲーム
14	卓球(1) 基本的な動作の習得
15	卓球(2) シングルスゲーム

授業計画	
1	からだ慣らしの運動遊び—運動量の多い遊びを中心に
2	卓球(3)ダブルスゲーム
3	卓球(4)団体戦
4	アルティメット(3)作戦を取り入れたゲーム
5	アルティメット(4)ポジション特性の理解とゲーム
6	バレーボール(3)ポジション特性の理解とゲーム
7	バレーボール(4)審判の方法とゲーム
8	バドミントン(3)ダブルスゲーム
9	バドミントン(4)団体戦
10	バスケットボール(3)ポジション特性の理解とゲーム
11	バスケットボール(4)審判の方法とゲーム
12	運動会(1)チーム作り、種目の決定
13	運動会(2)ゲーム
14	運動会(3)ゲーム
15	運動会(4)表彰 授業全体のまとめ(実技試験)

科目名	特別研究（ゼミ） 和気	授業コード	YE0413W1	科目コード	YE0413
担当教員	和気瑞江				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	幼稚園教諭	保育士資格	

1. 主題・到達目標

児童文化は子どもの健やかな心の成長に大きく寄与するばかりでなく、生きた言葉を聞き、話すことができるようになるための表現活動としての役割を担っている。言葉の獲得期にある乳幼児が美しい日本語を聞き、話すことができるようになるために、保育者自身の感性を豊かにし、児童文化財の知識と技術を身に付ける。

- ・児童文化財についての知識を学び、保育現場で生かすことのできる作品を創る。DP③④
- ・児童文化財を通して、言葉で伝える技術を学び、実演に活かすことができる。DP③④
- ・共同作品に取り組み、他者と協力して作品を創り、実演をする。DP③④⑤

2. 授業概要

児童文化教材～パネルシアター・エプロンシアター・人形劇など～の作品製作と演技を学ぶ。教育実習を目標に個々の作品作りをするほか、全員で人形劇に取り組み、上演を行う。保育の現場で生かすことのできる作品を作る。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児のための絵本や童話・歌などにたくさん触れ、表現活動の幅を広げるようにする。制作した作品は教育実習など、実際に幼児と触れ合う機会に実践ができるよう、確実に身に付けていくように心がける。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の授業態度、熱意、作品の内容などで評価する。

授業への参加姿勢（60%）

作品発表の内容（40%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

1年の基礎表現の授業で使用した『保育者のための言語表現の技術—子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践—』（萌文書林/2,200円）は児童文化の参考書として活用することができる。

参考文献は必要に応じて紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育の現場で幼児とコミュニケーションをとる手段として、児童文化教材を使った表現活動が果たす役割は大きい。演劇的な表現が苦手な場合でも、より優れた表現者を目指すよう努力すること。

授業計画	
	<p>前期 教育実習に向けての作品製作と実演、人形劇鑑賞会(枠外)、FUYUONに向けて人形劇の作品作り開始。パネルシアターでもエプロンシアターでも、作りたい作品は自分で考えること。作品についてのアドバイスはどんなことでもします。</p>
1	オリエンテーション
2	実習に向けての作品作り①製作する作品を各自考えて作業を開始する
3	実習に向けての作品作り②作品製作
4	実習に向けての作品作り③作品を仕上げる
5	実習に向けての作品作り④作品の演じ方を考える
6	実習に向けての作品作り⑥演技を実践し固めていく
7	実習に向けての作品作り⑦試演
8	人形劇舞台鑑賞会
9	FUYUONでの上演作品の検討(人形劇)
10	人形製作～人形の構造確認とデザイン
11	人形製作①カシラ製作
12	人形製作②カシラ製作～仕上げ
13	人形製作③カシラ仕上げ～胴体・手足製作
14	人形製作④胴体仕上げ～組立て
15	小道具・大道具の作成～道具のピックアップとデザイン

授業計画	
	後期 発表に向けての仕上げと卒業に向けて、保育の現場で使うことのできる作品をできるだけたくさん作っておく。出張ボランティア公演(枠外)で幼児に向けて上演する機会も期待できる。
1	道具作り～小道具製作
2	道具作り～小道具仕上げ
3	道具作り・公演プログラムの確認
4	脚本読み合わせ～立ち稽古
5	立ち稽古～部分稽古
6	人形劇通し稽古～他の作品の確認
7	全ての作品の稽古と確認
8	リハーサル
9	上演を振り返ってミーティング
10	卒業に向けて作品作り①作りたい作品を個々に検討
11	卒業に向けて作品作り②作品をデザインする～製作
12	卒業に向けて作品作り③演技を考えながら制作
13	卒業に向けて作品作り④仕上げ
14	卒業に向けて作品作り⑤演じ方の確認
15	卒業に向けて作品作り⑥試演と総括

科目名	特別研究（ゼミ） 古田	授業コード	YE0413W2	科目コード	YE0413
担当教員	古田 賢司				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

・ 保育園、幼稚園で管楽器、打楽器などでコンサートを行う事を目標とし、コンサートの企画、楽曲の選択、編曲、合奏練習を行う。DP①、②、③、④、⑤、⑥

・ アンサンブルを通じて深く合奏を学ぶ。DP②、③、④、⑤

【ディプロマポリシーとの関連】

- 1、 豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している
- 2、 幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している
- 3、 創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている
- 4、 幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力を備えている
- 5、 社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる
- 6、 高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している

2. 授業概要

保育園、幼稚園におけるコンサートの場合、ゼミを履修した学生の楽器編成、または選曲において、既成の出版譜を使用出来ることは少なく、自分たちでピアノ譜等をベースに編曲する必要がある。そこにこのゼミのもう一つの目標があり、どのような編成、人数でも、子供たちが喜ぶ楽曲、パフォーマンスを出来るようにする。

ゼミの卒業生の意見を聞くと、この体験が現場で少なからず役立っているようである。

YOUKONにおいては、子ども向けに限らず、アンサンブルを学んだ集大成となるレベルの選曲をし、演奏をする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

特にありませんが、本番前には各自最低限の練習を行い、技術を保つこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、出席による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特にありません。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

管打楽器を用いての合奏経験があり、アンサンブルを出来る技術があること。

また基本的に各自、楽器を所有していること。

大型楽器など、短大の備品にある楽器は借用することが出来る。

授業計画	
	簡単な楽典などの基礎知識の勉強を行い、アンサンブルに役立てる。
1	ガイダンス
2	楽典(基本) 楽器を用いてのスケール練習
3	楽典(コードネーム) 楽器を用いてアルペジオ(分散和音)練習
4	楽典 各楽器の調性、特性について
5	展開 簡単なピアノ曲を楽器を使って実践する。
6	編曲 リズムのパターンを定める。
7	編曲 和音の構成を考える。
8	編曲 ベースラインの作成、創作。
9	幼稚園、保育園でのコンサートをイメージし選曲を考える。
10	楽曲の素材集めを行う。
11	楽曲の和音、リズムの方向性を考える。
12	依頼演奏に向けてのプログラミング。
13	プログラムの構成を精査する。
14	MCや手遊びなど演奏以外の要素を確定。
15	本番通りにランスルーを行い、その後意見交換を行う。

授業計画	
	訪問演奏が10, 11月にある予定なので、そちらに向けての練習、準備を行う。
1	訪問演奏に向けてのプログラミング。
2	幼児のための楽曲から数曲ピックアップし選曲をする。
3	選曲した楽曲のリズム、和音の確定。
4	ポップス、その時に流行っている楽曲からピックアップする。
5	編曲の方向性の確定。
6	アンサンブルのクオリティを上げるための練習。
7	MCの確定。
8	ランスルー、リハーサルを行い、録画などをして客観的にパフォーマンスを確認する。
9	訪問演奏の実務のための準備。
10	訪問演奏の実践。
11	訪問演奏の反省、および意見交換。
12	YOUKON!のための選曲。
13	YOUKON!のためのリハーサル。
14	YOUKON!のステージリハおよび本番。
15	1年間のまとめ、総括。

科目名	特別研究（ゼミ） 秋山	授業コード	YE0413F1	科目コード	YE0413
担当教員	秋山 徹				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

美しく魅力ある「声」を研究しよう！”声を磨き、音楽技能や音楽表現力を高めるゼミ”

保育者にとって、美しい声で話すことや歌うことは大切な要素である。

美しい声と言っても、どのような声が良いと言われる声なのか。どのようにしたら魅力ある声を出すことができるのかを、ソロ、デュエット、アンサンブル曲などを演習しながら研究を重ね、以下を身につける事を到達目標とする。

- ・歌唱技術を向上させて、自身の声を活かした理想的な声が出せるようになる。(DP1~6)
- ・声と歌唱に自信を持ち、歌がますます好きになる。(DP1~6)

2. 授業概要

2019年度活動内容

通年 個人ならびにグループによる希望者レッスン（金曜日Ⅱ限・Ⅲ限・Ⅳ限）

- ・10月 乳幼児向けコンサートの企画ならびに出張演奏実習
- ・11月 FUYUON 音楽劇「浦島太郎と仲間たち」の企画、演奏実習
- ・1月 YOUKONにおけるソロやアンサンブルの演奏実習

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品の演習や作品研究に取り組むこと。

想定必要時間は2時間程度となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習＞（評価の50%）

作品研究と演奏実習（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

研究作品の楽譜・資料を用意すること。

他、参考文献については適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。

授業計画	
	指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	ガイダンス
2	前期実習計画案作成
3	研究作品アンサンブル演習 (1)
4	研究作品アンサンブル演習 (2)
5	研究作品アンサンブル演習 (3)
6	研究作品試演会 (1)
7	研究作品アンサンブル演習 (4)
8	研究作品アンサンブル演習 (5)
9	研究作品アンサンブル演習 (6)
10	研究作品試演会 (2)
11	研究作品ソロ・デュエット演習 (1)
12	研究作品ソロ・デュエット演習 (2)
13	研究作品ソロ・デュエット演習 (3)
14	研究作品試演会 (3)
15	前期演習曲まとめ

授業計画	
	指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	後期実習計画案作成
2	演奏実習作品研究 (1)
3	演奏実習作品研究 (2)
4	演奏実習作品研究 (3)
5	演奏実習 (1)
6	演奏実習事後研究
7	音楽劇作品研究 (1)
8	音楽劇作品研究 (2)
9	音楽劇作品研究 (3)
10	音楽劇作品実習
11	音楽劇作品事後研究
12	演習・作品研究まとめ (1)
13	演習・作品研究まとめ (2)
14	演習・作品研究まとめ (3)
15	総括

科目名	特別研究（ゼミ） 高橋・井上	授業コード	YE0413F2	科目コード	YE0413
担当教員	高橋 優子・井上 眞理子				
授業形態		配当学年	2	期間	
単位数	2	科目分類		幼稚園教諭	保育士資格

1. 主題・到達目標

<主題>

2つのテーマから子どもや保育を探究します。

- ①子どもが主体性を発揮し、生き活きと生活を営める保育について、子ども理解や保育者の援助、保育環境など様々な視点から探究する。
 ②子どもを取り巻く社会にも目を向けて広い視点で子どもの育ちについて探究する。

<到達目標>

- ・子ども一人一人が主体性を発揮できる保育実践について自分の考えを述べられる。(DP①、②、③、④、⑤)
- ・社会を構成する一人の大人として、豊かな子どもの育ちを促す環境や大人の役割について自分の考えを明確にできる。(DP①、③、④、⑥)

2. 授業概要

「子ども一人一人が尊重され主体性を存分に発揮できる環境や保育者の援助について」「子どもの立場に立った子ども理解の限界性とそれでもなお子どもを理解し援助することについて」様々な角度から検討し、理解を深める。

多様な保育方法を実践する現場に見学に行き、園長先生や保育者の方々に話を聞くことで、自分の保育観を深める。

子どもを取り巻く社会的課題に目を向け、子育て支援や地域とつながる保育実践など、実際に見学をする中で理解を深める。1年間を通して自分の関心のあるテーマについて理論と実践を結びつけて探究し、自分の考えをまとめて発表を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げたテーマについて、実際の事例に基づき自分の考えをまとめる。保育現場等へのフィールドワークを行い、気づきや学びをレポートにまとめる。授業外学習に必要な時間は各回異なるが、平均するとおよそ120分程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

・まとめレポートの内容（評価の40%）

・平常点（評価の60%）

平常点は、グループディスカッションにおける貢献度、保育現場等におけるフィールドワークにおける参加姿勢、授業テーマごとのレポートや発表内容によって総合的に評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に用いず、授業内にて資料を配布する。

参考文献については、授業内にて適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習での体験をさらに振り返ったり深めたりしたい人にお勧めする。子どもの主体性について学ぶ皆さんは、受け身ではなく主体的に授業に参加することを望む。一つのテーマについて多面的に深く探究するため、多様な考えを柔軟に吸収する姿勢で授業に臨んで欲しい。

また、授業の空き時間などを活用して、保育現場にフィールドワークに行くなど意欲的な参加姿勢を持つことも期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション： 授業の進め方、自分の探求テーマの検討
2	共に学ぶ仲間を知る（探求テーマの発表）
3	子ども理解と保育者の援助の探求① 子どもの見方になること
4	子ども理解と保育者の援助の探求② 子どもの味方になること
5	子ども理解と保育者の援助の探求③ 子どもの立場に立つことの限界性と可能性
6	保育現場の見学① －それぞれの探求テーマから検討する－
7	保育現場の見学の振り返り
8	子どもの主体性を尊重するとは －実習の経験から考察する－
9	子どもの主体性を尊重する援助とは
10	子どもの主体性を尊重する環境とは
11	保育現場の見学② －それぞれの探求テーマからの検討する－
12	保育現場の見学の振り返り
13	探求テーマの中間発表準備
14	探求テーマに関する中間発表
15	低年齢児クラスにおける子ども主体の保育とは

授業計画	
	【後期】
1	低年齢児クラスにおける保育の実際 －実習における子どもとの関わりを振り返る－
2	保育現場の見学③ －乳児保育の実際－
3	保育現場の見学の振り返り －現場の保育者の話を聞く－
4	子どもを取り巻く社会的課題 後期フィールドワークの計画立案
5	地域とつながる保育現場の取り組み① －地域とつながり活性化する保育－
6	保育現場の見学④ －地域とつながり活性化する保育－
7	保育現場の見学の振り返り
8	子育て支援ひろば －おもちゃ広場の取り組みについて－（見学）
9	おもちゃ広場の見学の振り返り
10	地域とつながる保育の実践② －園が地域の拠点となる取り組み（見学）－
11	地域とつながる保育の実践② －園が地域の拠点となる取り組み（振り返り）－
12	保育現場の見学⑤ －それぞれの探求テーマから検討する－
13	探求テーマに関するグループ討議
14	探求テーマのまとめ発表の準備
15	探求テーマのまとめ発表

科目名	パイプオルガン 1	授業コード	YE0414**	科目コード	YE0414
担当教員	荻野 由美子・川越 聡子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

【主題】

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。

【到達目標】

本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。DP③

2. 授業概要

個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。

12月にクリスマスコンサートを開催するほか、オーディションで選抜された学生は1月のYOUKONで前田ホールのオルガンを演奏することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。

授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。想定される時間は90分程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）

授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、バッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲。

個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上

また、J. S. バッハ「インヴェンション」、または同程度のバッハの楽曲を勉強した経験があること。（1回目の授業で、バッハのクラヴィーア作品より任意の1曲を演奏してもらいます。）

5人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1（タッチ）
3	奏法の基礎2（ペダル奏法）
4	奏法の基礎3（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲（1）時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲（2）和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲（3）レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲（4）表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲（5）仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲（1）時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲（2）和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲（3）レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲（4）表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲（5）仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある

授業計画	
	【後期】
1	ツイボリの楽曲（1）形式、和声法を中心に
2	ツイボリの楽曲（2）奏法を中心に
3	スタンリーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
4	スタンリーの楽曲（2）奏法を中心に
5	フィッシャーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
6	フィッシャーの楽曲（2）奏法を中心に
7	パッヘルベルの楽曲（1）形式、和声法を中心に
8	パッヘルベルの楽曲（2）奏法を中心に
9	J.S. バッハの楽曲（1）形式、和声法を中心に
10	J.S. バッハの楽曲（2）奏法を中心に
11	クリスマスコンサートの準備（1）プログラミング
12	クリスマスコンサートの準備（2）全体の流れの確認
13	フランクの楽曲（1）形式、和声法を中心に
14	フランクの楽曲（2）奏法を中心に
15	1年間の仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある

科目名	パイプオルガン2	授業コード	YE0415**	科目コード	YE0415
担当教員	荻野 由美子・川越 聡子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	-

1. 主題・到達目標

【主題】

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。

【到達目標】

本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。DP③

2. 授業概要

さらなる技術の向上を目指し、個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。オーディションで選抜された学生は1月のYOUKONで前田ホールオルガンを演奏することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。

授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。想定される時間は90分程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い）（評価の50%）

授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、バッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲を含む課題集を、授業内で配布する。個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上

また、J. S. バッハ「インヴェンション」を勉強した経験があること。（1回目の授業で、バッハのクラヴィーア作品より任意の1曲を演奏する。）

5人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1（タッチ）
3	奏法の基礎2（ペダル奏法）
4	奏法の基礎3（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲(2)和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲(4)表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲(5)仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲(2)和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲(4)表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】
1	J. S. バッハの楽曲 (1) 時代背景、様式を中心に
2	J. S. バッハの楽曲 (2) 形式、和声を中心に
3	J. S. バッハの楽曲 (3) 奏法を中心に
4	J. S. バッハの楽曲 (4) レジストレーション、表現法を中心に
5	J. S. バッハの楽曲 (5) 表現の掘り下げ
6	J. S. バッハの楽曲 (6) 仕上げとまとめ
7	課題曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に
8	課題曲を学ぶ(2) 形式、和声を中心に
9	課題曲を学ぶ(3) 奏法を中心に
10	課題曲を学ぶ(4) レジストレーション、表現法を中心に
11	課題曲を学ぶ(5) 表現法の掘り下げ
12	課題曲を学ぶ(6) 仕上げとまとめ
13	演奏会の準備、プログラミング
14	演奏会の総練習
15	演奏会とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。